

中間市の地域福祉に関する 意識調査結果報告書

令和 4 年 3 月

中 間 市

目 次

第 1 章 調査の概要	1
第 2 章 調査の結果	2
I. 回答者の基本属性等について.....	2
II. 地域生活について.....	9
III. 地域活動への参加について.....	30
IV. 福祉サービスについて.....	46
V. 災害時の対応について.....	53
VI. 福祉施策全般について.....	58
VII. 再犯防止対策について.....	65
VIII. 自由回答	67
第 3 章 調査票.....	85

第1章 調査の概要

I. 調査の目的

市民の地域における暮らしや地域福祉についてのご意見、地域福祉活動への参加意向などを把握することによって、今後の地域福祉推進の参考とするため

II. 調査の対象

住民基本台帳に基づき、満20歳以上の市民の中から無作為抽出した2,500人

III. 調査の方法

郵送による配布、回収

IV. 調査の期間

令和4年2月3日（木）から令和4年2月18日（金）まで
（ただし、令和4年3月1日（火）回収分までを集計に含めている。）

V. 回収の結果

配布数：2,500件 有効回収数：884件 回収率：35.4%

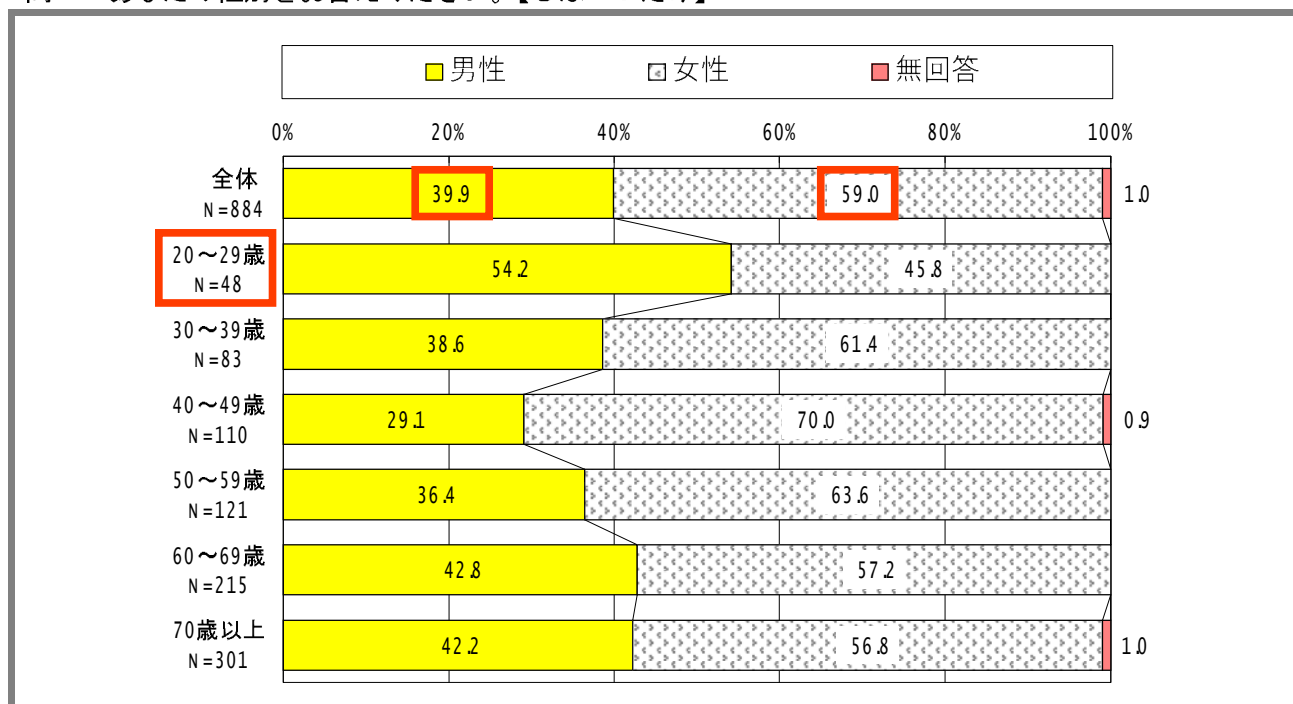
VI. 報告書の見方

- （1）回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- （2）全体集計の基数（N）には属性不明者も含まれるため、クロス集計の内訳の基数の合計とは必ずしも一致しない。
- （3）複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
- （4）グラフやコメントにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

第2章 調査の結果

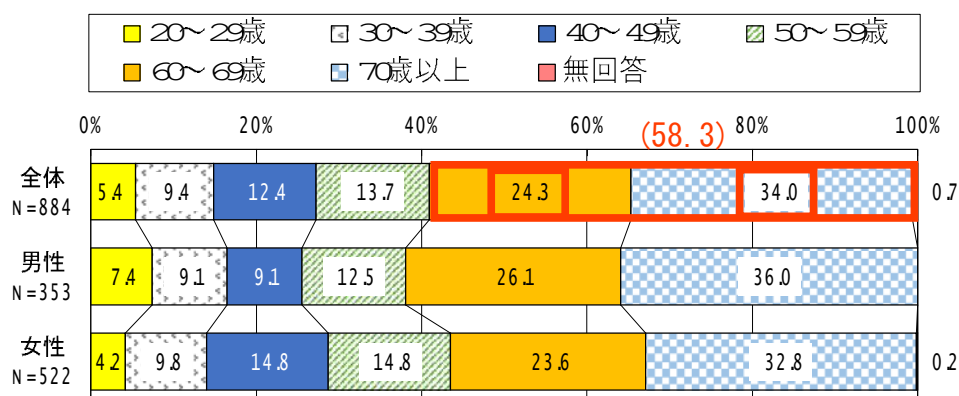
I. 回答者の基本属性等について

問1 あなたの性別をお答えください。【〇は1つだけ】

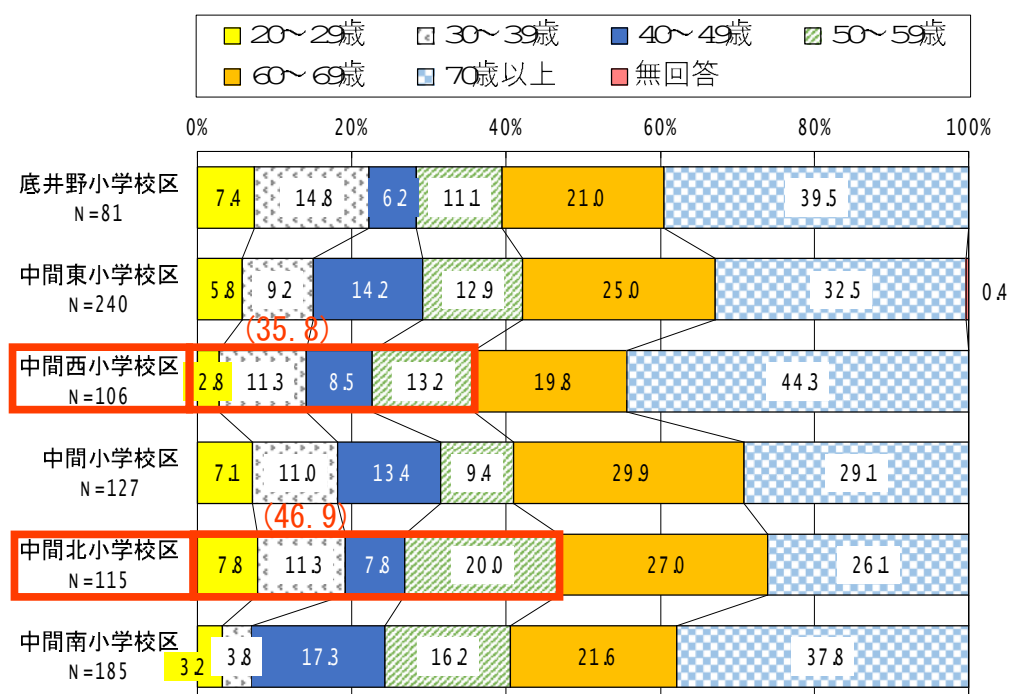


- 回答者の性別については、男性が39.9%、女性が59.0%となっている。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」のみ男性の割合の方が高くなっている。

問2 あなたの年齢をお答えください。【〇は1つだけ】（令和4年2月1日時点）

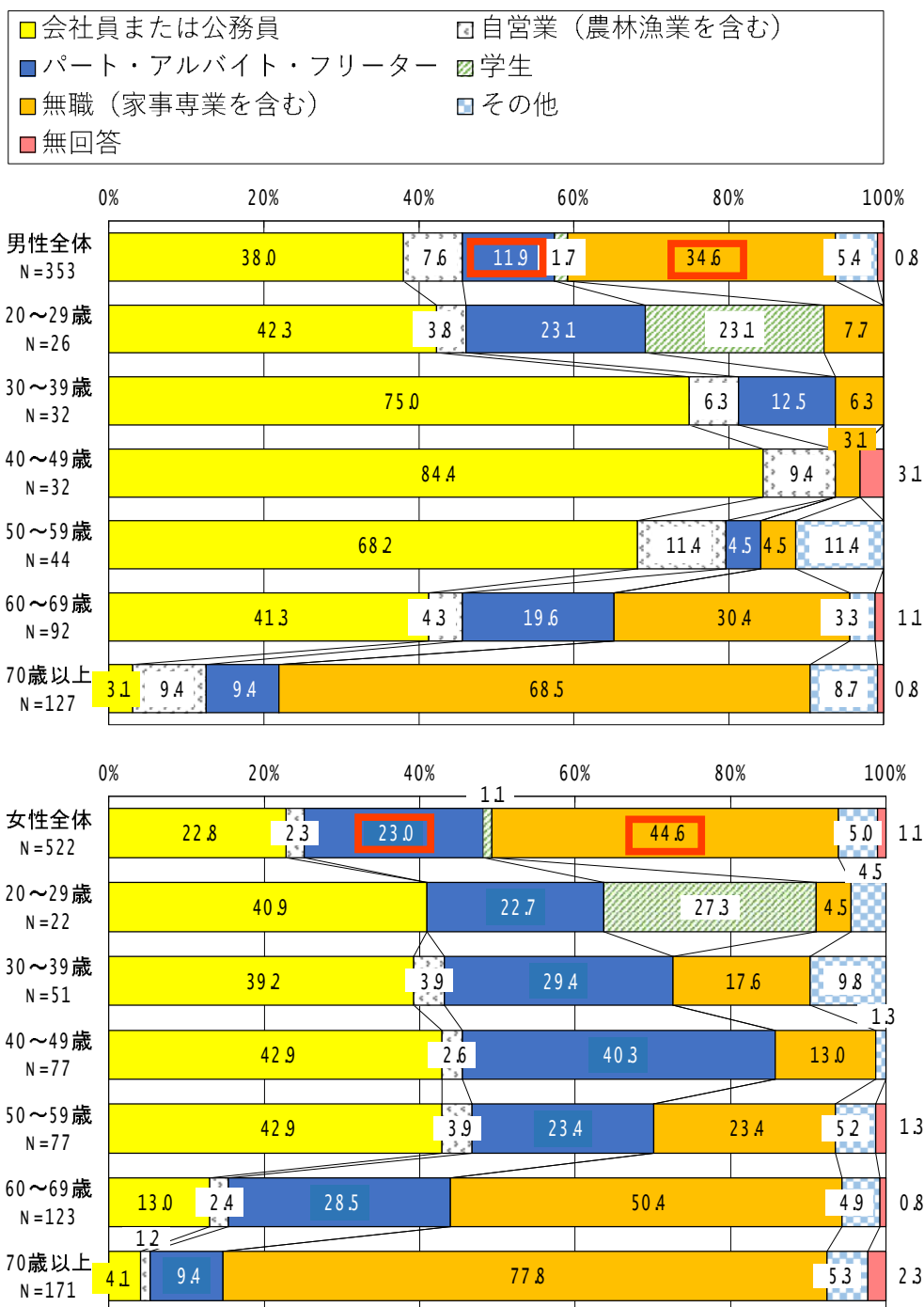


《居住小学校区別クロス集計結果》



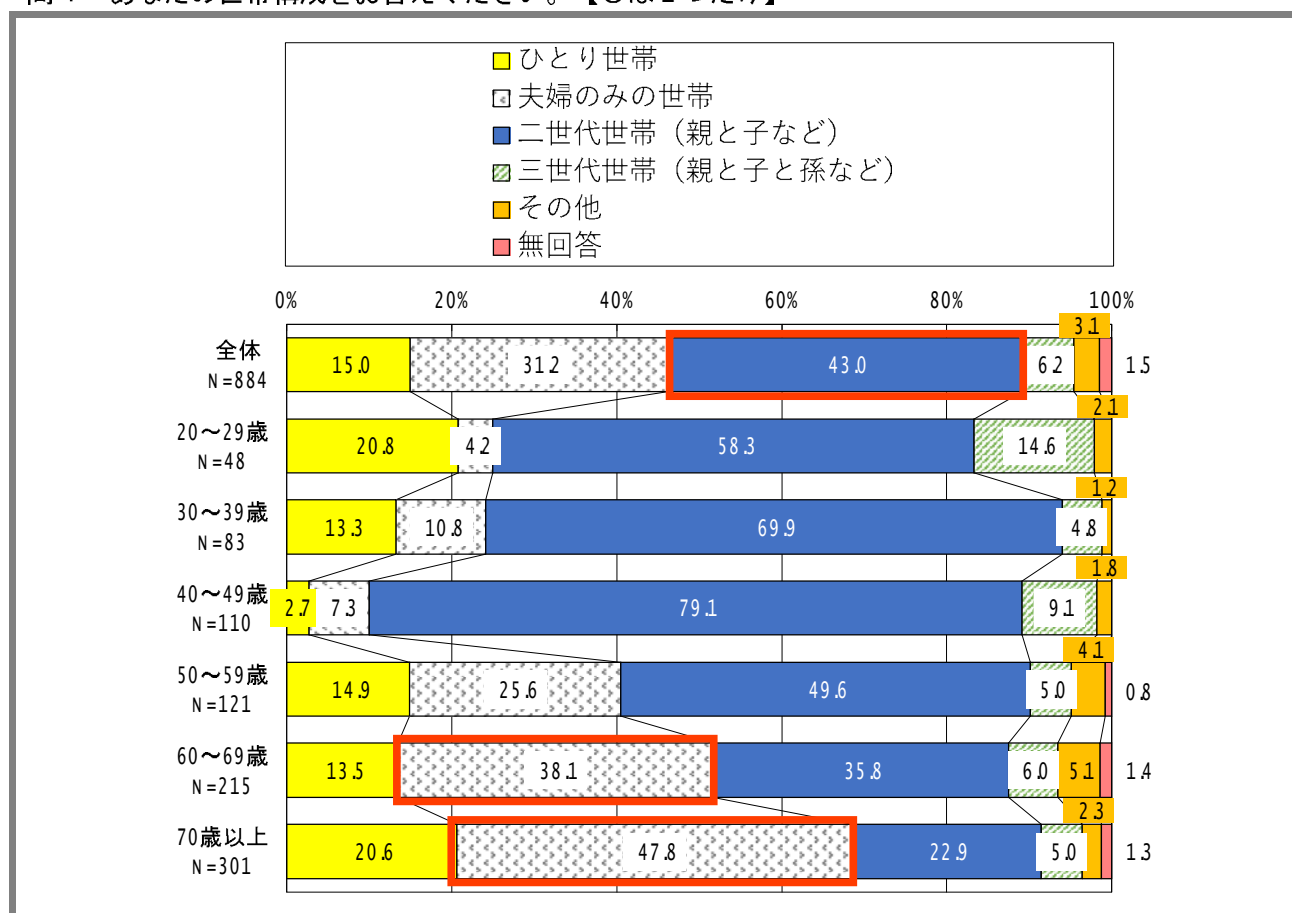
- 回答者の年齢構成は上のとおりで、「70 歳以上」が全体の 34.0%、「60～69 歳」（24.3%）を合わせた 60 歳以上が全体の 58.3%を占めている。
- 居住小学校区別に見ると、60 歳未満の割合が最も高かったのは「中間北小学校区」（46.9%）、最も低かったのは「中間西小学校区」（35.8%）となっている。

問3 あなたの職業をお答えください。【〇は1つだけ】



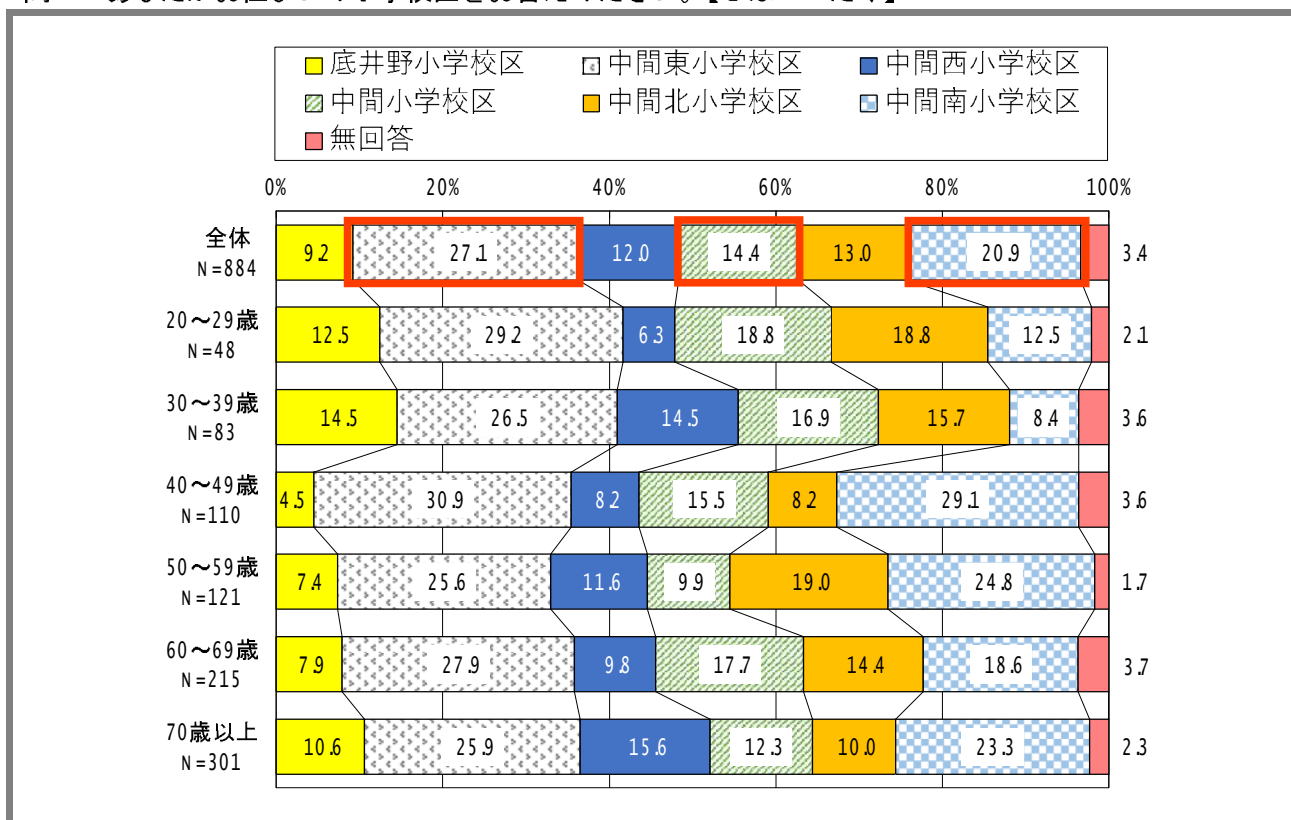
- 回答者の職業についての男女別・年齢階層別の集計結果は上のとおりで、女性は男性に比べ「無職（家事専業を含む）」のほか、「パート・アルバイト・フリーター」の割合が高くなっている。

問4 あなたの世帯構成をお答えください。【〇は1つだけ】



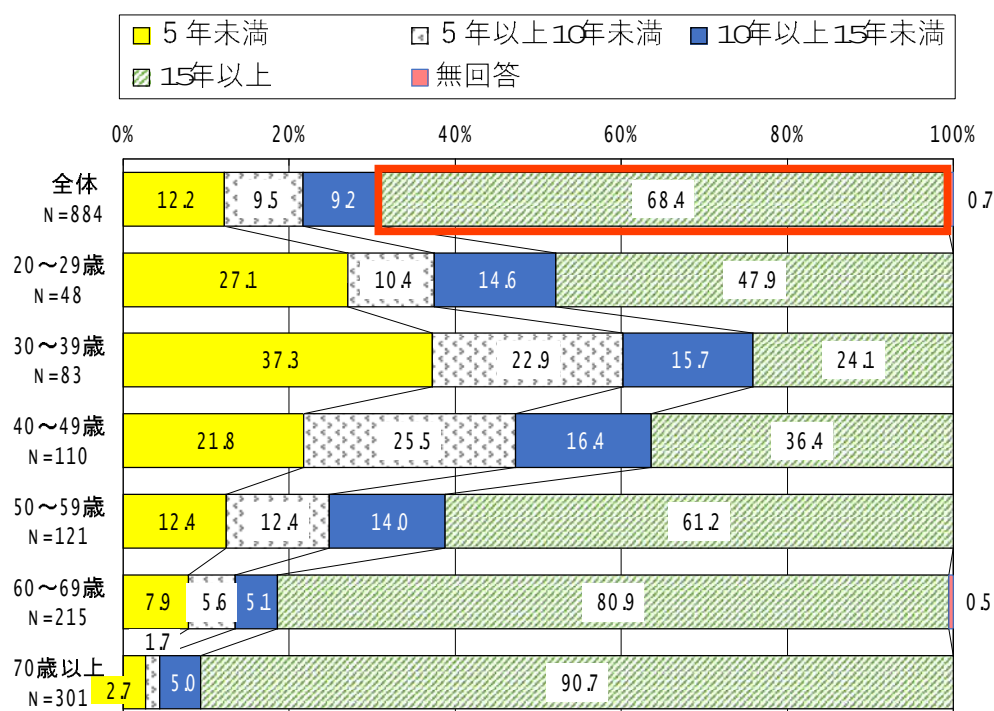
- 回答者の世帯構成は、全体では「二世帯世帯」が 43.0%と最も多くなっているが、年齢階層別に見ると、60歳以上は「夫婦のみの世帯」の割合が高くなっている。

問5 あなたがお住まいの小学校区をお答えください。【〇は1つだけ】



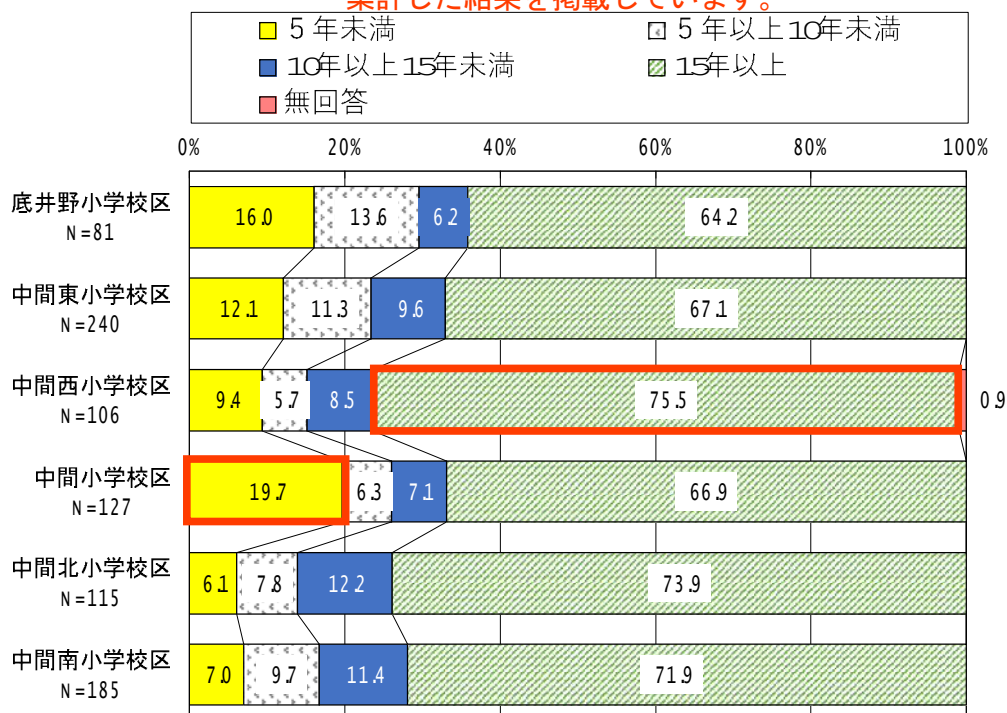
- 回答者の居住小学校区の分布は上のおりで、「中間東小学校区」と回答した人の割合が全体の27.1%と最も高く、「中間南小学校区」が20.9%、「中間小学校区」が14.4%と続いている。

問6 現在の場所での居住年数を教えてください。【〇は1つだけ】



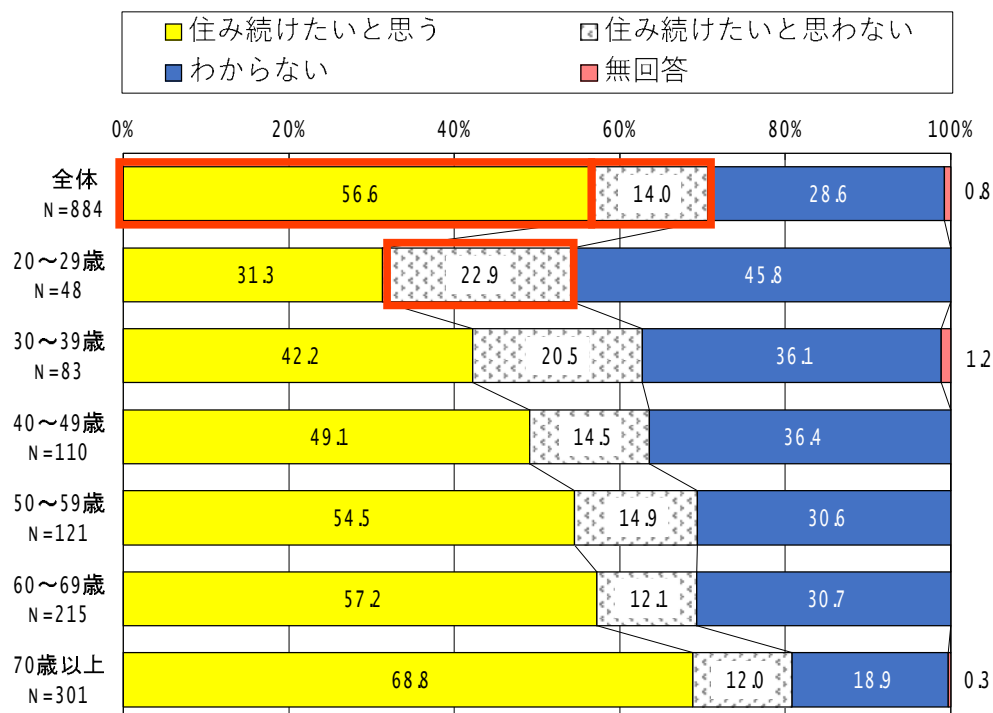
※クロス集計とは・・・収集した回答データを、設問を
かけ合わせて集計することを言います。

《居住小学校区別クロス集計結果》※ここでは居住年数と校区との関連性を調べるために
集計した結果を掲載しています。

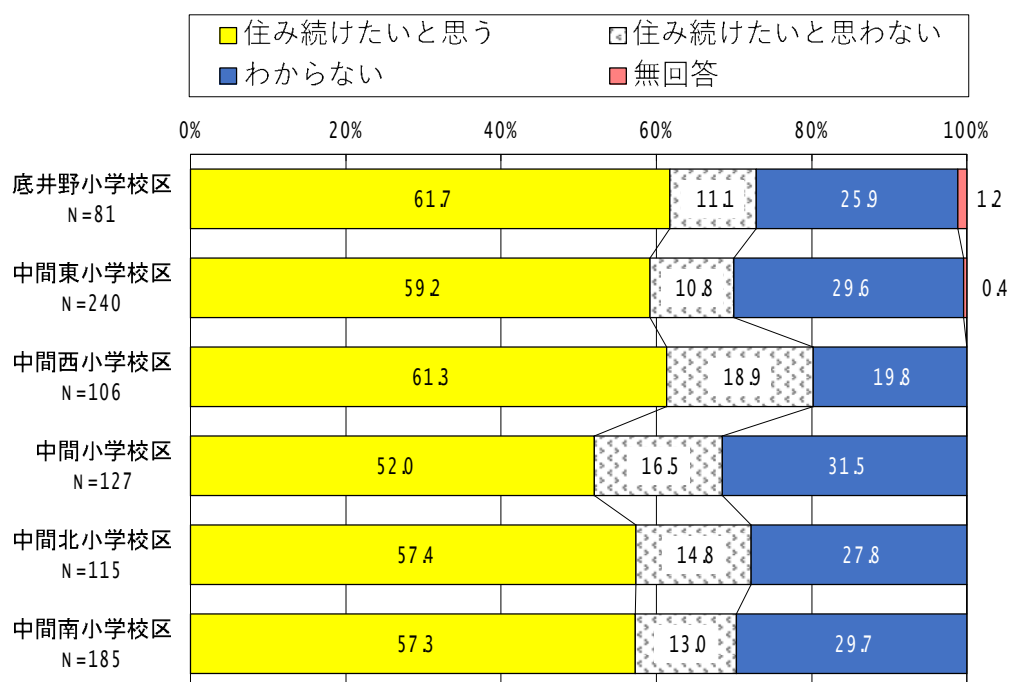


- 回答者の現在の場所での居住年数は上のとおりで、「15年以上」と回答した人の割合が全体の68.4%を占めており、30歳以上は概ね年齢階層が高くなるにつれて居住年数も高くなっている。
- 居住小学校区別に見ると、居住年数「15年以上」の割合が最も高かったのは「中間西小学校区」で75.5%、「5年未満」の割合が最も高かったのは「中間小学校区」で19.7%となっている。

問7 現在の場所に住み続けたいと思いますか。【〇は1つだけ】



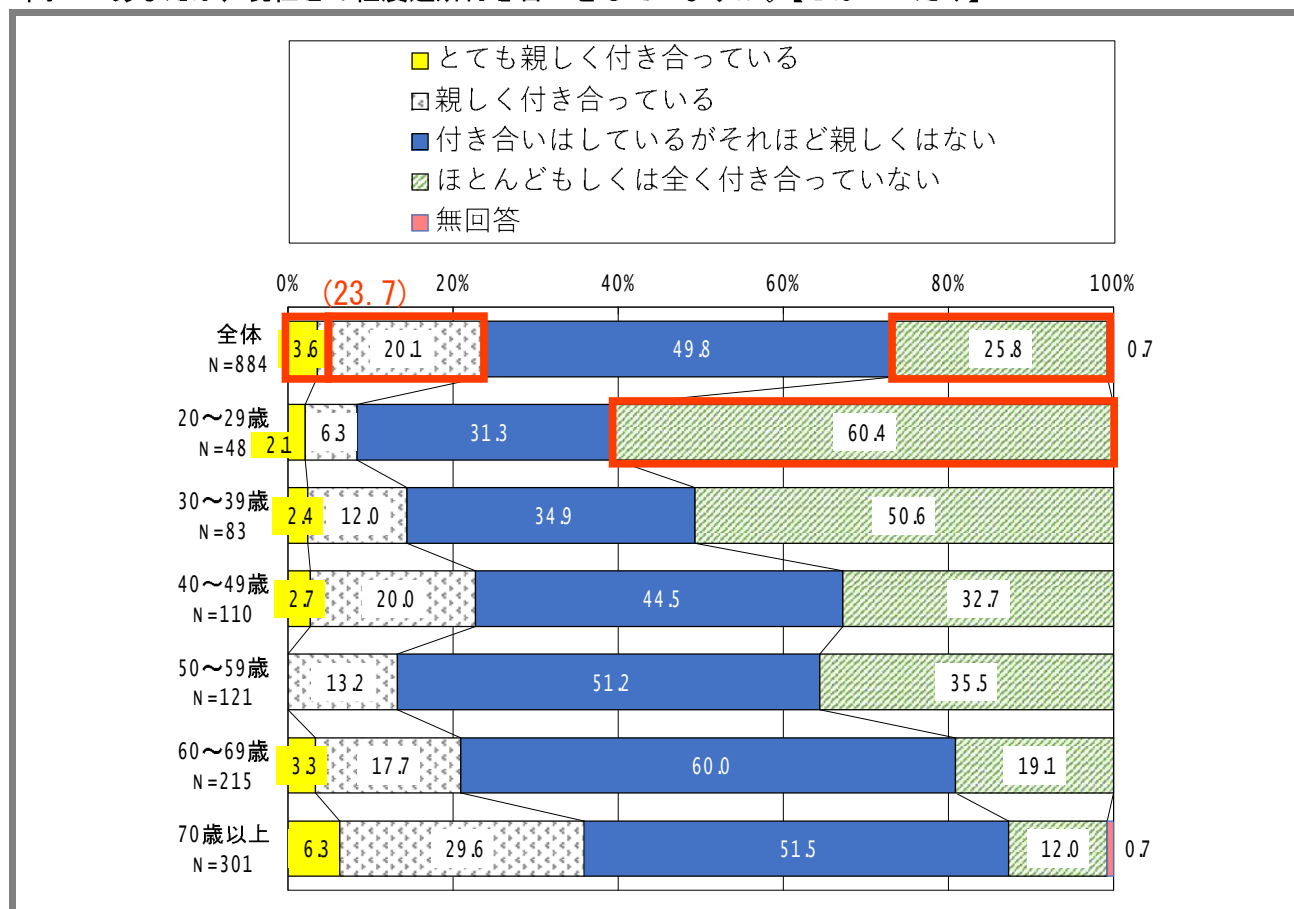
《居住小学校区別クロス集計結果》



- 現在の場所に「住み続けたいと思う」と回答した人の割合は全体の 56.6%を占めており、年齢階層が高くなるにつれてその割合も高くなっている。
- 「住み続けたいと思わない」と回答した人の割合は全体の 14.0%で、年齢階層別に見ると「20～29歳」が 22.9%と最も高くなっている。

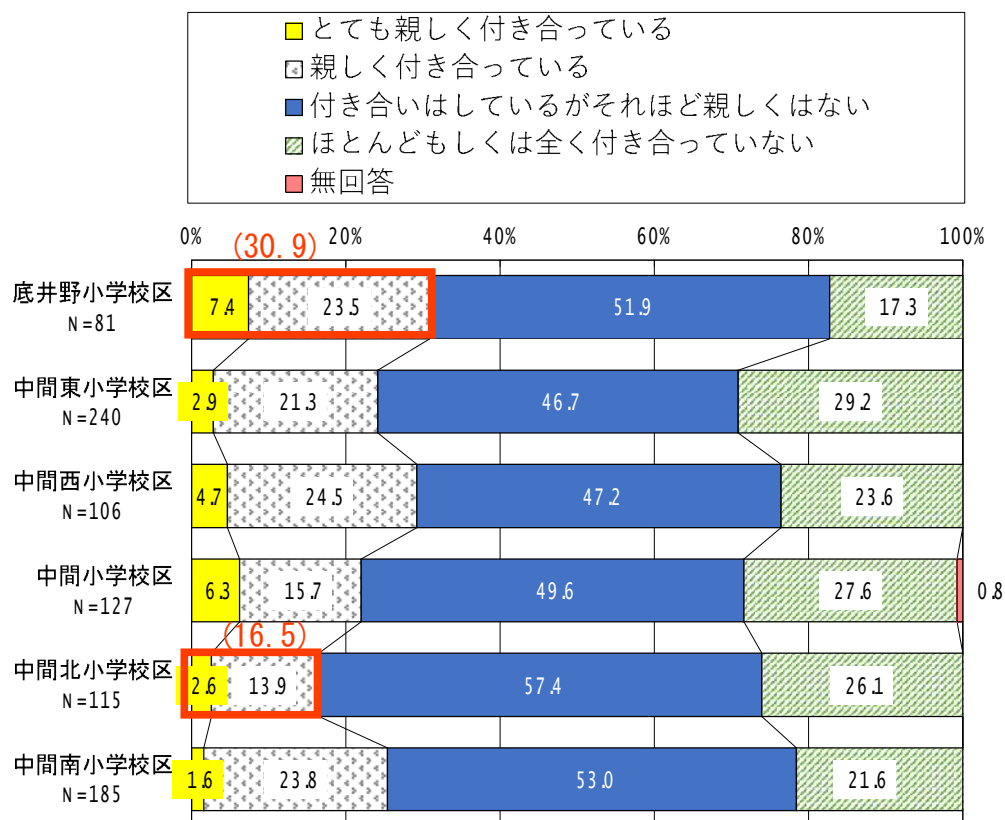
Ⅱ. 地域生活について

問8 あなたは、現在どの程度近所付き合いをしていますか。【〇は1つだけ】



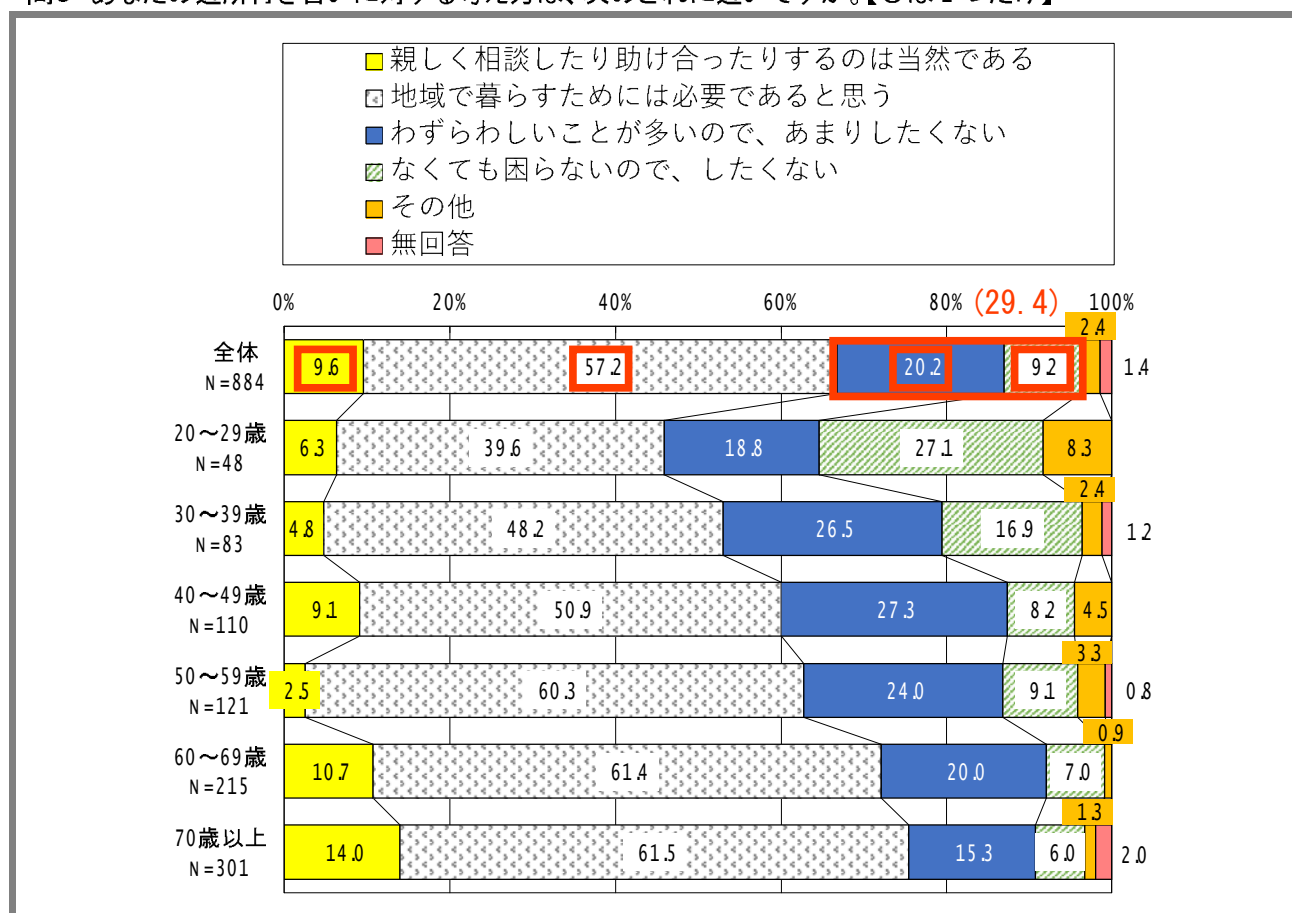
- 近所付き合いの程度をたずねたところ、「とても親しく付き合っている」と回答した人は全体の3.6%で、「親しく付き合っている」と回答した人（20.1%）を合わせると23.7%となる。「ほとんどもしくは全く付き合っていない」と回答した人は25.8%であった。
- 年齢階層別に見ると、概ね年齢階層が低くなるに連れて近所付き合いの親密度が低下する傾向にあり、「20～29歳」では「ほとんどもしくは全く付き合っていない」と回答した人の割合が60.4%を占めている。

《居住小学校区別クロス集計結果》



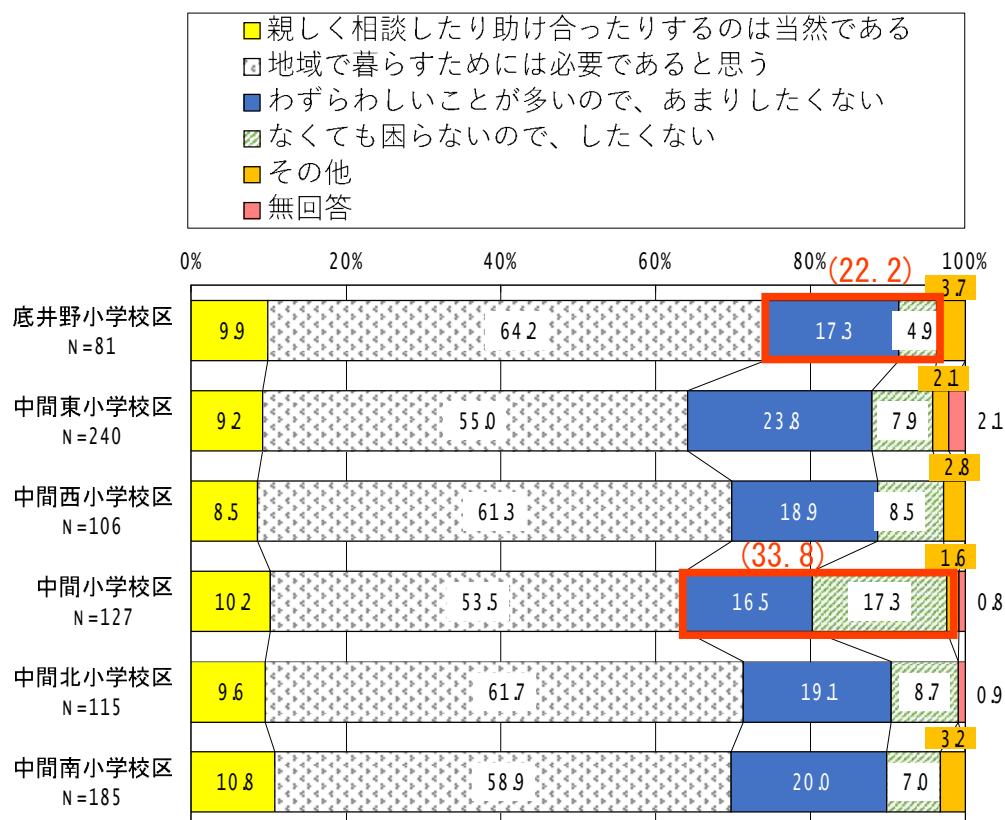
- 居住小学校区別に見ると、「とても親しく付き合っている」または「親しく付き合っている」と回答した人の割合が高かったのは「底井野小学校区」(30.9%)で、最も低かったのは「中間北小学校区」(16.5%)となっている。

問9 あなたの近所付き合いに対する考え方は、次のどれに近いですか。【〇は1つだけ】



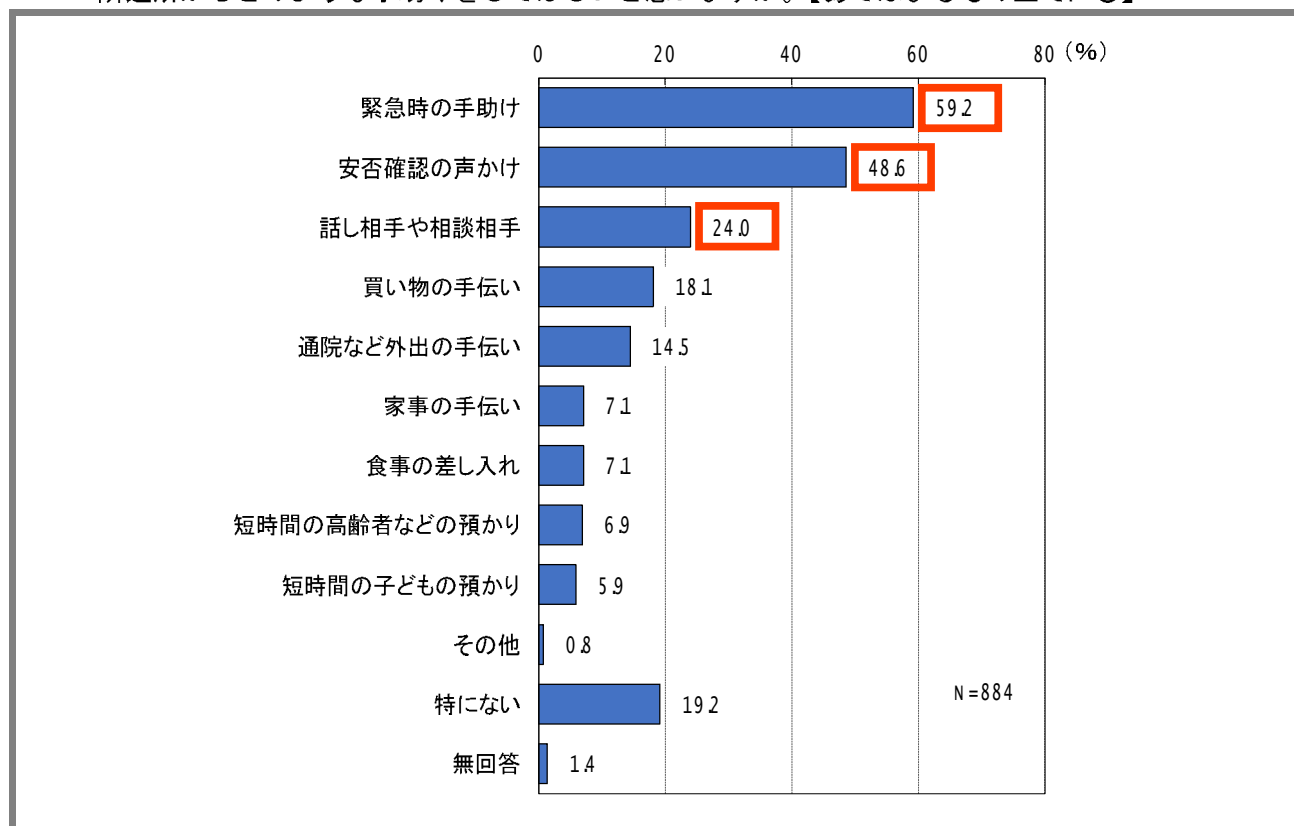
- 近所付き合いに対する考え方については、「地域で暮らすためには必要である」という回答が全体の57.2%と最も多く、「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」という回答は9.6%となっている。
- 一方、「わずらわしいことが多いので、あまりしたくない」(20.2%)、「なくても困らないので、したくない」(9.2%)という回答は合わせて29.4%となっている。
- 年齢階層別に見ると、年齢階層が低くなるにつれて「なくても困らないので、したくない」または「わずらわしいことが多いので、あまりしたくない」という回答割合が高くなっている。

《居住小学校区別クロス集計結果》



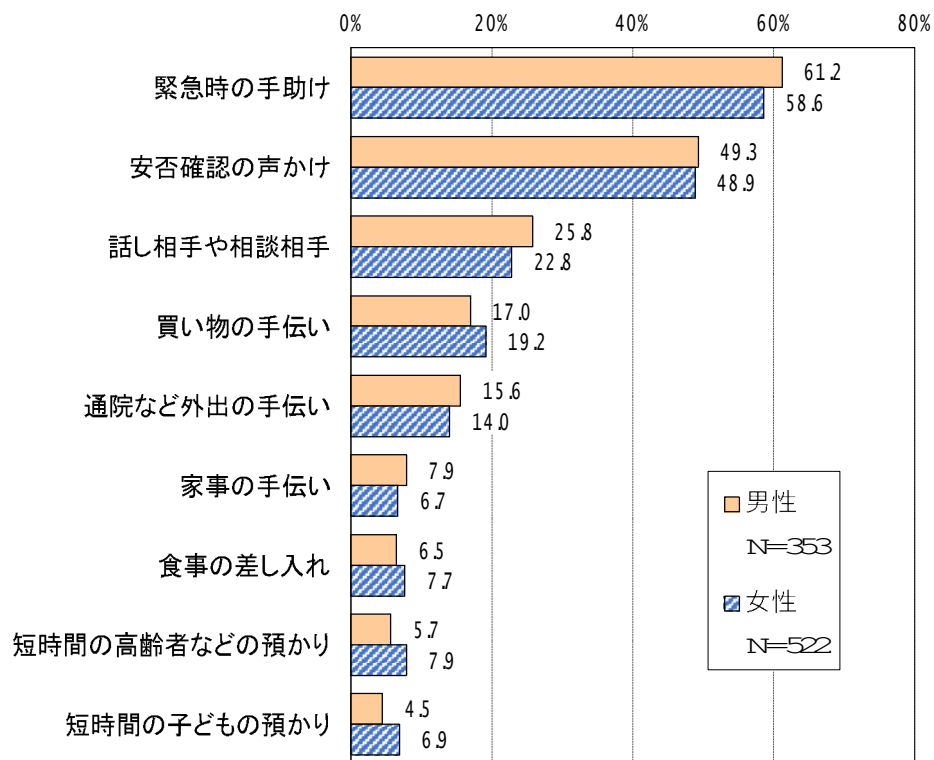
- さらに、居住小学校区別に見ると、「なくても困らないので、したくない」または「わずらわしいことが多いので、あまりしたくない」と回答した人の割合が最も高かったのは「中間小学校区」(33.8%)、最も低かったのは「底井野小学校区」(22.2%)となっている。

問10 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域や隣近所からどのような手助けをしてほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】



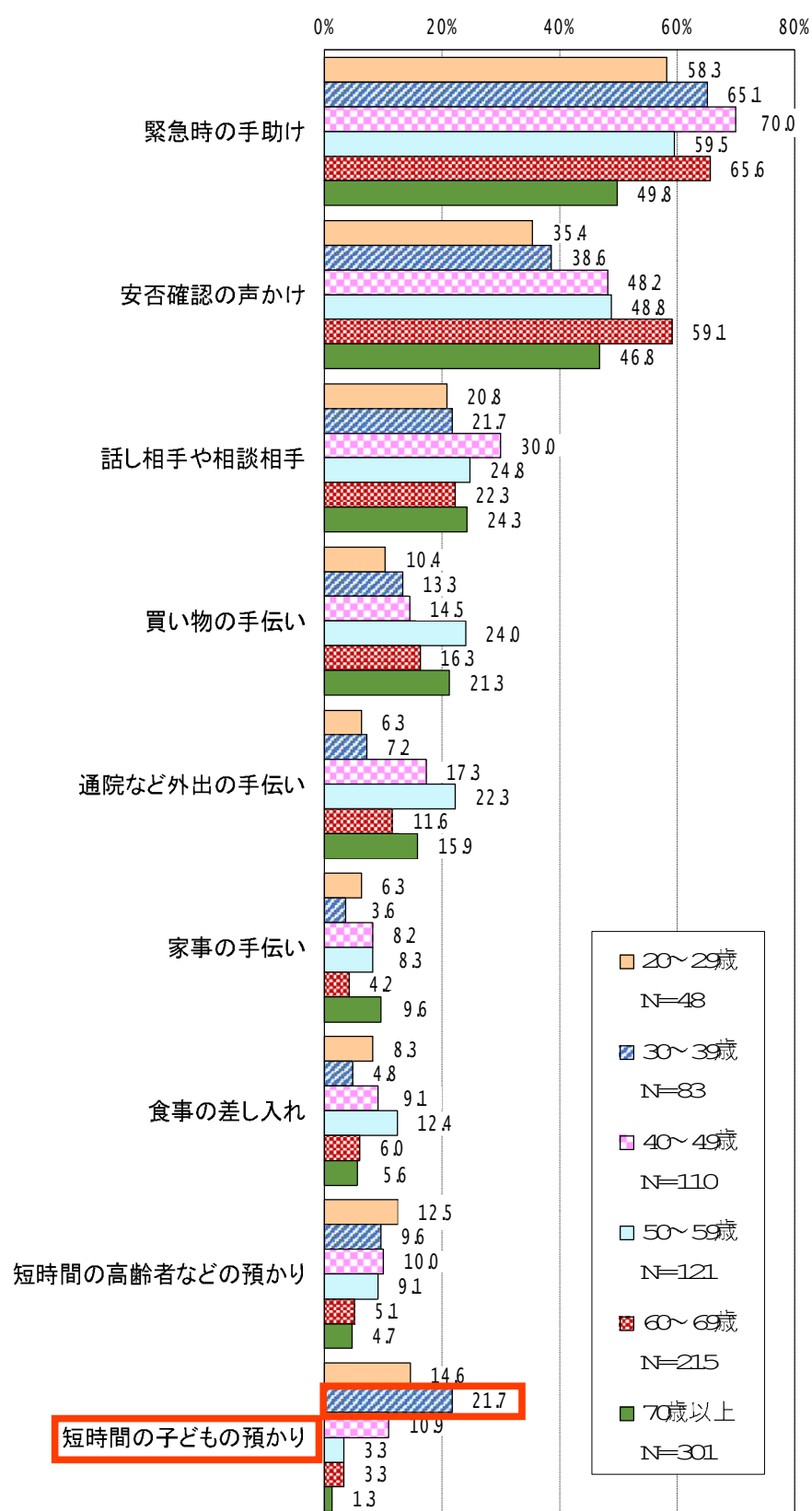
- 自分や家族が高齢や病気、子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域でしてほしい手助けについては、「緊急時の手助け」が59.2%と最も多く、以下、「安否確認の声かけ」(48.6%)、「話し相手や相談相手」(24.0%)と続いている。

《男女別クロス集計結果》



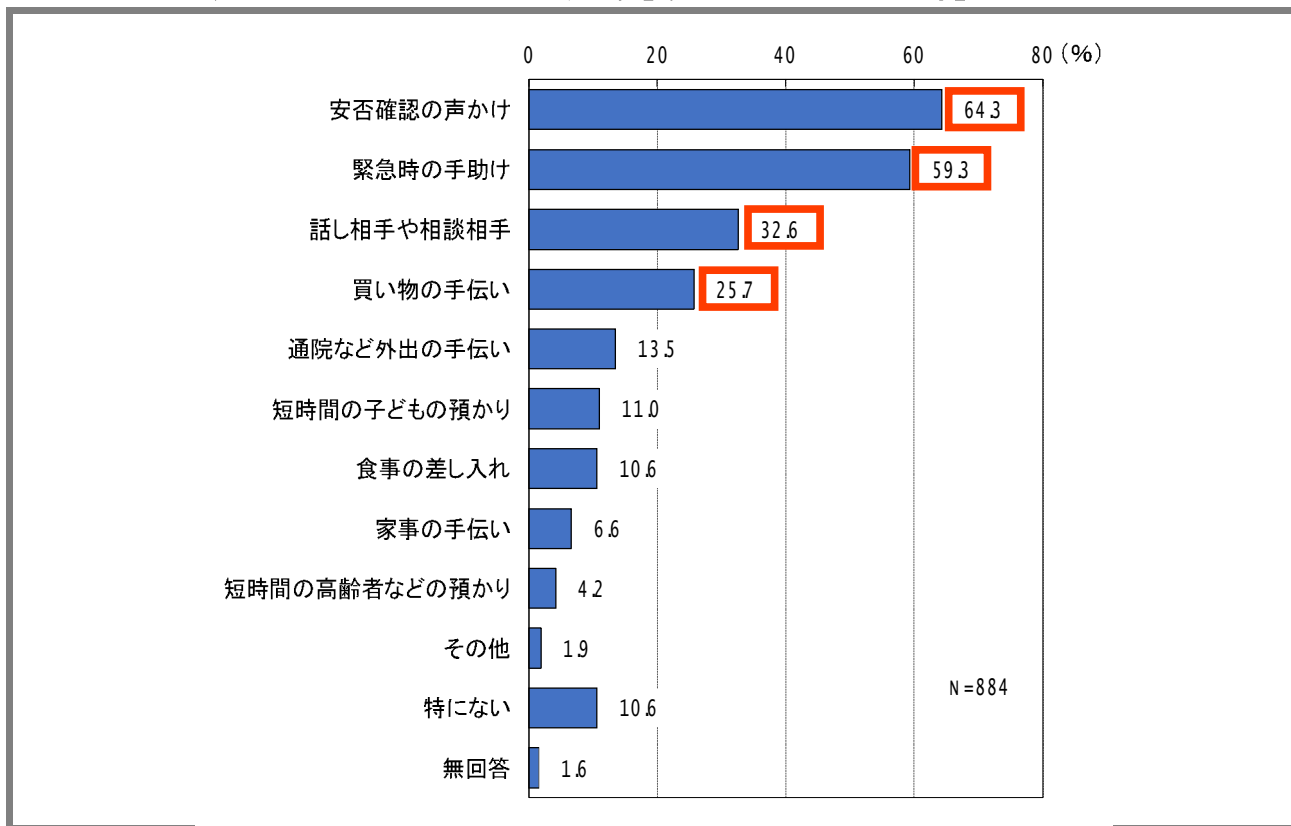
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は認められない。

《年齢階層別クロス集計結果》



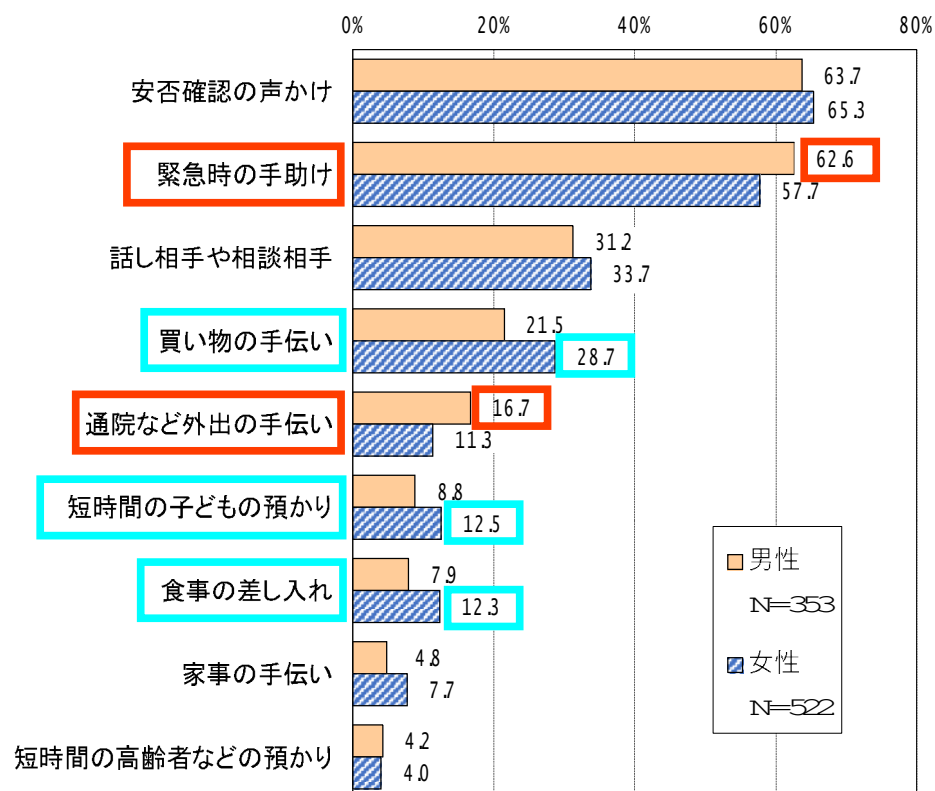
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は認められないが、「短時間の子どもの預かり」は「30～39歳」の回答割合がやや高くなっている。

問11 隣近所に、高齢者や障がいのある人の介護、子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。【あてはまるもの全てに○】



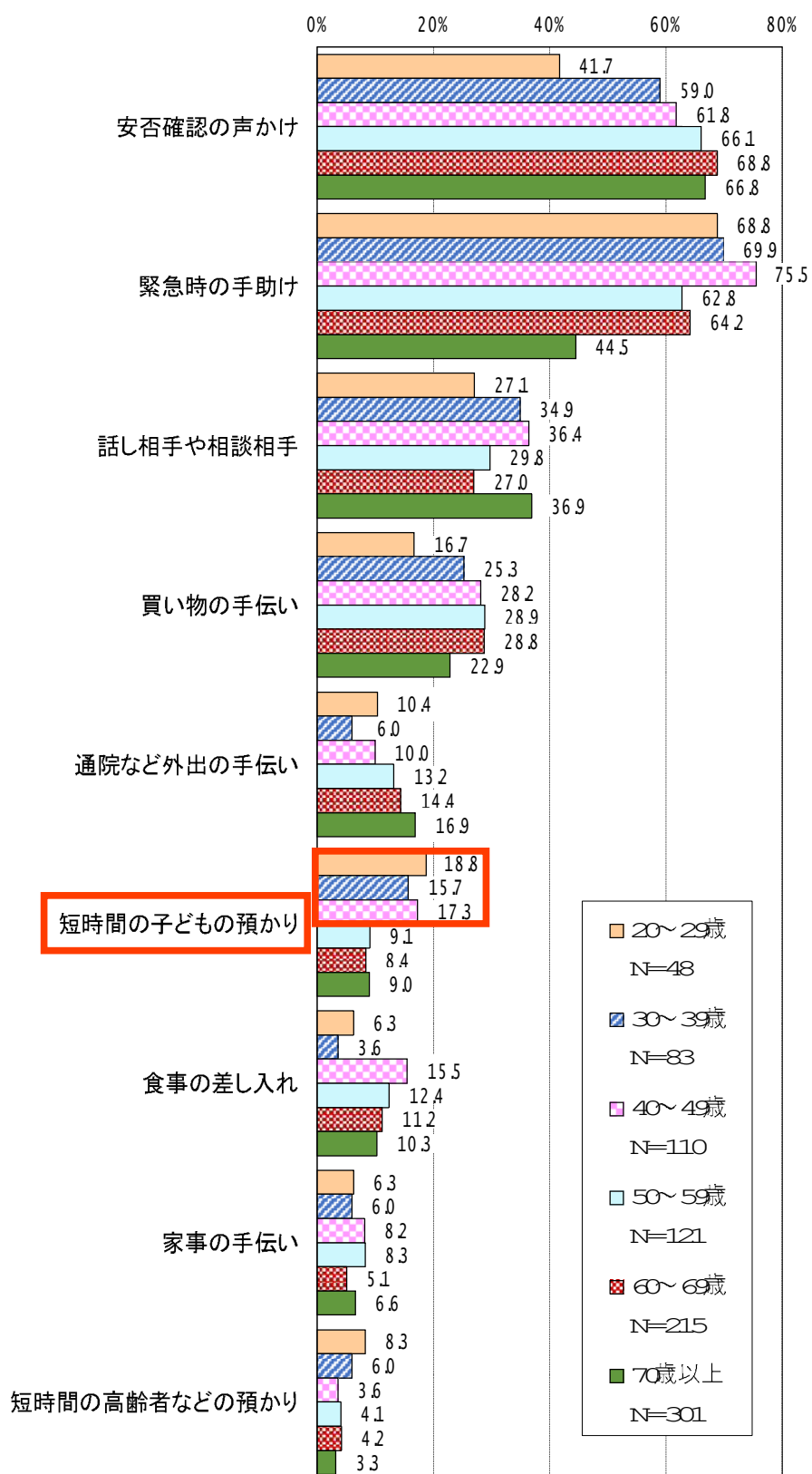
- 隣近所に高齢者や障がいのある人の介護、子育てなどで困っている家庭があったら、できると思う手助けについては、「安否確認の声かけ」が64.3%と最も多く、以下、「緊急時の手助け」(59.3%)、「話し相手や相談相手」(32.6%)、「買い物の手伝い」(25.7%)と続いている。

《男女別クロス集計結果》



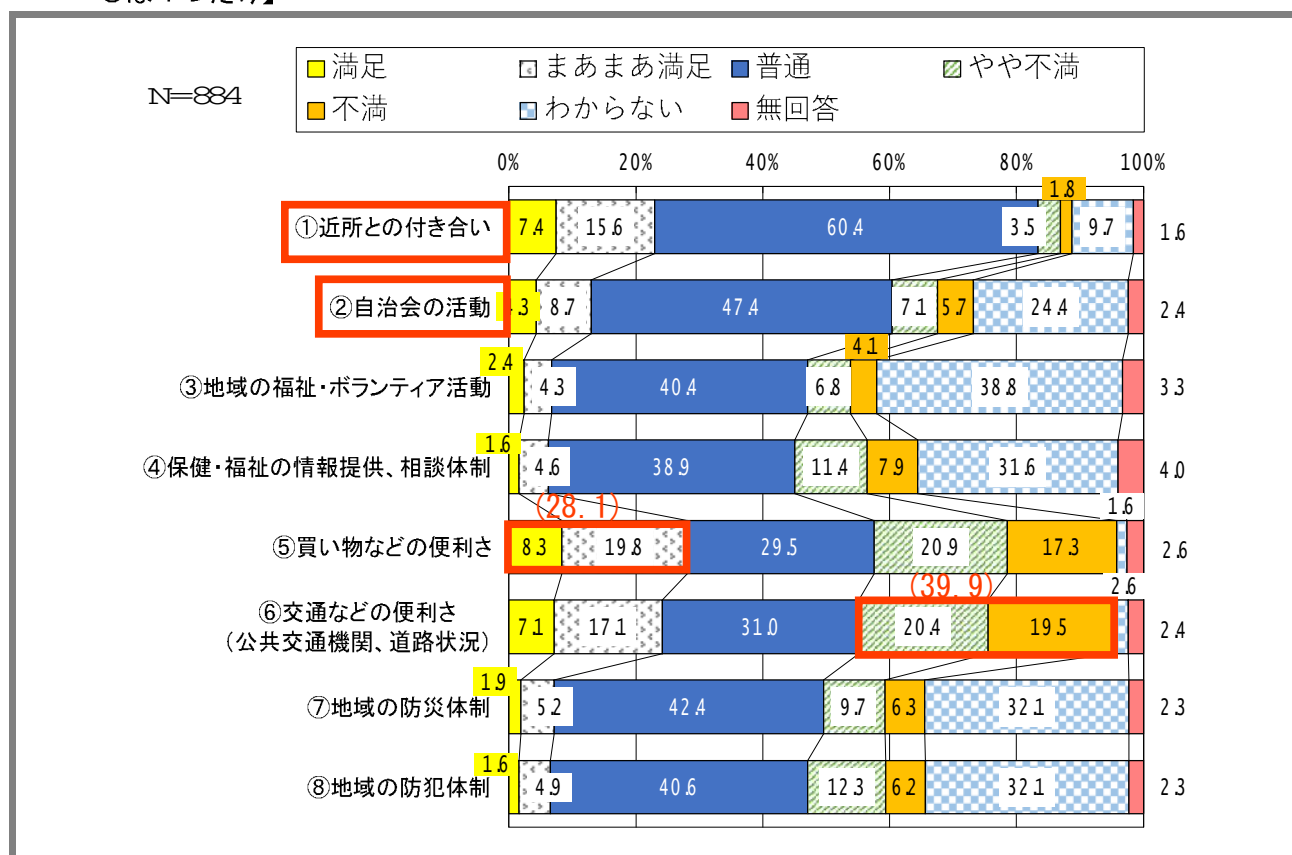
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は認められないが、「緊急時の手助け」や「通院など外出の手伝い」は男性の方が、「買い物の手伝い」や「短時間の子どもの預かり」、「食事の差し入れ」は女性の方が回答割合が高くなっている。

《年齢階層別クロス集計結果》



- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は認められないが、「短時間の子どもの預かり」については50歳以上に比べ50歳未満の回答割合が高くなっている。

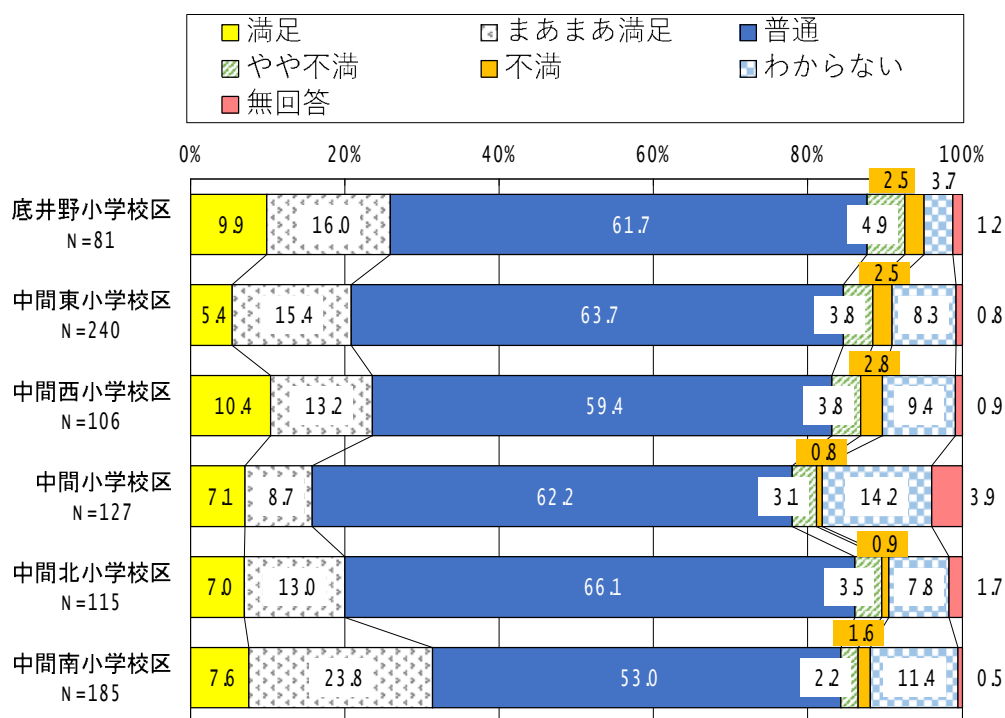
問12 あなたがお住まいの地域の暮らしやすさ（満足度）はいかがですか。【それぞれの項目について〇は1つだけ】



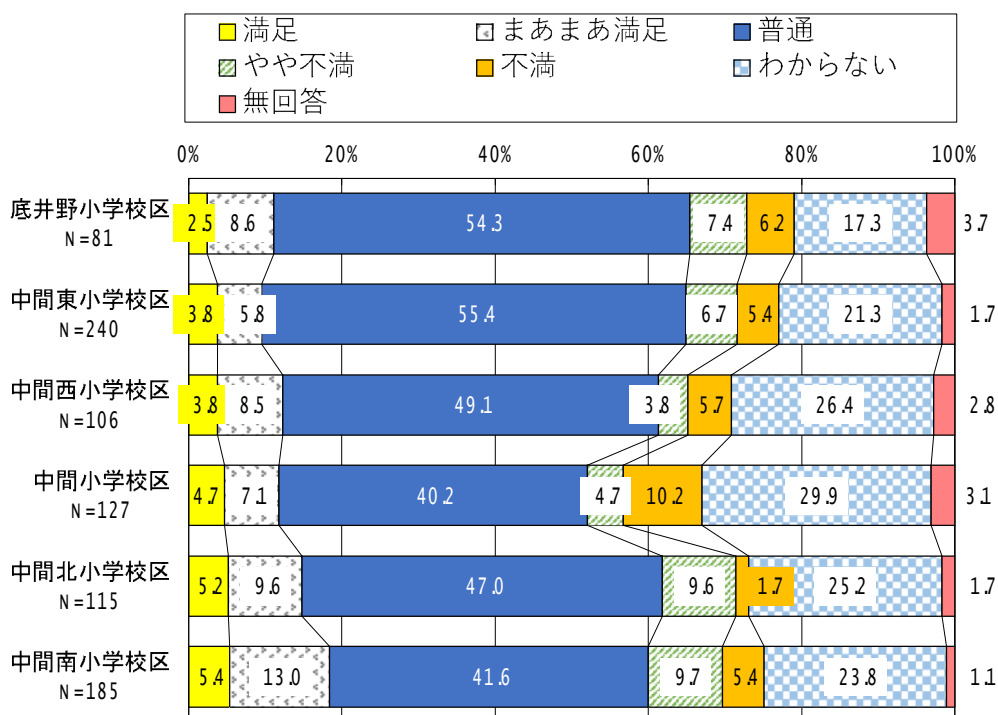
- 地域の暮らしやすさについて、「満足」または「まあまあ満足」と回答した人の割合が最も高かったのは「買い物などの便利さ」(28.1%)、逆に、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が最も高かった項目は「交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）」(39.9%)となっている。
- 「満足」または「まあまあ満足」と回答した人の割合が、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合を上回っているのは、「近所との付き合い」「自治会の活動」のみであった。

《居住小学校区別クロス集計結果》

①近所との付き合い

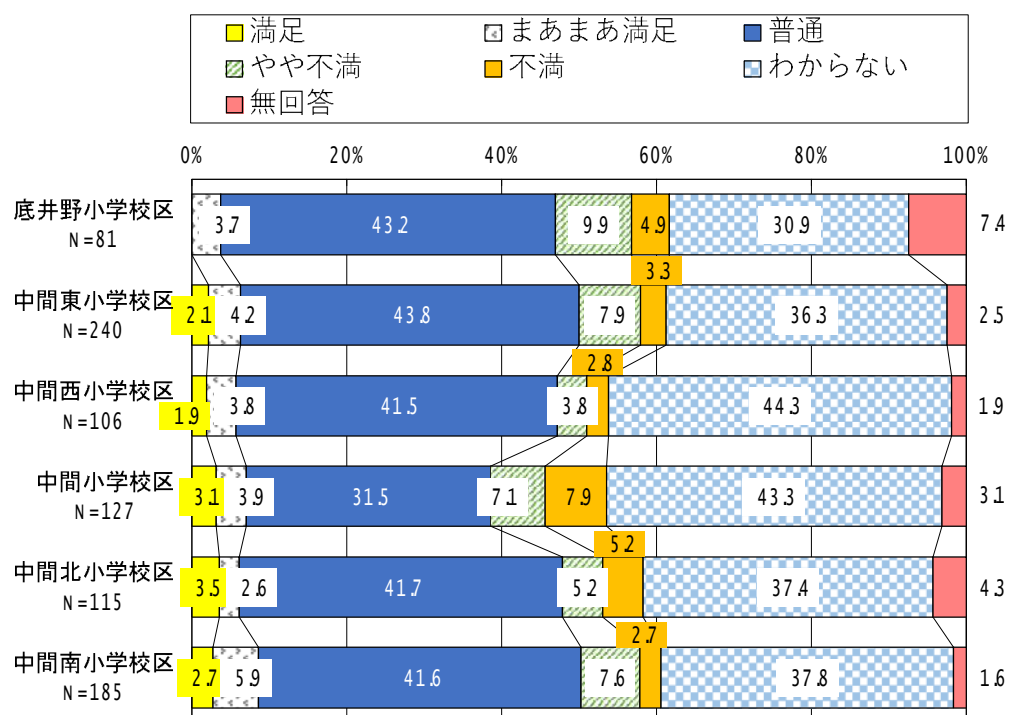


②自治会の活動

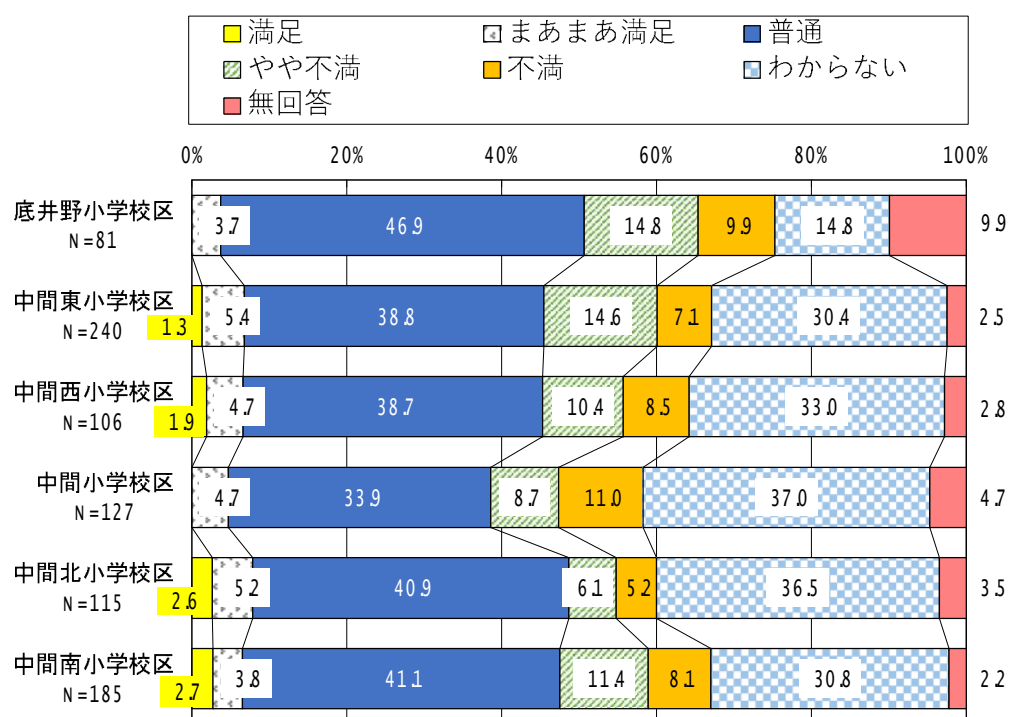


● 居住小学校区別のクロス集計の結果、「買い物などの便利さ」や「交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）」については地域差が目立っている（P20～23 参照）。

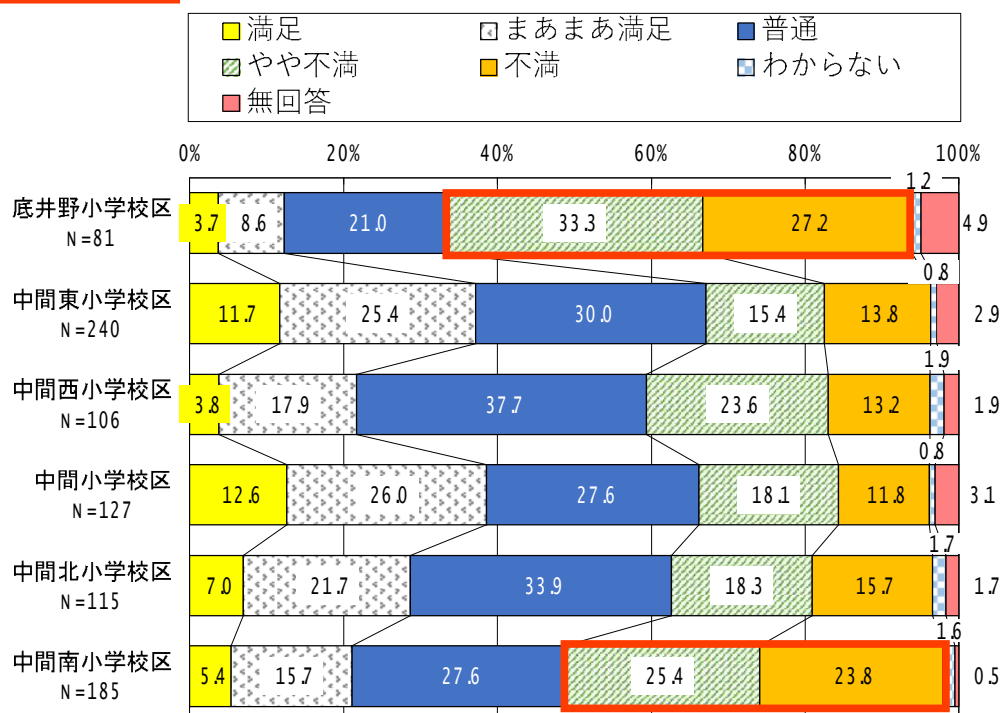
③地域の福祉・ボランティア活動



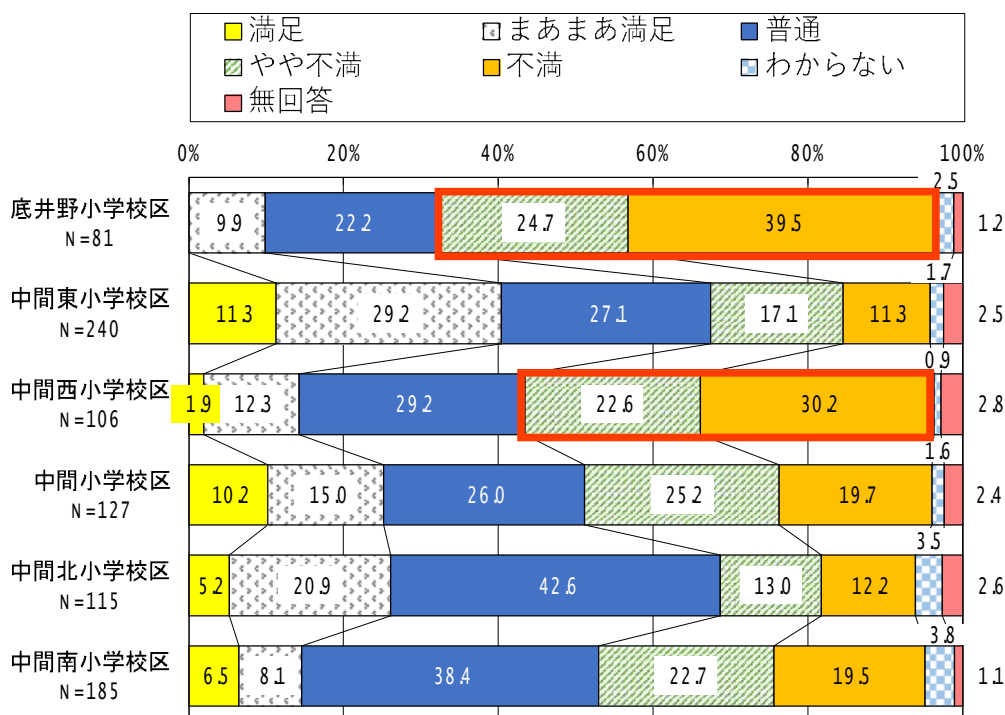
④保健・福祉の情報提供、相談体制



⑤買い物などの便利さ

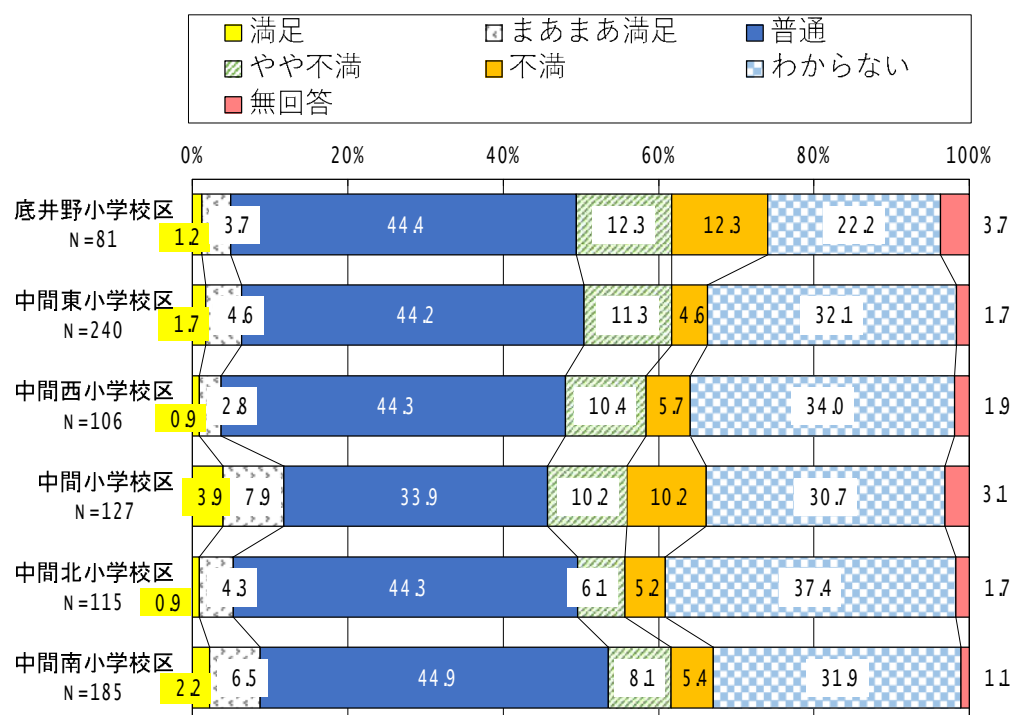


⑥交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）

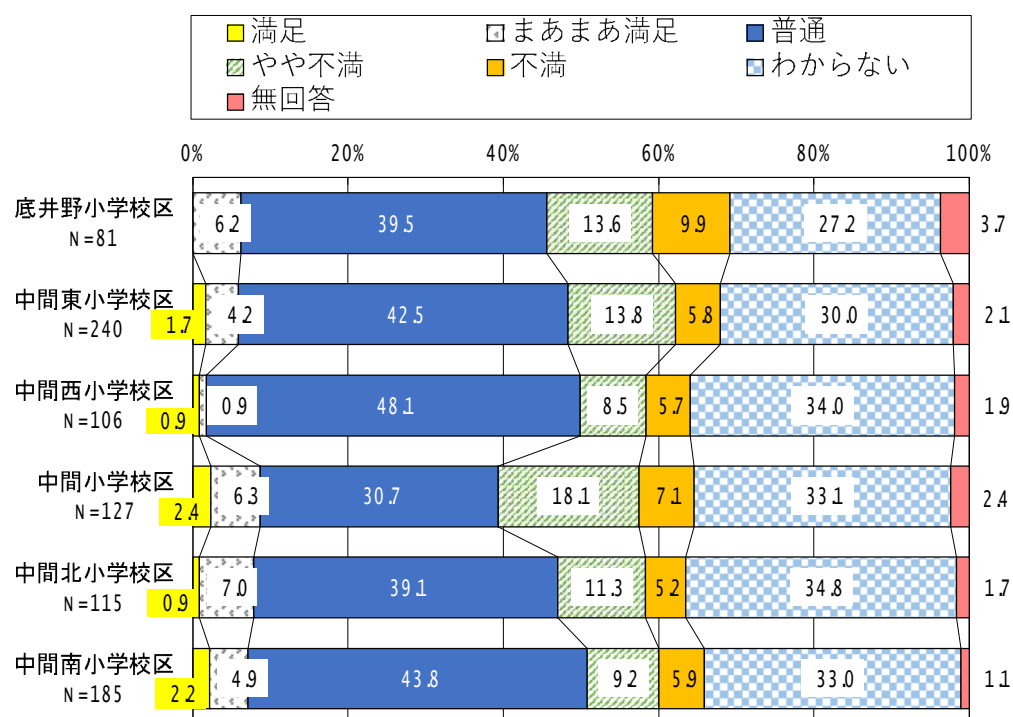


- 「不満」または「やや不満」と回答した割合が高かったのは、「買い物などの便利さ」については「底井野小学校区」と「中間南小学校区」、「交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）」については「底井野小学校区」と「中間西小学校区」となっている。

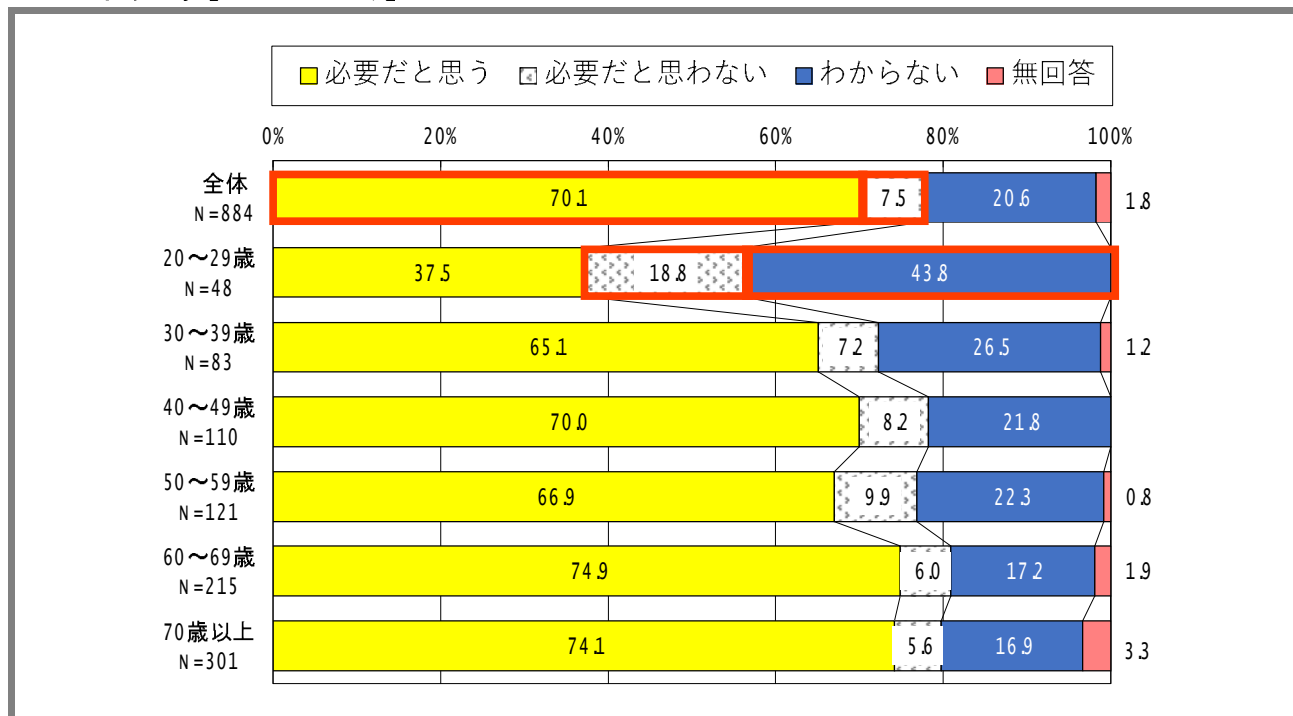
⑦地域の防災体制



⑧地域の防犯体制



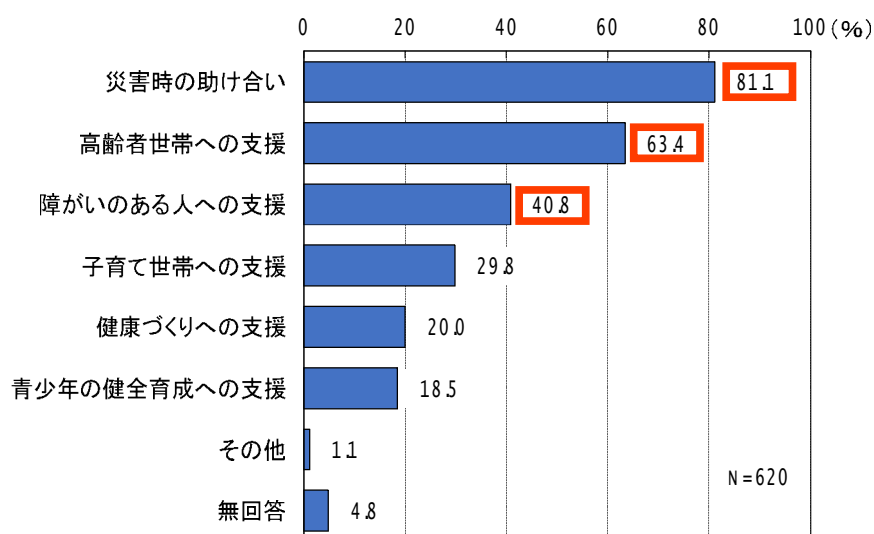
問13 あなたは、地域生活の中で起こる問題に対して、住民同士の自主的な協力関係が必要だと思いますか。【〇は1つだけ】



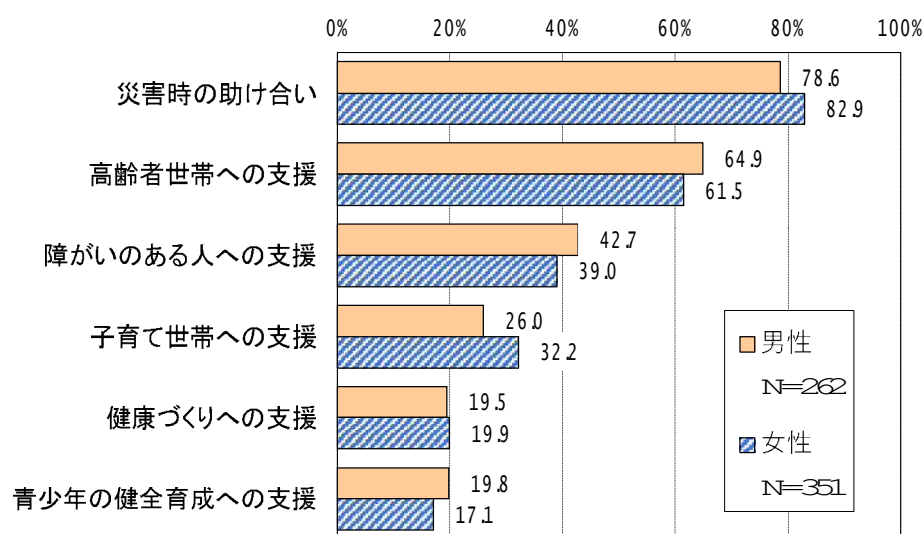
- 地域生活の中で起こる問題に対して住民相互の自主的な協力が「必要だと思う」と回答した人の割合は全体の70.1%を占め、「必要だと思わない」という回答は7.5%にとどまっている。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では「わからない」という回答が43.8%と最も多く、「必要だと思わない」という回答も18.8%と、他の年齢階層に比べると高くなっている。

問13-1 問13で、「1. 必要だと思う」とご回答された方のみお答えください。

地域の人たちが協力して取り組む必要があるものは、どれだと思いますか。【あてはまるもの
全てに○】

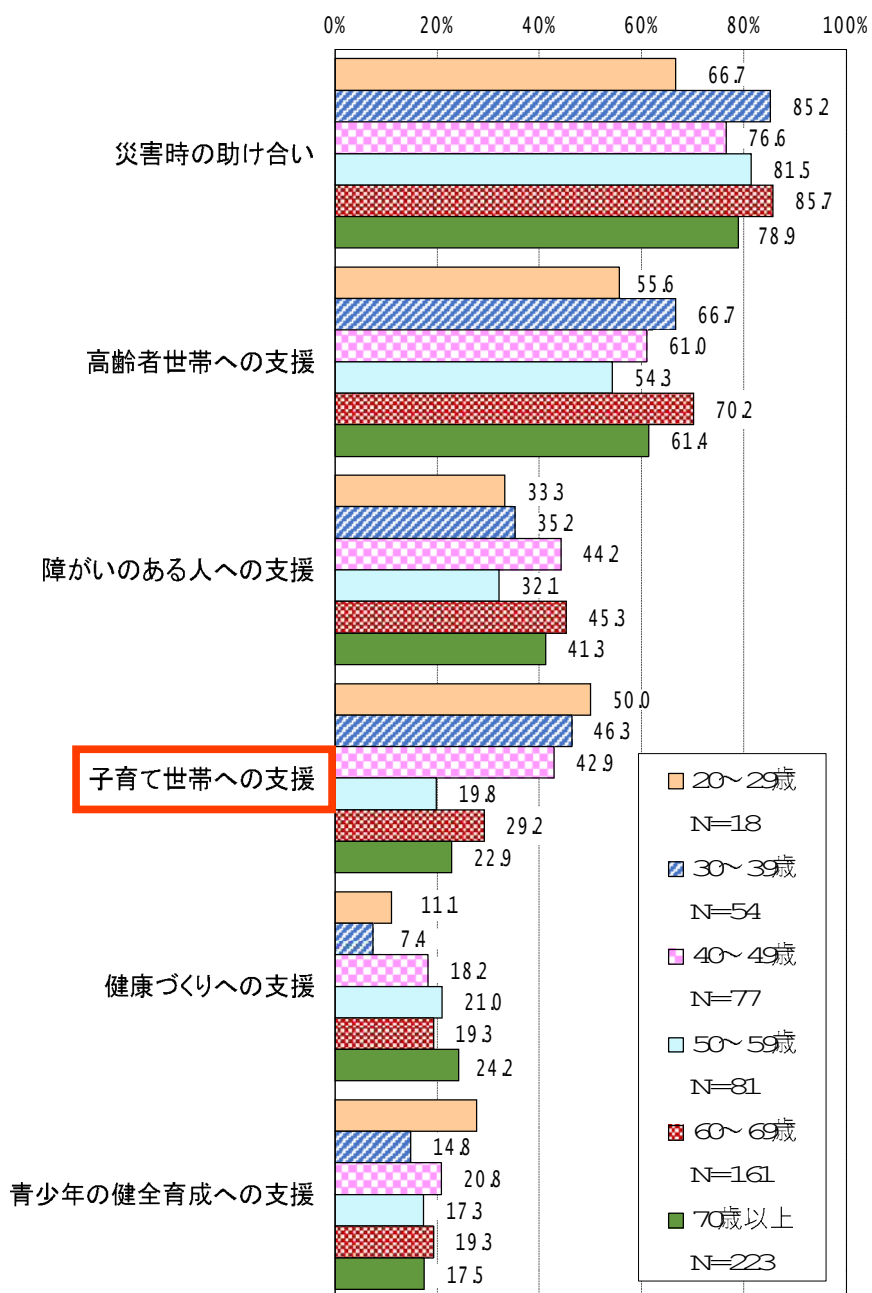


《男女別クロス集計結果》



- 問13で、住民相互の自主的な協力関係が「必要だと思う」と回答した人に、地域の人たちが協力して取り組む必要があるものをたずねたところ、「災害時の助け合い」が81.1%と最も多く、「高齢者世帯への支援」が63.4%、「障がいのある人への支援」が40.8%でそれに続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異を認められなかった。

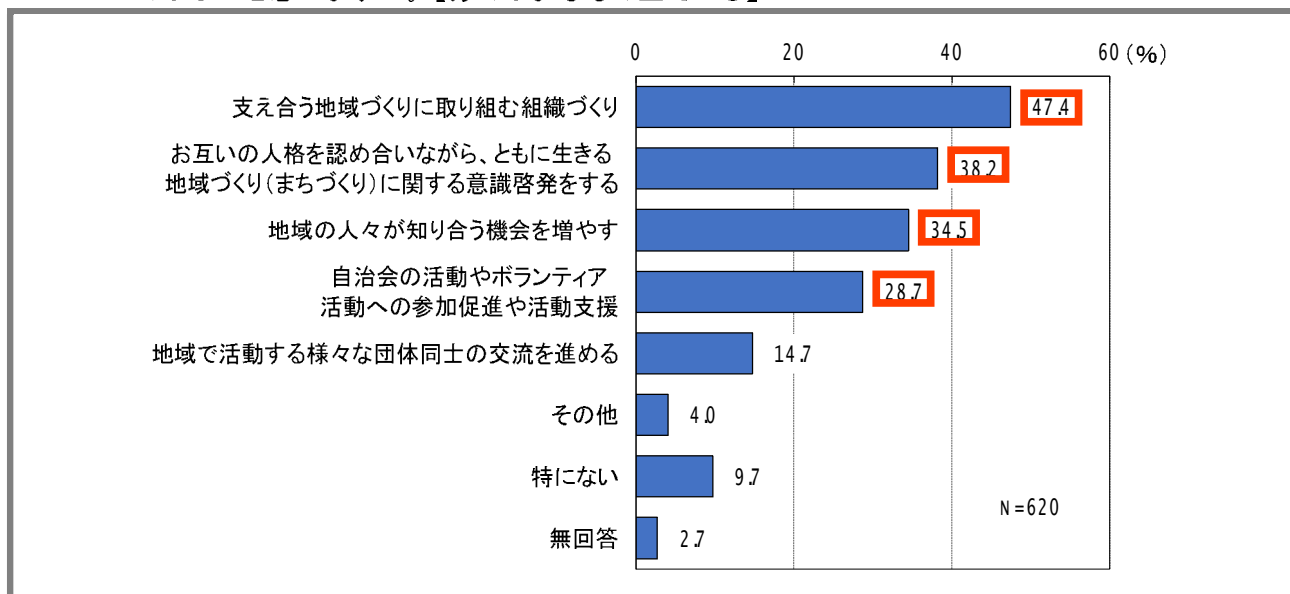
《年齢階層別クロス集計結果》



- 年齢階層別に回答割合の順位を見ても、おおむね全体集計の結果と同傾向となっているが、「20~29歳」「30~39歳」については「子育て世帯への支援」が第3位となっている。

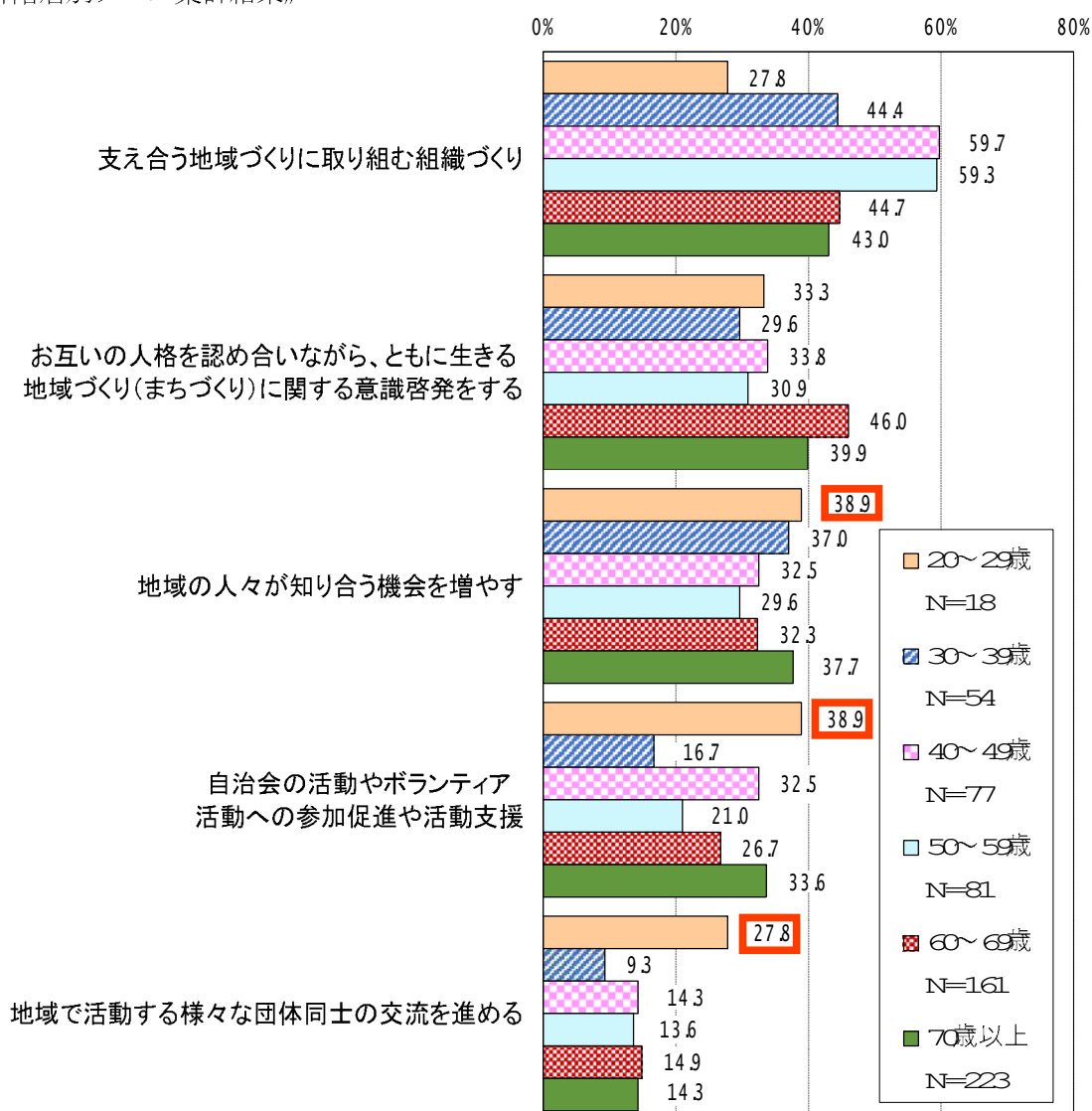
問13-2 問13で、「1. 必要だと思う」とご回答された方のみお答えください。

住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、中間市にどのような支援に取り組んでほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】



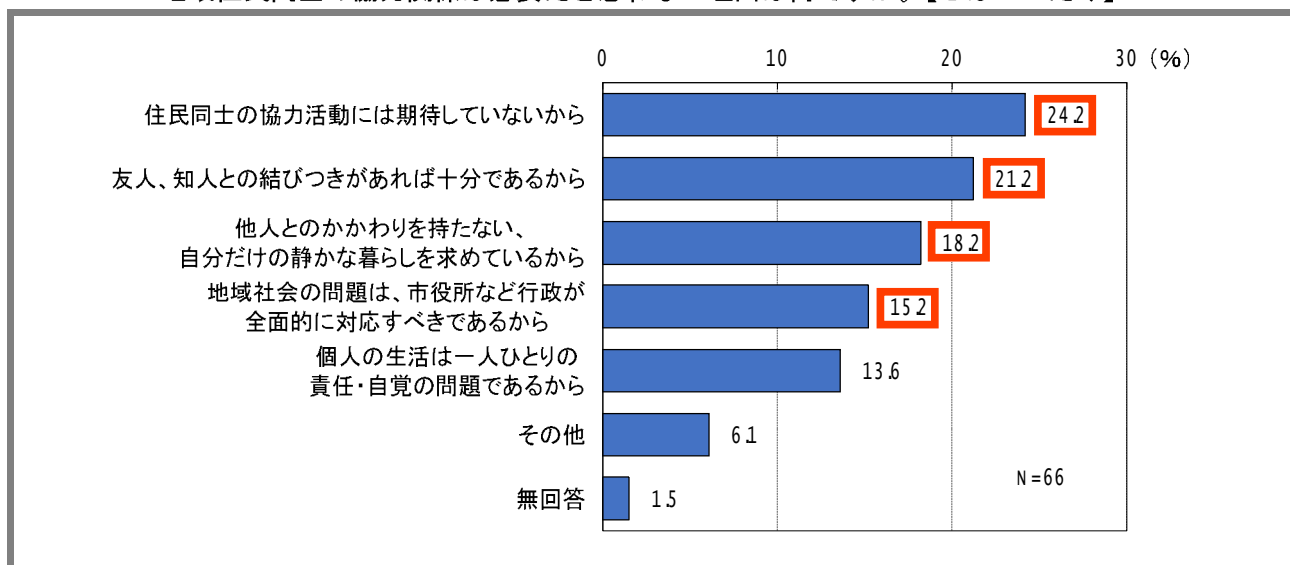
- 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために中間市に取り組んでほしい支援としては、「支え合う地域づくりに取り組む組織づくり」が47.4%と最も多く、以下、「お互いの人格を認め合いながら、ともに生きる地域づくり（まちづくり）に関する意識啓発をする」（38.2%）、「地域の人々が知り合う機会を増やす」（34.5%）、「自治会の活動やボランティア活動への参加促進や活動支援」（28.7%）と続いている。

《年齢階層別クロス集計結果》



- 年齢階層別に回答割合の順位を見ても、おおむね全体集計の結果と同傾向となっているが、「20～29歳」については「地域の人々が知り合う機会を増やす」と「自治会の活動やボランティア活動への参加促進や活動支援」がともに38.9%と最も高い割合となっており、「地域で活動する様々な団体同士の交流を進める」(27.8%)も他の年齢階層に比べると高い割合となっている。

問13-3 問13で、「2. 必要だと思わない」とご回答された方のみお答えください。
地域住民同士の協力関係は必要だと思わない理由は何ですか。【〇は1つだけ】

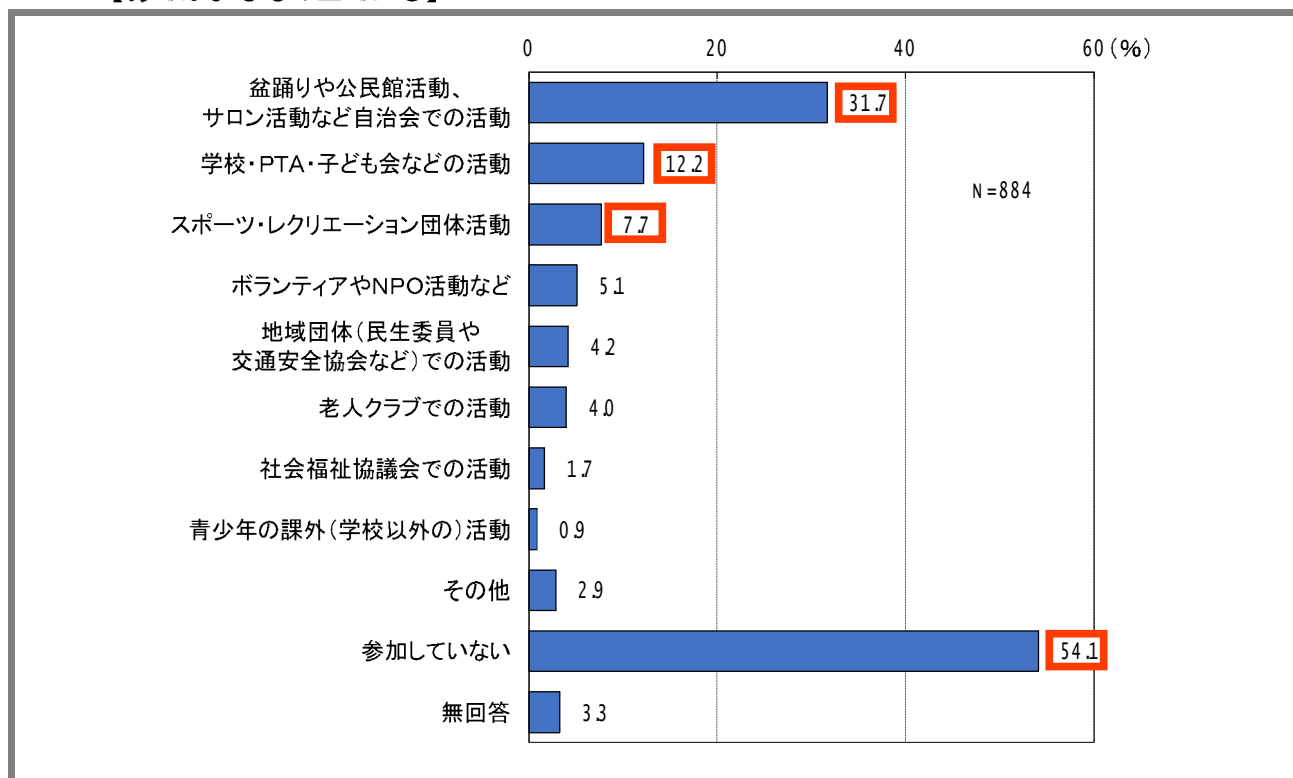


- 問13で、住民同士の自主的な協力関係が「必要だと思わない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「住民同士の協力活動には期待していないから」という回答が24.2%と最も多く、以下、「友人、知人との結びつきがあれば十分であるから」が21.2%、「他人とのかかわりを持たない、自分だけの静かな暮らしを求めているから」が18.2%、「地域社会の問題は、市役所など行政が全面的に対応すべきであるから」が15.2%と続いている。

Ⅲ. 地域活動への参加について

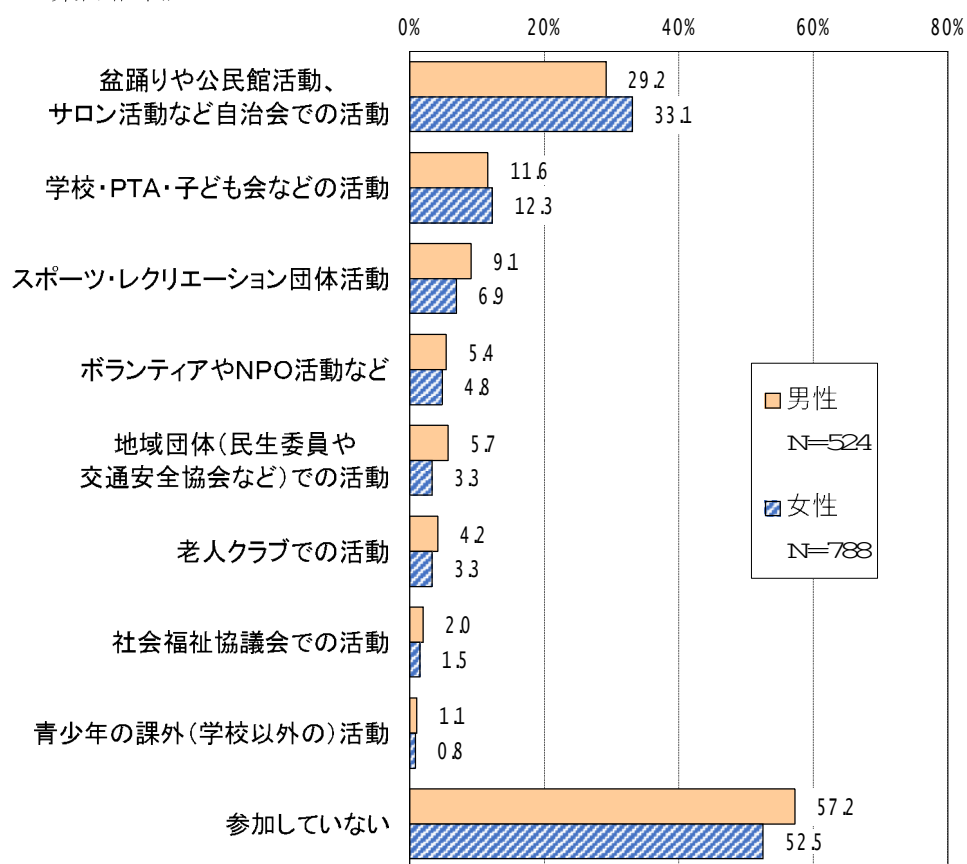
問14 地域の活動で過去3年間に参加したことがあるものを選んでください。

【あてはまるもの全てに○】



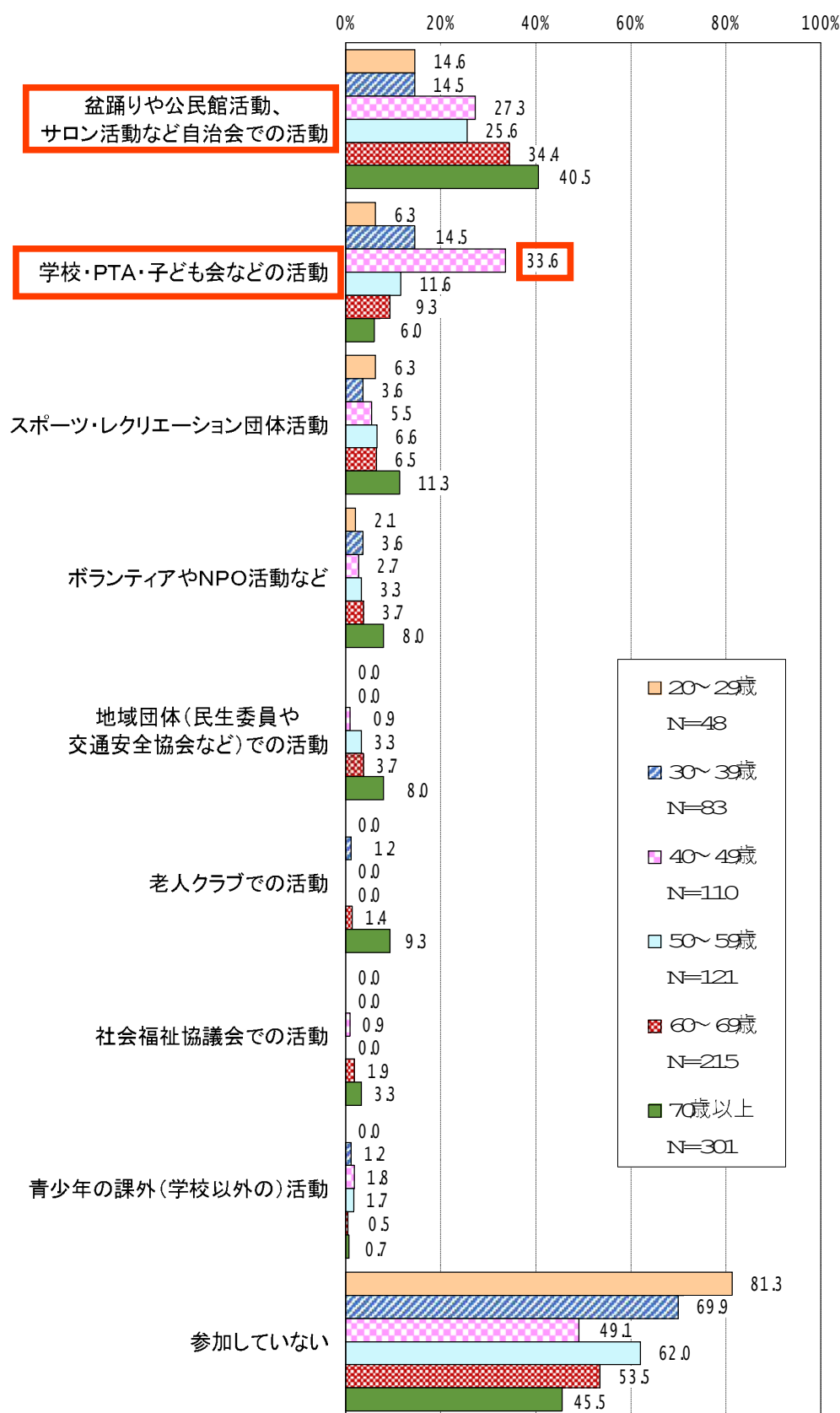
- 過去3年間の地域の活動への参加状況については、「参加していない」と回答した人が全体の54.1%を占めているが、これと無回答を除く他の42.6%の人は何らかの地域活動に参加しているという結果となっている。
- 参加していると回答した割合が最も高かったのは、「盆踊りや公民館活動、サロン活動など自治会での活動」(31.7%)で、以下、「学校・PTA・子ども会などの活動」(12.2%)、「スポーツ・レクリエーション団体活動」(7.7%)と続いている。

《男女別クロス集計結果》



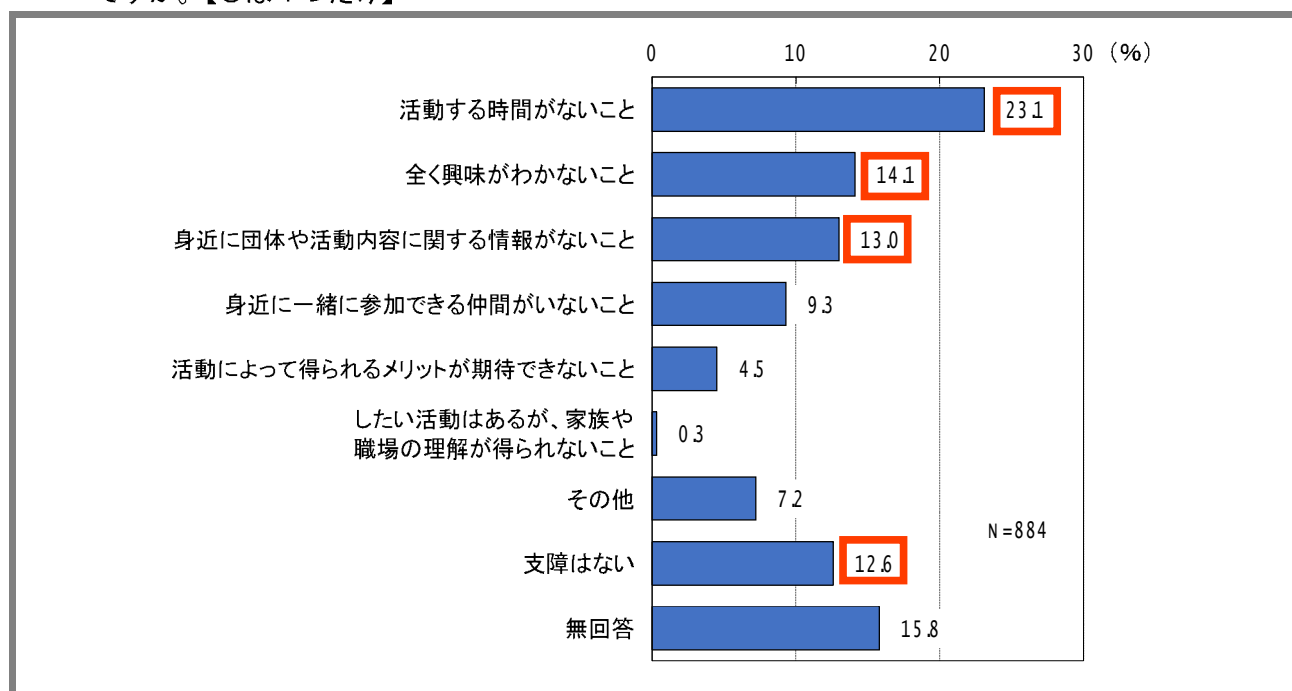
● 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は認められなかった。

《年齢階層別クロス集計結果》



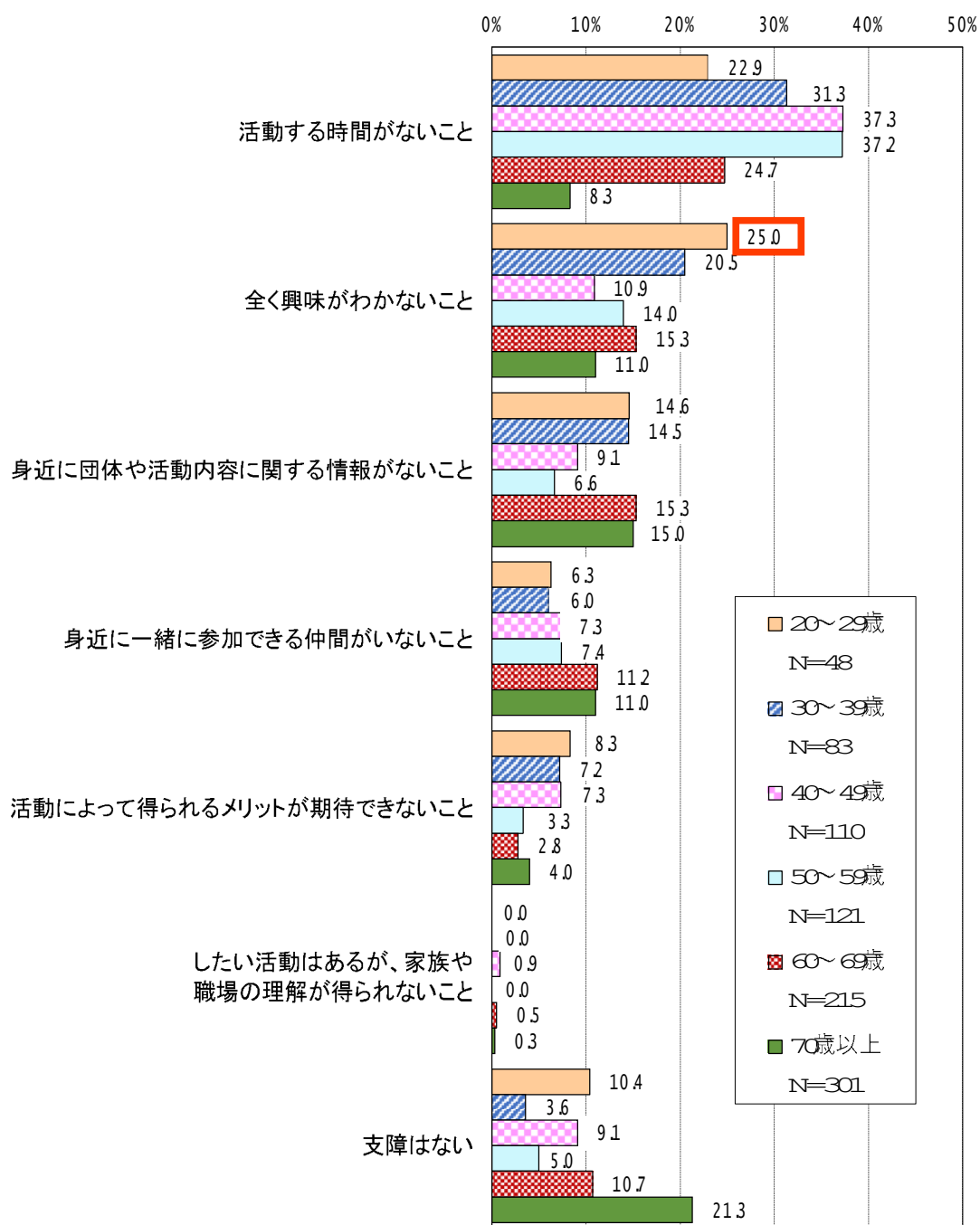
- 参加していると回答した割合を年齢階層別に見ると、「40～49歳」では「学校・PTA・子ども会などの活動」が最も高い割合となっており、「盆踊りや公民館活動、サロン活動など自治会での活動」については、概ね年齢階層が低くなるにつれて回答割合も低くなっている。

問15 地域活動に参加する際に支障になること、又は参加できない要因となっていることはどんなことですか。【○は1つだけ】



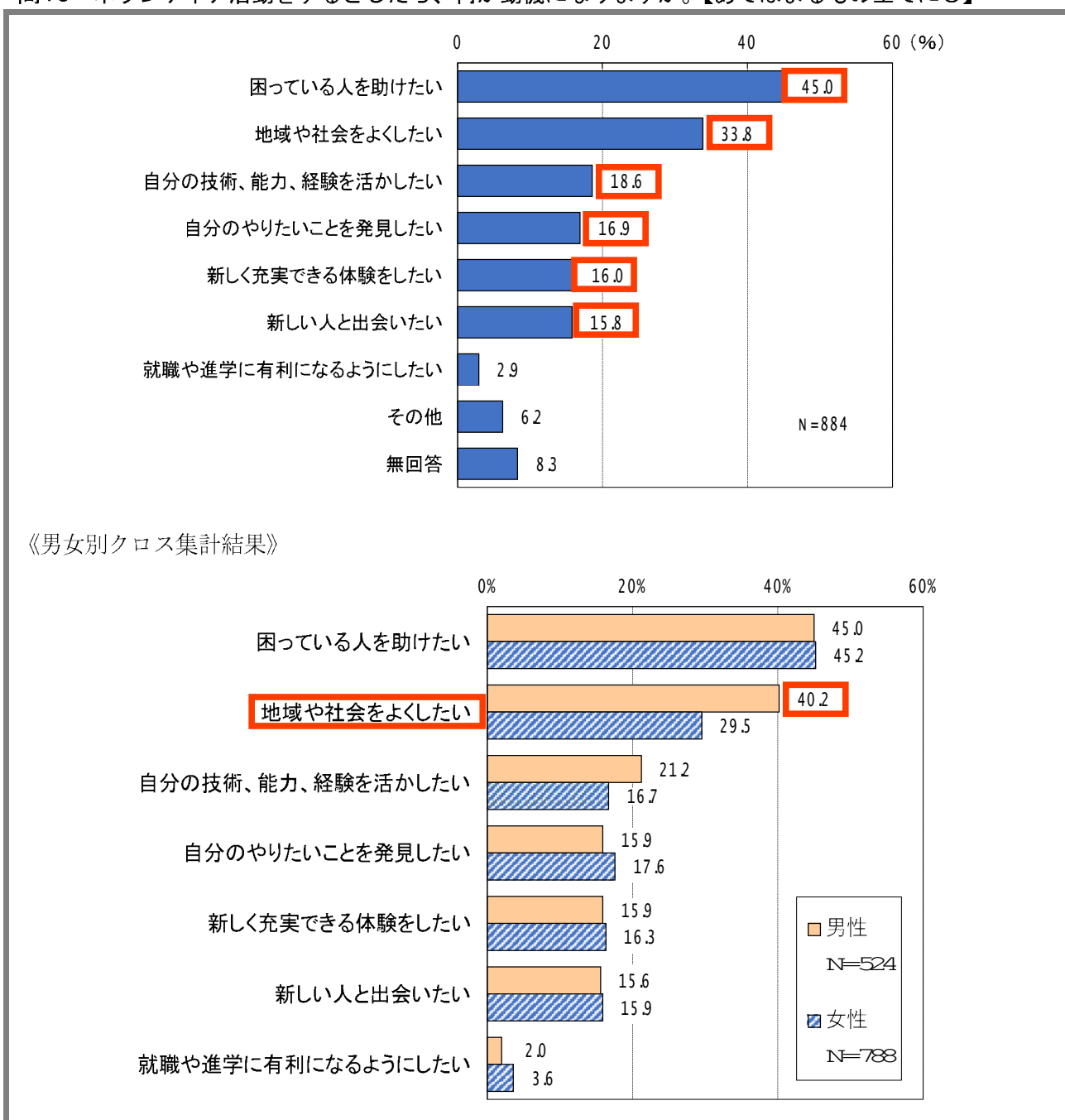
- 地域活動に参加する際に支障になること、又は参加できない要因となっていることとしては、「活動する時間がないこと」が23.1%と最も多く、以下、「全く興味がわからないこと」(14.1%)、「身近に団体や活動内容に関する情報がないこと」(13.0%)、「支障はない」(12.6%)と続いている。

《年齢階層別クロス集計結果》



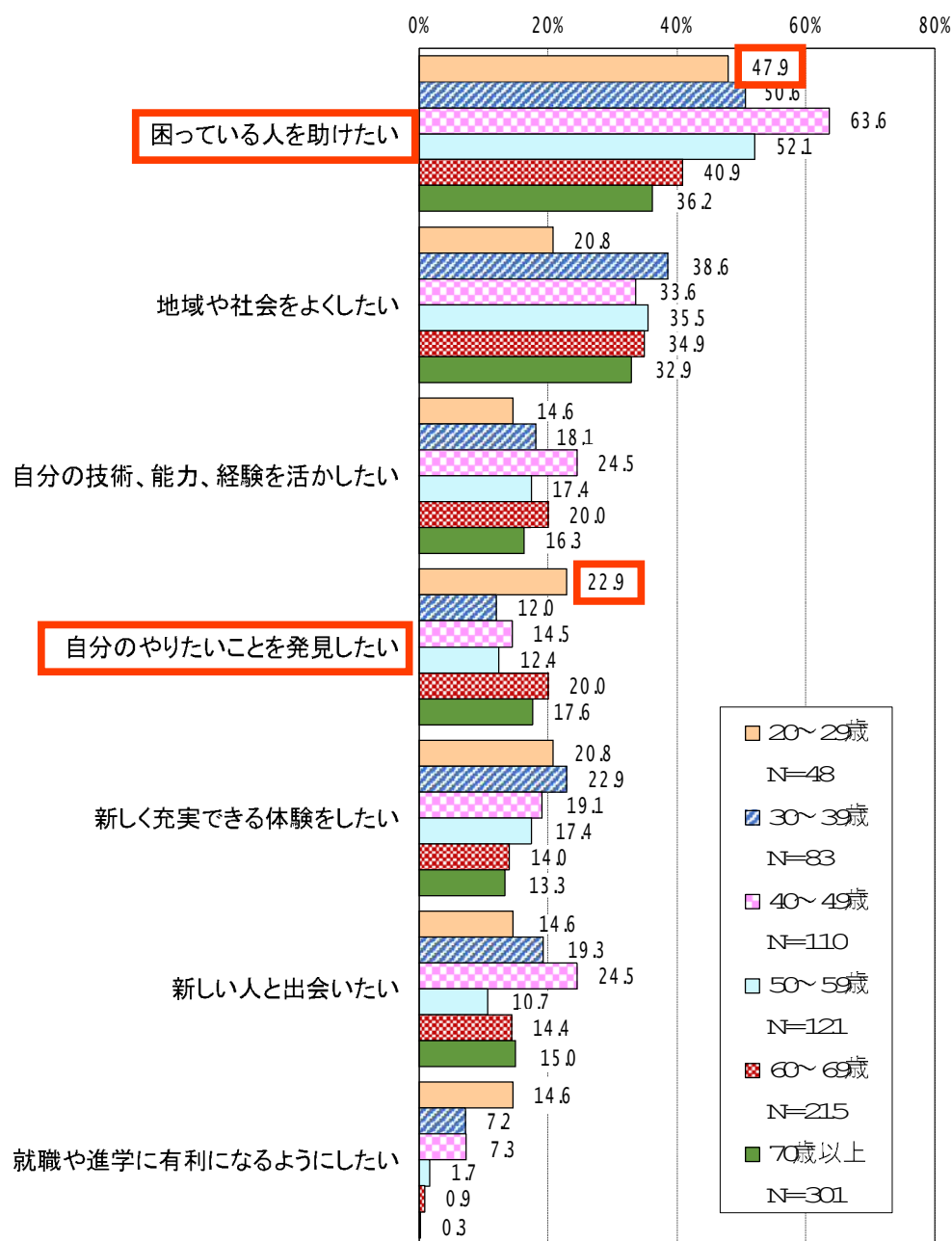
- 年齢階層別に見ても、概ね全体集計の結果と同傾向となっているが、「20～29歳」については「全く興味がわからないこと」が25.0%と、最も高い割合となっている。

問16 ボランティア活動をするとしたら、何が動機になりますか。【あてはまるもの全てに○】



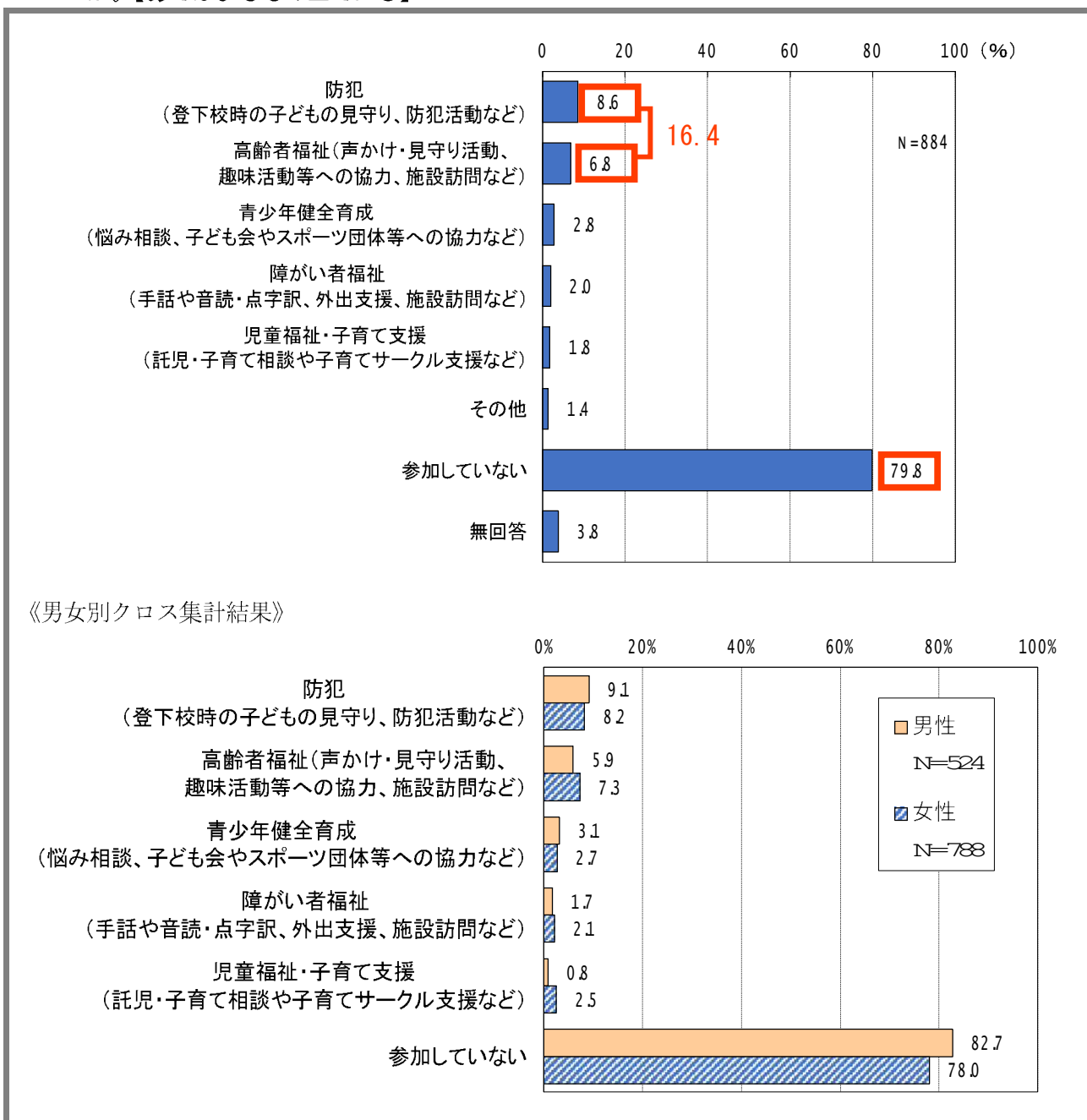
- ボランティア活動をするとした場合の動機については、「困っている人を助けたい」が45.0%と最も多く、以下、「地域や社会をよくしたい」(33.8%)、「自分の技術、能力、経験を活かしたい」(18.6%)、「自分のやりたいことを発見したい」(16.9%)、「新しく充実できる体験をしたい」(16.0%)、「新しい人と出会いたい」(15.8%)と続いている。
- 男女別に見ると、「地域や社会をよくしたい」については女性に比べ男性の回答割合の方が高くなっている。

《年齢階層別クロス集計結果》



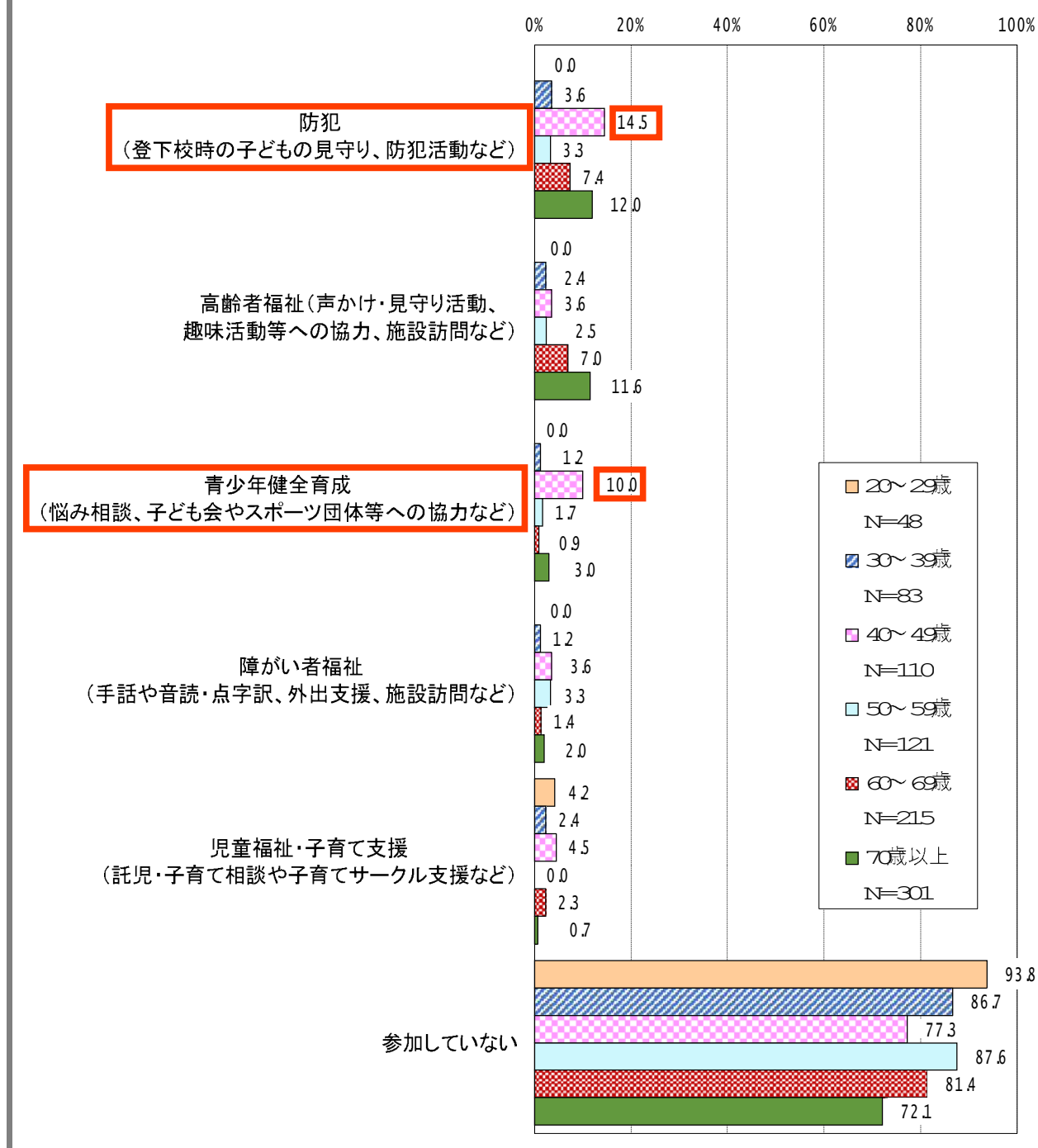
- 年齢階層別に見ても概ね全体集計の結果と同傾向となっているが、「20~29歳」については「自分のやりたいことを発見したい」(22.9%)が、「困っている人を助けたい」(47.9%)に次いで高い割合となっている。

問17 次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に、過去3年間に参加したことがありますか。【あてはまるもの全てに○】



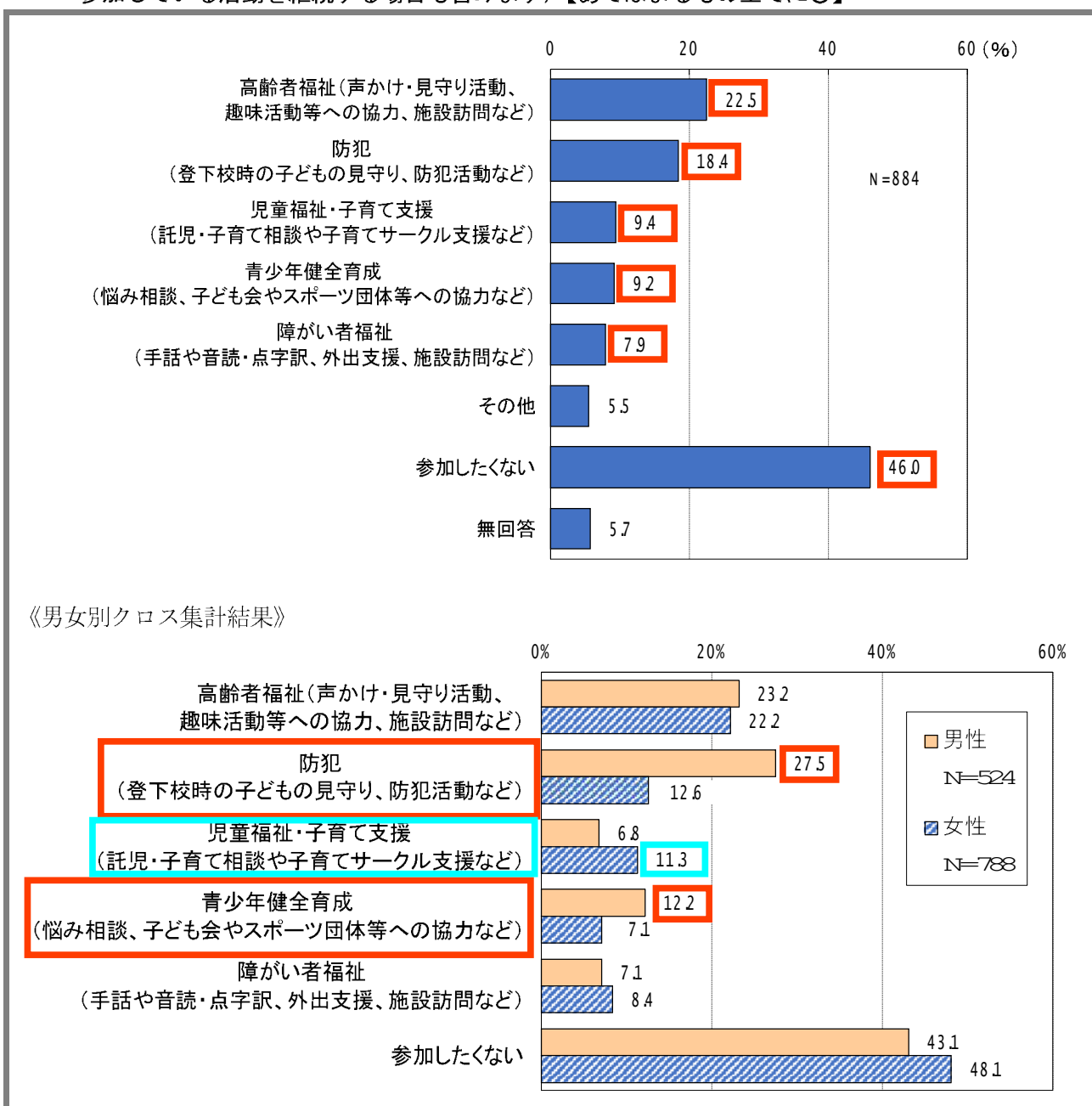
- 過去3年間の福祉に関わるボランティアやNPO活動等への参加状況については、「参加していない」と回答した人が79.8%と圧倒的に多く、何らかの活動に参加している人は全体の16.4%となっている。
- 参加しているものとしては「防犯」が8.6%、「高齢者福祉」が6.8%で、比較的多くなっている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異を認められなかった。

《年齢階層別クロス集計結果》



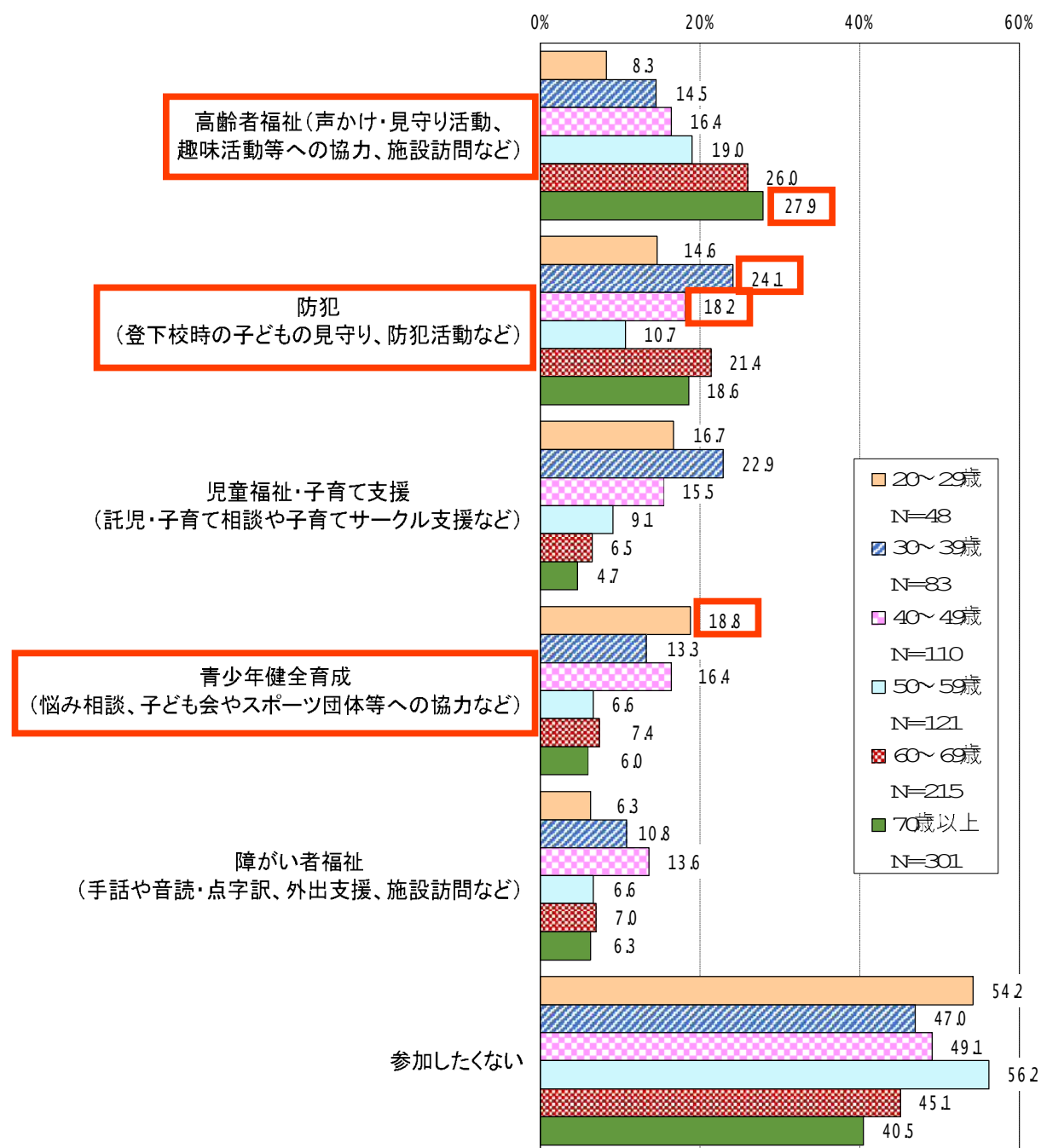
- 年齢階層別に見ると、「40～49 歳」では「防犯」や「青少年健全育成」が多くなっている。

問18 今後、次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に参加したいと思いますか。(現在参加している活動を継続する場合も含みます)【あてはまるもの全てに○】



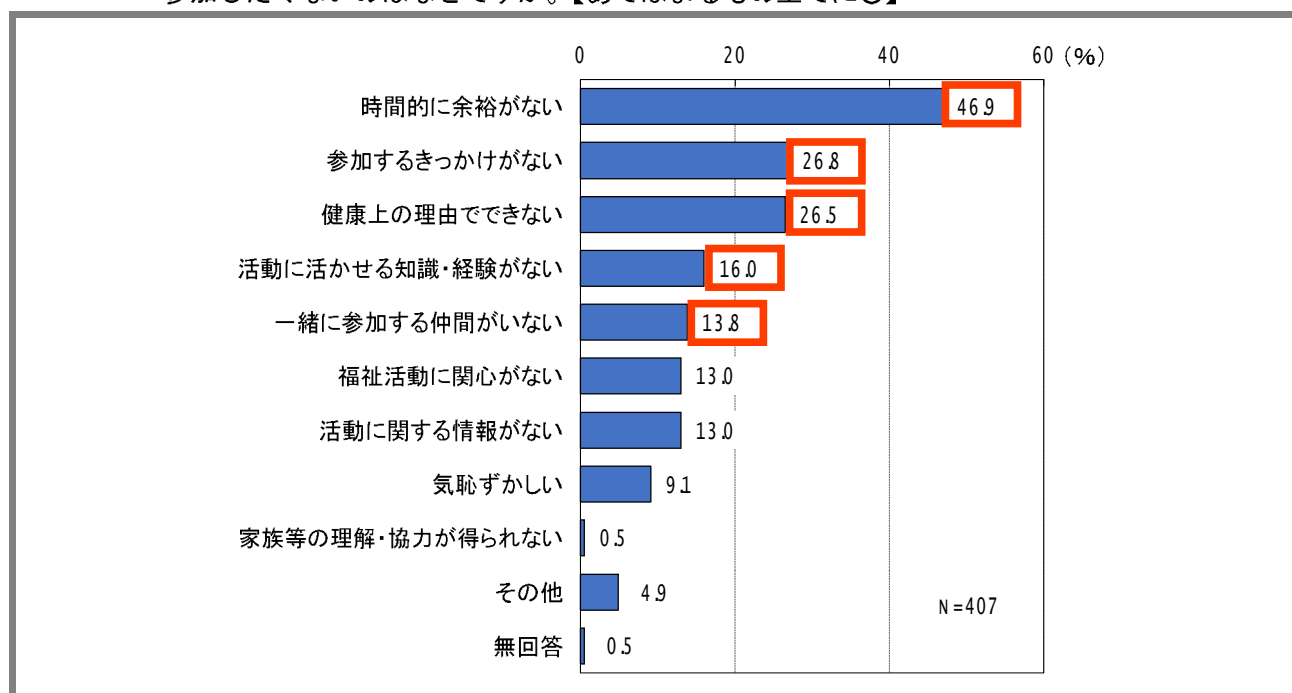
- 今後の福祉に関わるボランティアやNPO活動等への参加意向については、全体の46.0%の人は「参加したくない」と回答しているが、参加したいと思うものについては、「高齢者福祉」(22.5%)、「防犯」(18.4%)、「児童福祉・子育て支援」(9.4%)、「青少年健全育成」(9.2%)「障がい者福祉」(7.9%)と続いている。
- 男女別に見ると、「防犯」と「青少年健全育成」については女性よりも男性の方が、「児童福祉・子育て支援」については男性よりも女性の方が回答割合が高くなっている。

《年齢階層別クロス集計結果》



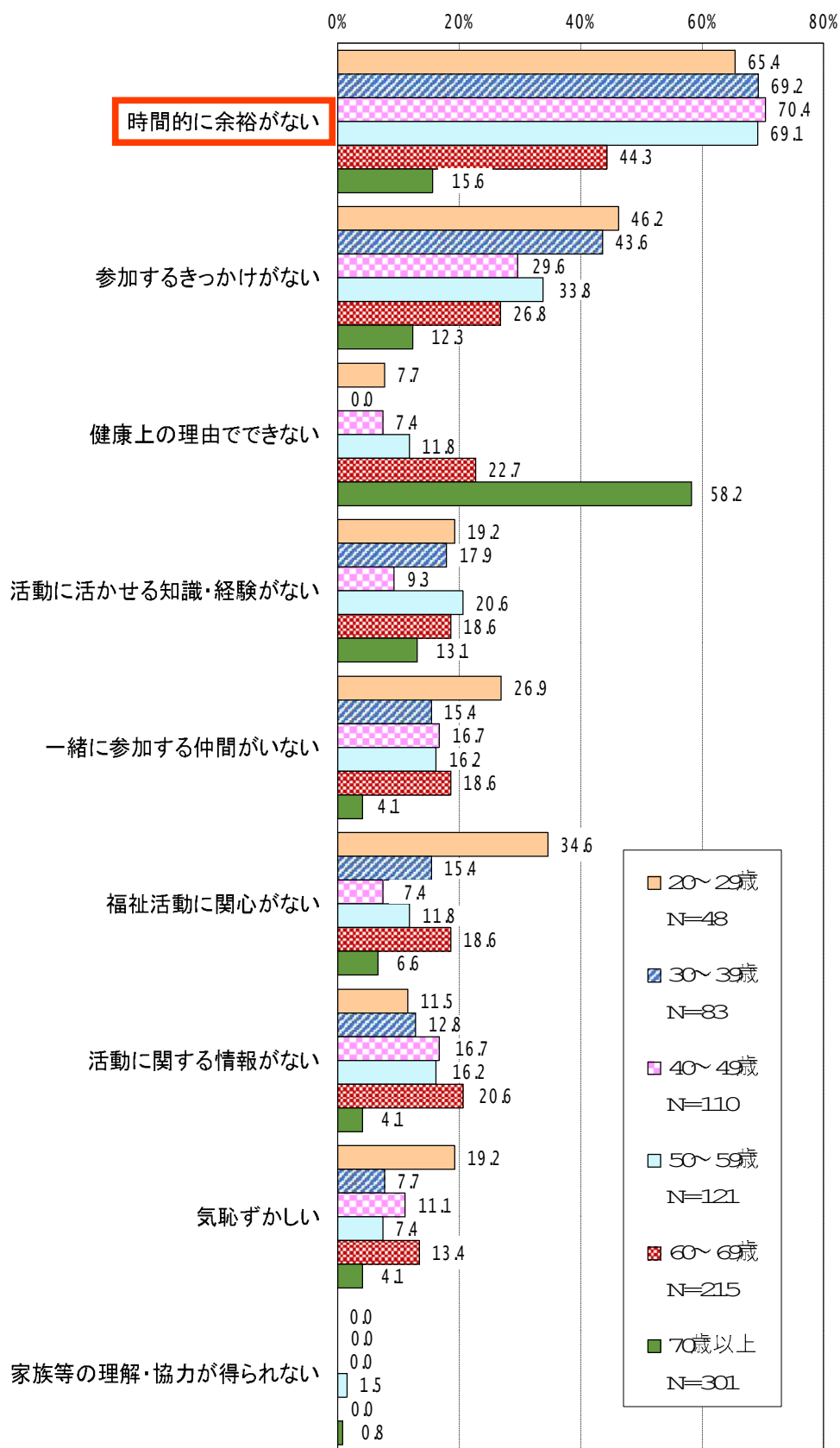
- 年齢階層別に見ると、50歳以上については「高齢者福祉」、「20～29歳」は「青少年健全育成」、「30～39歳」「40～49歳」は「防犯」への参加意向がそれぞれ最も高くなっている。

問18-1 問18で、「7. 参加したくない」とご回答された方のみお答えください。
参加したくないのはなぜですか。【あてはまるもの全てに○】



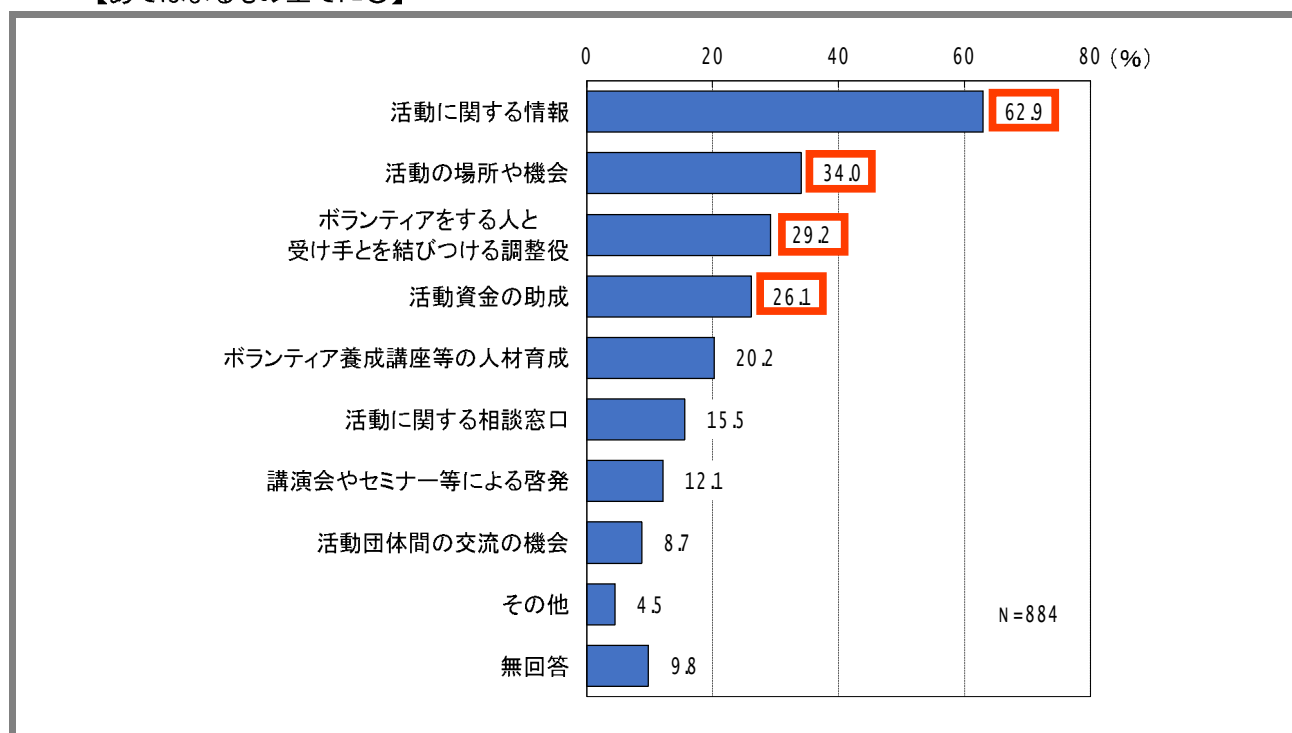
- ボランティアやNPO活動等に参加したくないと回答した人にその理由をたずねたところ、「時間的に余裕がない」が46.9%と最も多く、以下、「参加するきっかけがない」(26.8%)、「健康上の理由でできない」(26.5%)、「活動に活かせる知識・経験がない」(16.0%)、「一緒に参加する仲間がいない」(13.8%)と続いている。

《年齢階層別クロス集計結果》



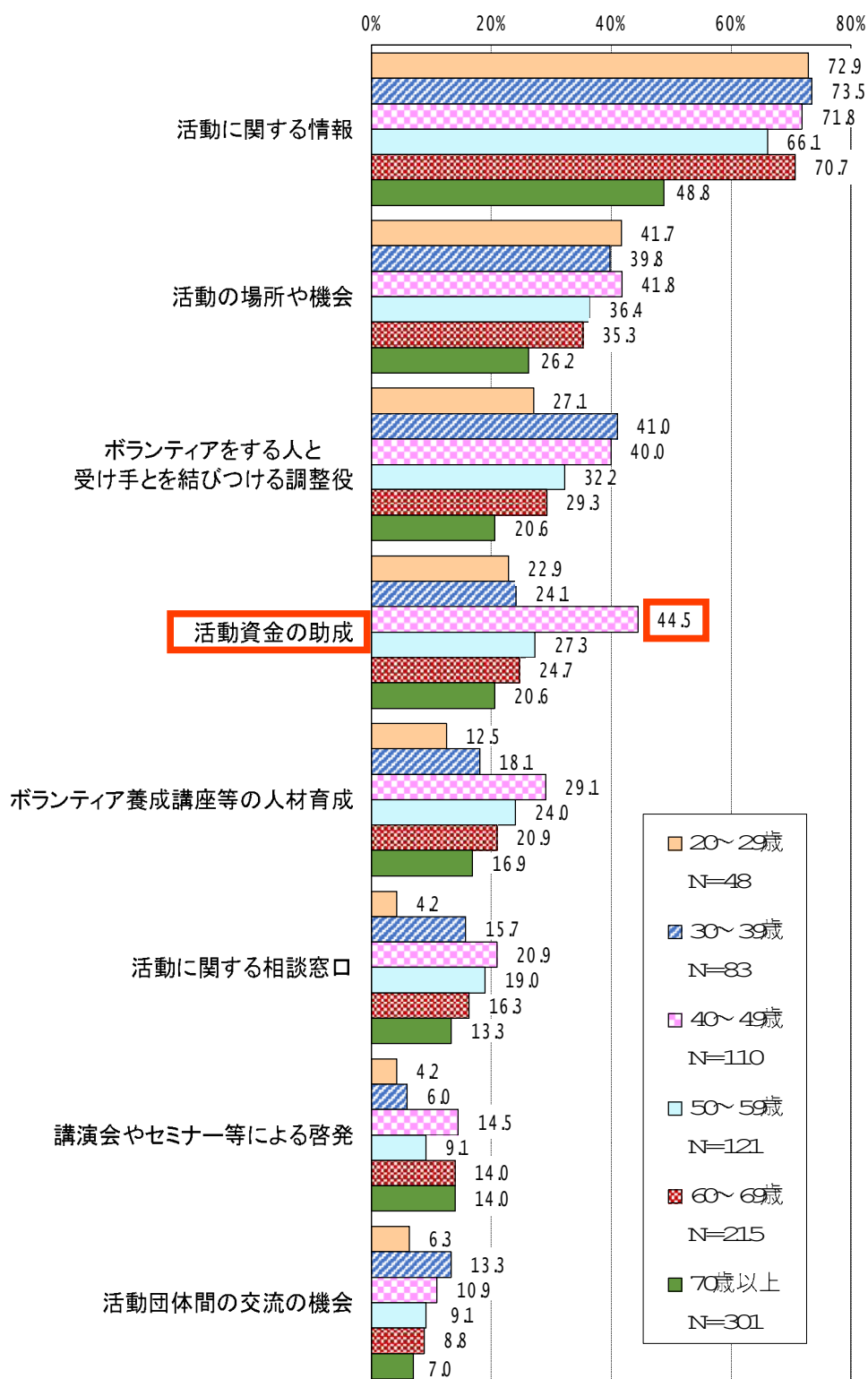
- 年齢階層別に見ても、「70歳以上」を除く全ての階層で「時間的に余裕がない」が最も多くなっている。

問19 福祉に関わるボランティア活動等をもっと盛んにするために、どのようなことが必要だと思いますか。
【あてはまるもの全てに○】



- 福祉に関わるボランティア活動等をもっと盛んにするために必要だと思うこととしては、「活動に関する情報」が 62.9%と最も多く、以下、「活動の場所や機会」(34.0%)、「ボランティアをする人と受け手とを結びつける調整役」(29.2%)、「活動資金の助成」(26.1%)と続いている。

《年齢階層別クロス集計結果》



- 年齢階層別に見ても概ね全体集計の結果と同傾向となっているが、「40～49歳」では「活動資金の助成」が44.5%と、他の年齢階層に比べ特に高くなっている。

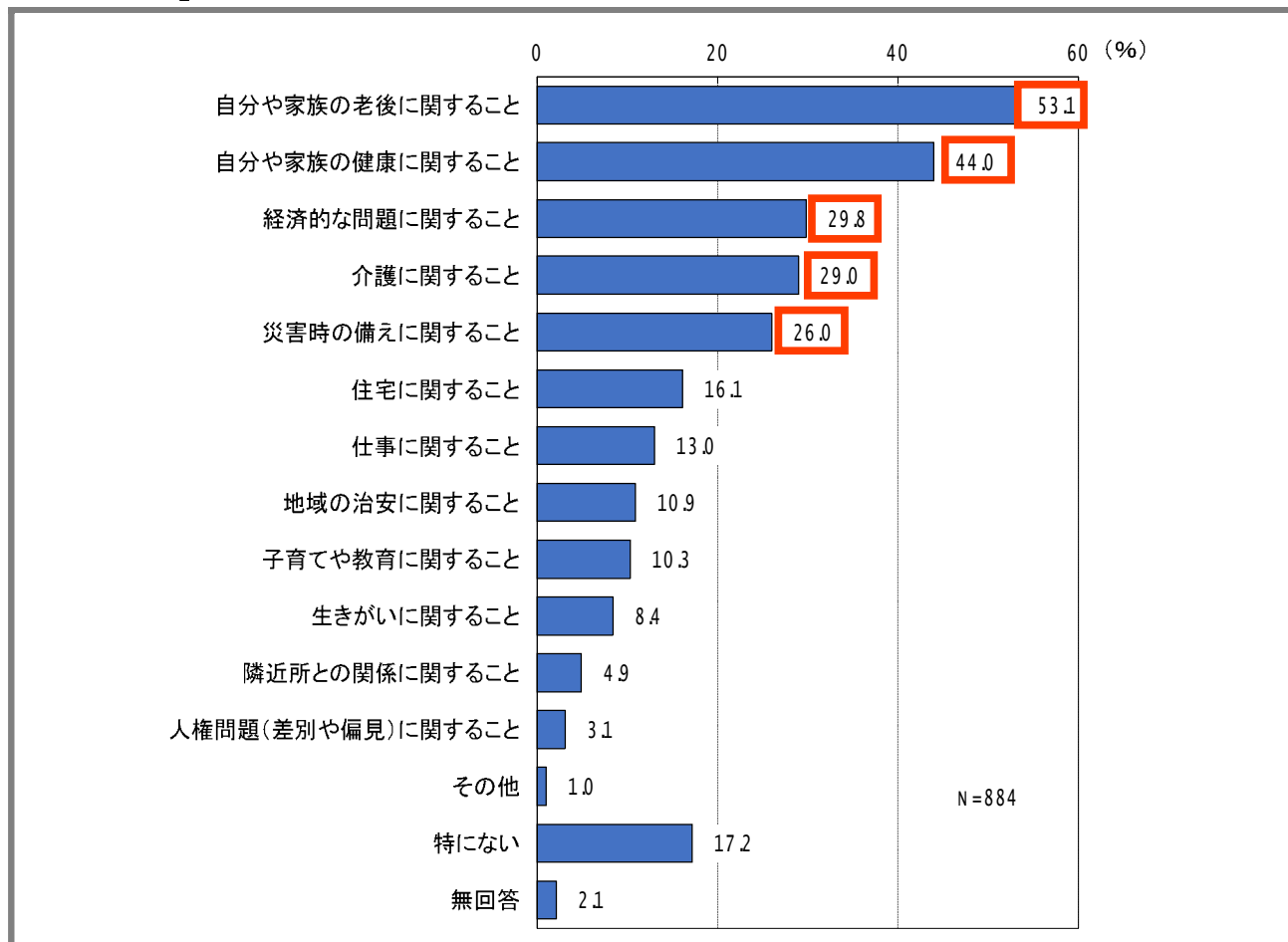
問20 ボランティア活動に参加するための窓口を知っていますか。【〇は1つだけ】
また、「1. 知っている」とご回答された方は（ ）にその窓口をご記入ください。



- ボランティア活動に参加するための窓口を「知っている」と回答した人の割合は全体の 3.5%、「知らない」と回答した人の割合は 92.2%となっている。
- 「知っている」と回答した31人のうち、具体的な窓口を記入した人は24人で、そのうち「社会福祉協議会」と回答した人が8人、「ボランティアセンター」と回答した人が6人、「町内会・自治会」と回答した人が4人、その他に「ハピネスなかま」、「NPO法人」、「グリーンコープ」、「地域交流センター」と回答した人がそれぞれ1人ずつとなっている。

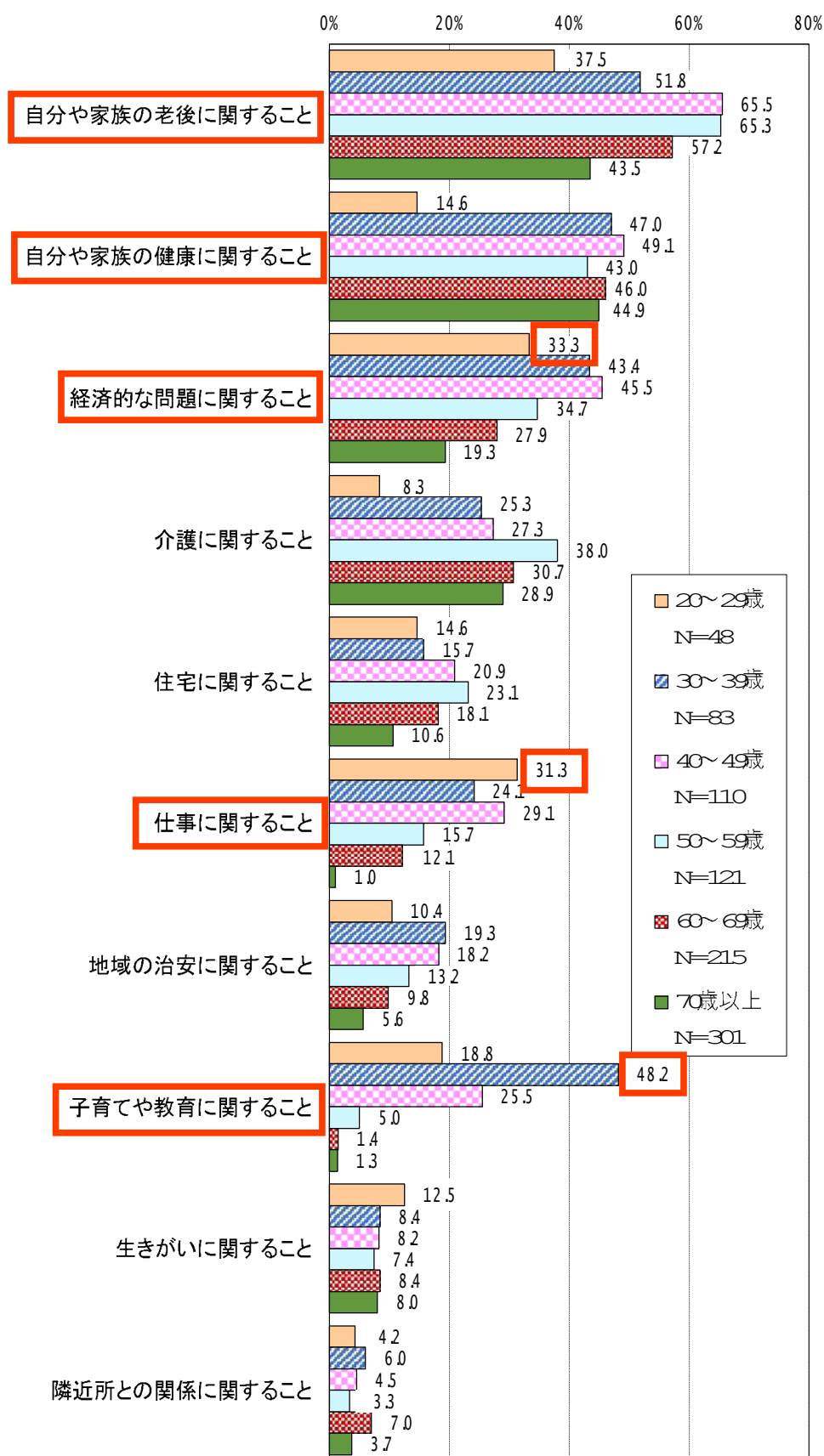
Ⅳ. 福祉サービスについて

問21 あなたは現在、日々の生活においてどのような悩みや不安を感じていますか。【あてはまるもの全てに○】



- 日々の生活でどのような悩みや不安を感じているかをたずねたところ、「自分や家族の老後に関すること」(53.1%)や「自分や家族の健康に関すること」(44.0%)という回答が多く、以下、「経済的な問題に関すること」(29.8%)、「介護に関すること」(29.0%)、「災害時の備えに関すること」(26.0%)と続いている。

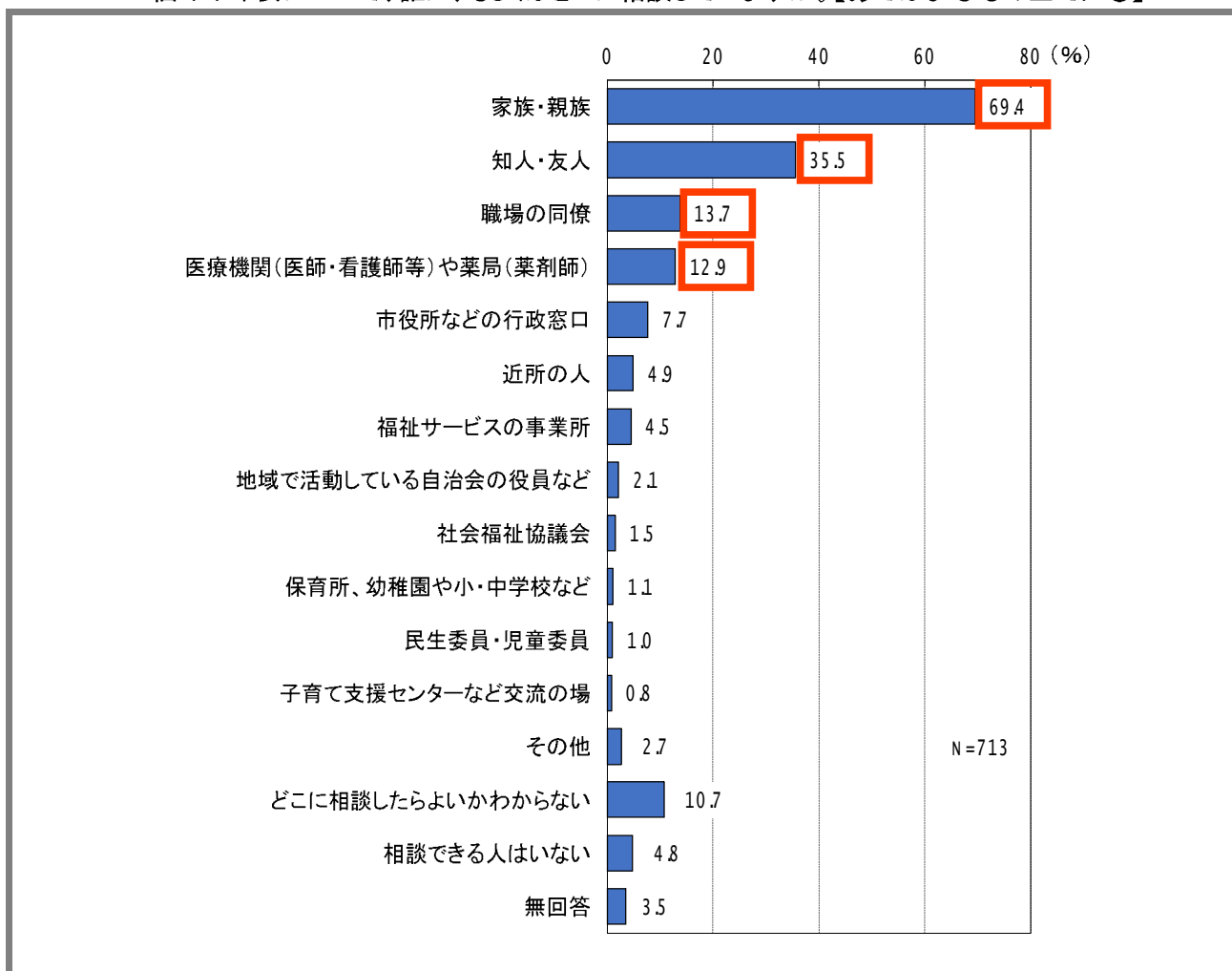
《年齢階層別クロス集計結果（上位10項目抜粋）》



- 年齢階層別に見ると、「自分や家族の老後に関する事」や「自分や家族の健康に関する事」については、ほとんどの年齢階層において上位を占めているが、「30~39歳」では「子育てや教育に関する事」、「20~29歳」では「経済的な問題に関する事」や「仕事に関する事」を選択した人も多くなっている。

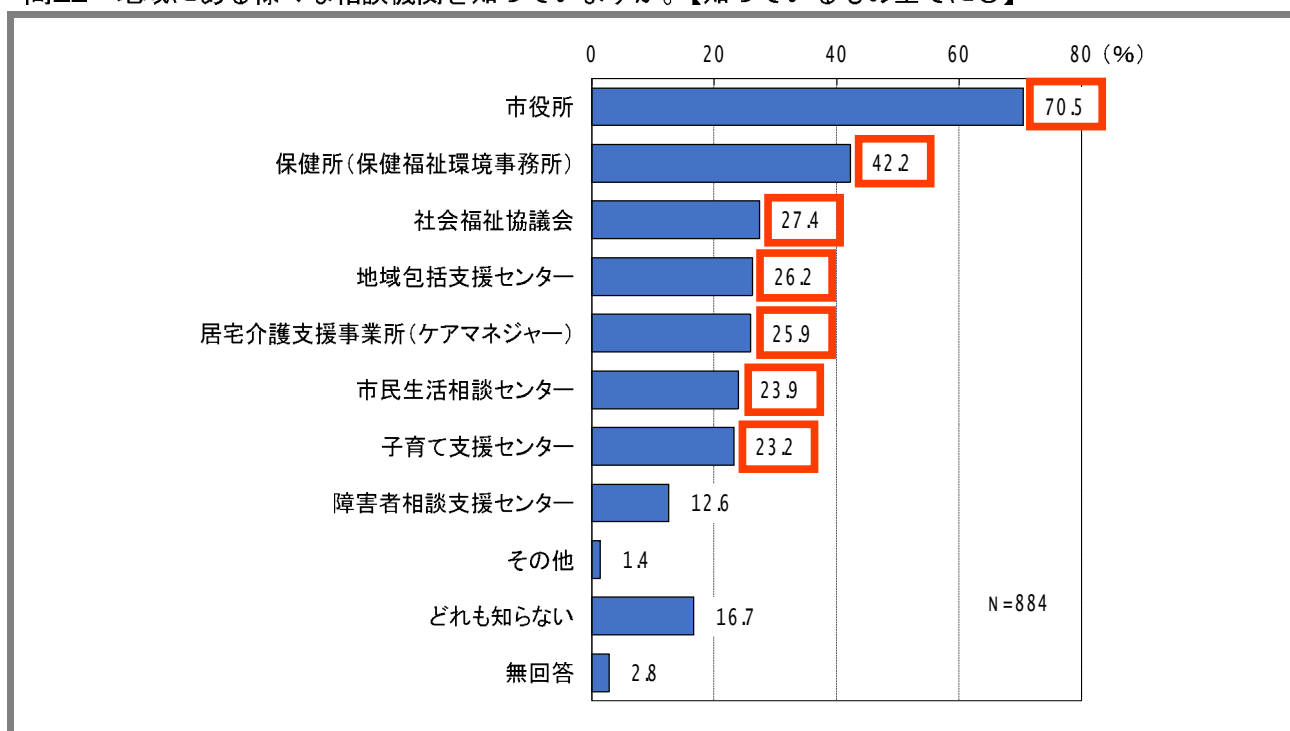
問21-1 問21で、1～13 のいずれかにご回答された方のみお答えください。

悩みや不安について、誰に、もしくはどこに相談していますか。【あてはまるもの全てに○】



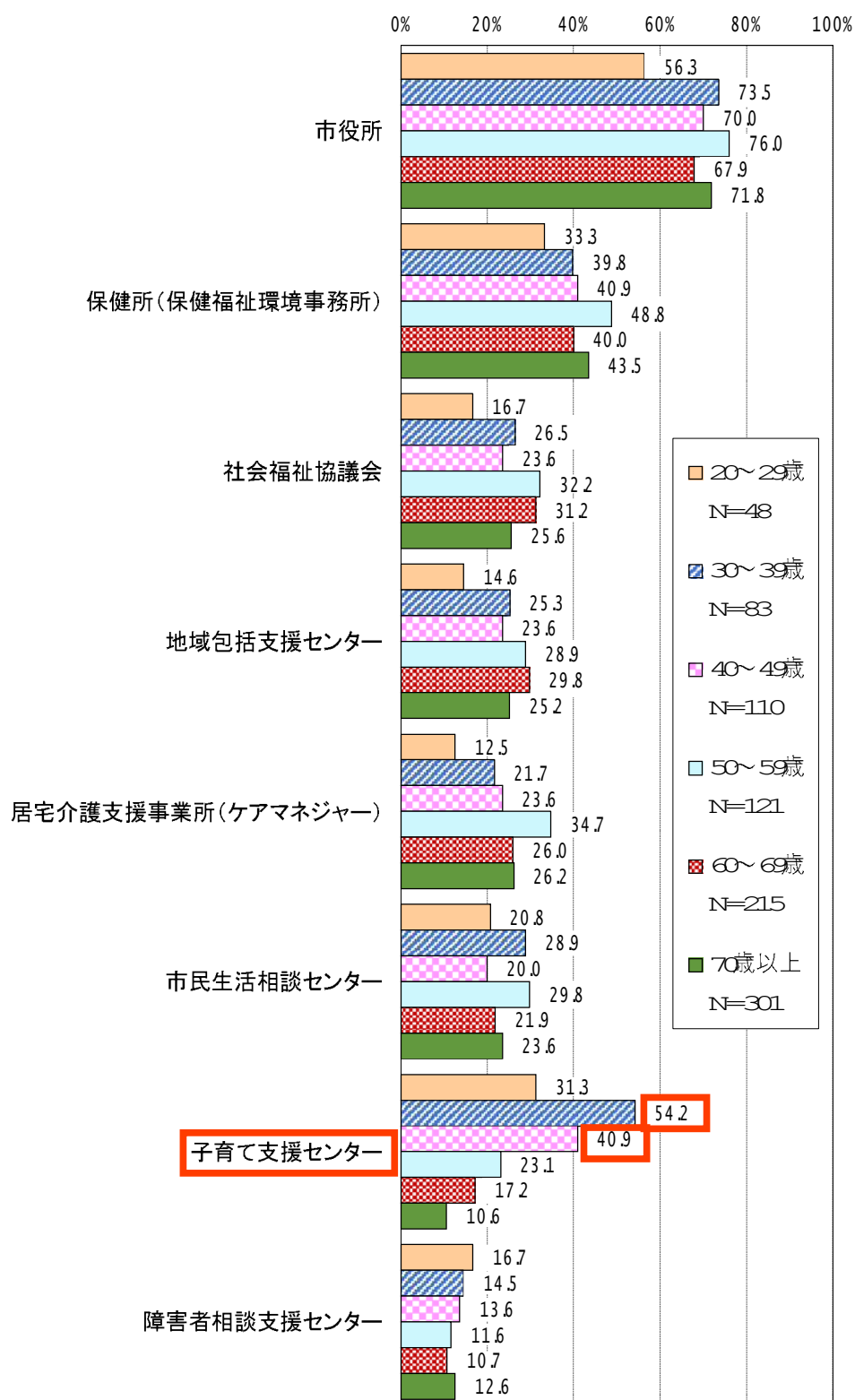
- 日々の生活における悩みや不安がある人に対して、悩みや不安の相談先をたずねたところ、「家族・親族」が69.4%と圧倒的に多く、「知人・友人」が35.5%、「職場の同僚」が13.7%「医療機関（医師・看護師等）や薬局（薬剤師）」が12.9%でそれに続いている。

問22 地域にある様々な相談機関を知っていますか。【知っているもの全てに○】



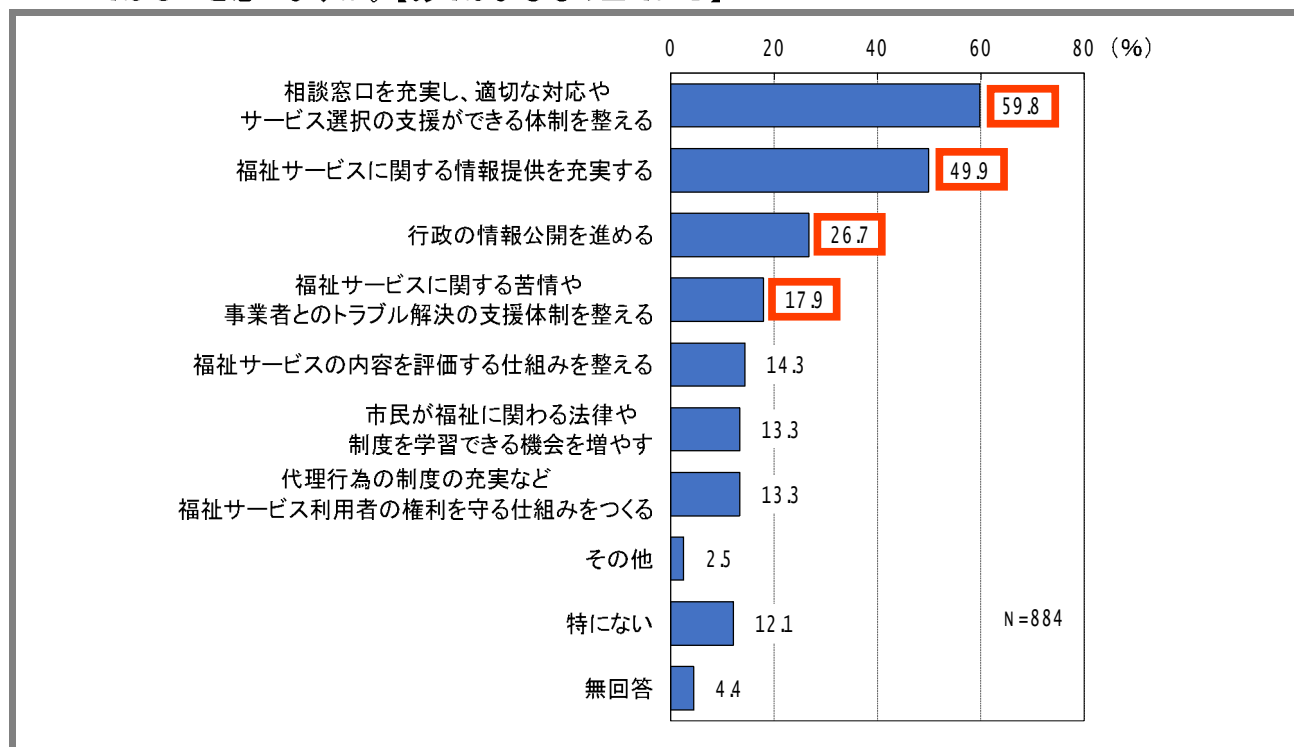
- 地域にある様々な相談機関の認知度については、「市役所」が70.5%と最も高く、以下、「保健所（保健福祉環境事務所）」（42.2%）、「社会福祉協議会」（27.4%）、「地域包括支援センター」（26.2%）、「居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」（25.9%）、「市民生活相談センター」（23.9%）、「子育て支援センター」（23.2%）と続いている。

《年齢階層別クロス集計結果》



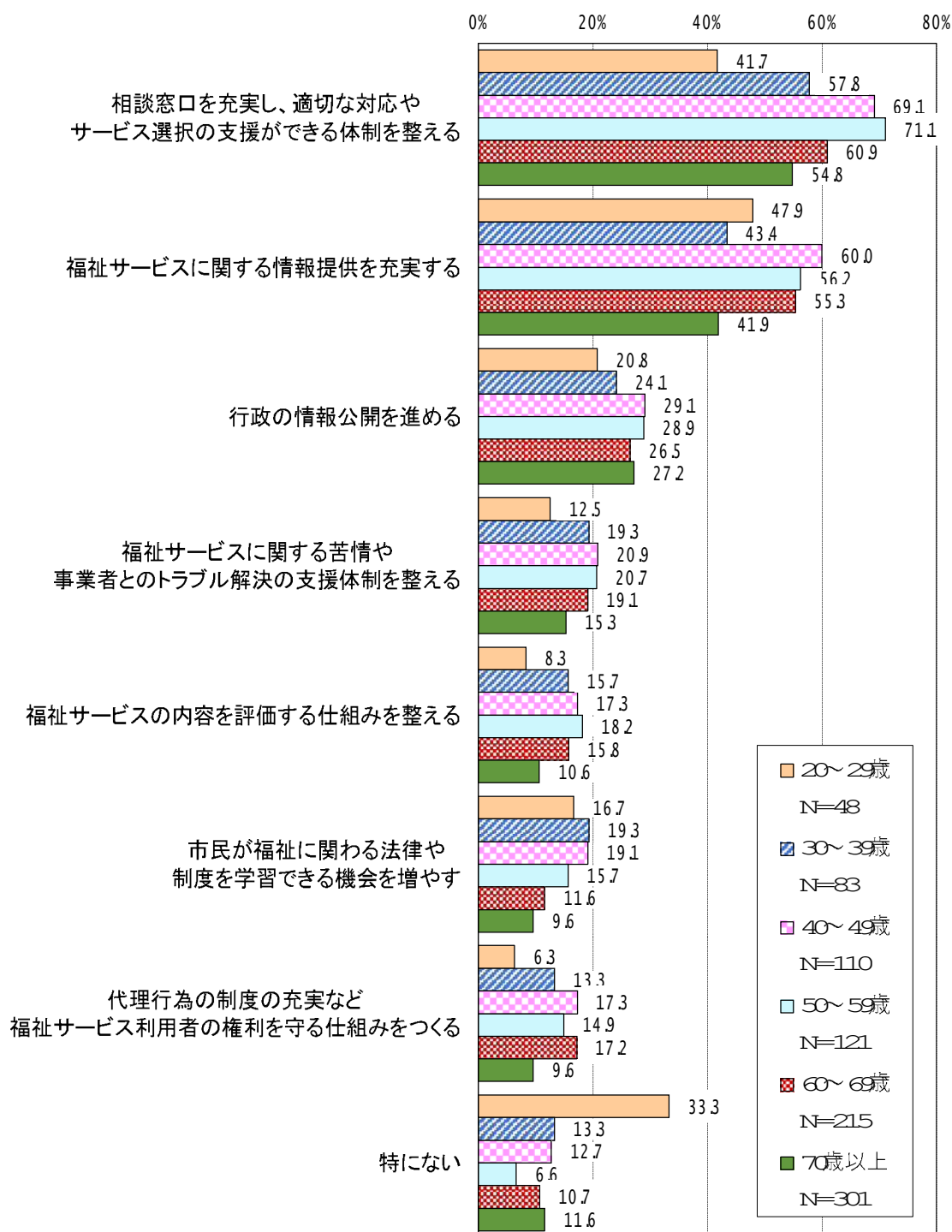
- 年齢階層別に見ても、全体集計の回答傾向と大きな差異はないが、「子育て支援センター」の認知度は、他の年齢階層に比べ「30～39歳」「40～49歳」の回答割合が高くなっている。

問23 あなたが最適な福祉サービスを安心して利用するためには、中間市にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】



- 自分に最適なサービスを安心して利用するために、今後中間市に取り組んでほしいと思うことについては、「相談窓口を充実し、適切な対応やサービス選択の支援ができる体制を整える」を選択した人が 59.8%と最も多く、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が 49.9%で、それに続いている。
- また、上記2項目とは少し開きがあるが、「行政の情報公開を進める」が 26.7%、「福祉サービスに関する苦情や事業者とのトラブル解決の支援体制を整える」が 17.9%となっている。

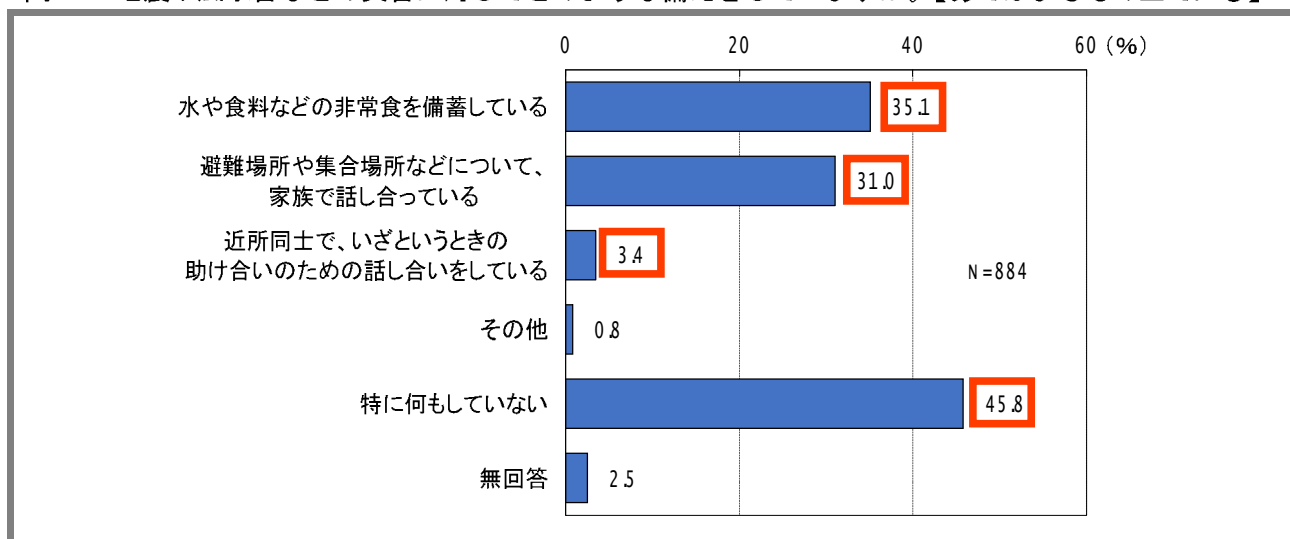
《年齢階層別クロス集計結果》



● 年齢階層別に見ても、全体集計の回答傾向と大きな差異は認められなかった。

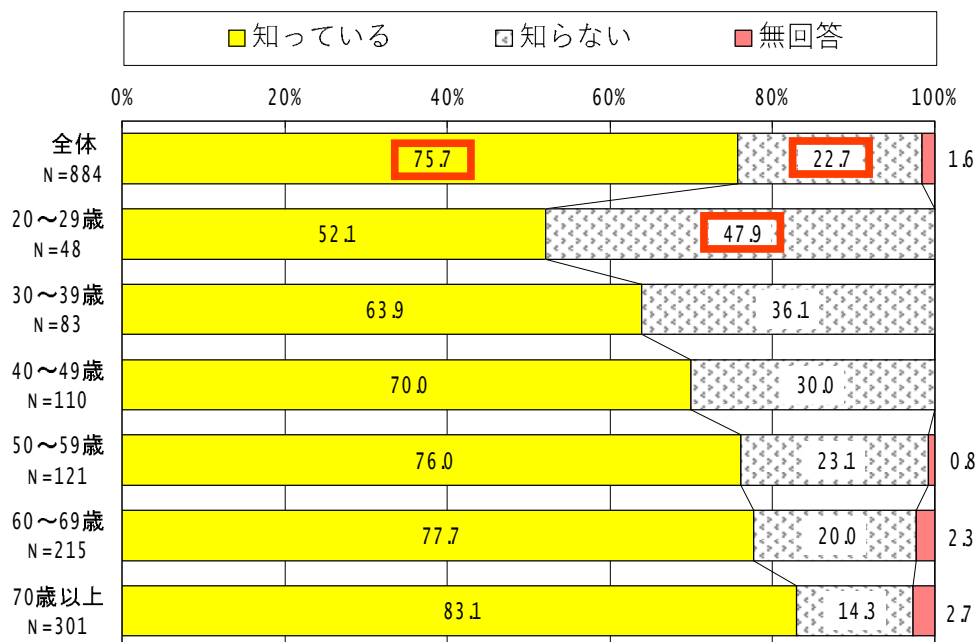
V. 災害時の対応について

問24 地震や風水害などの災害に対してどのような備えをしていますか。【あてはまるもの全てに○】

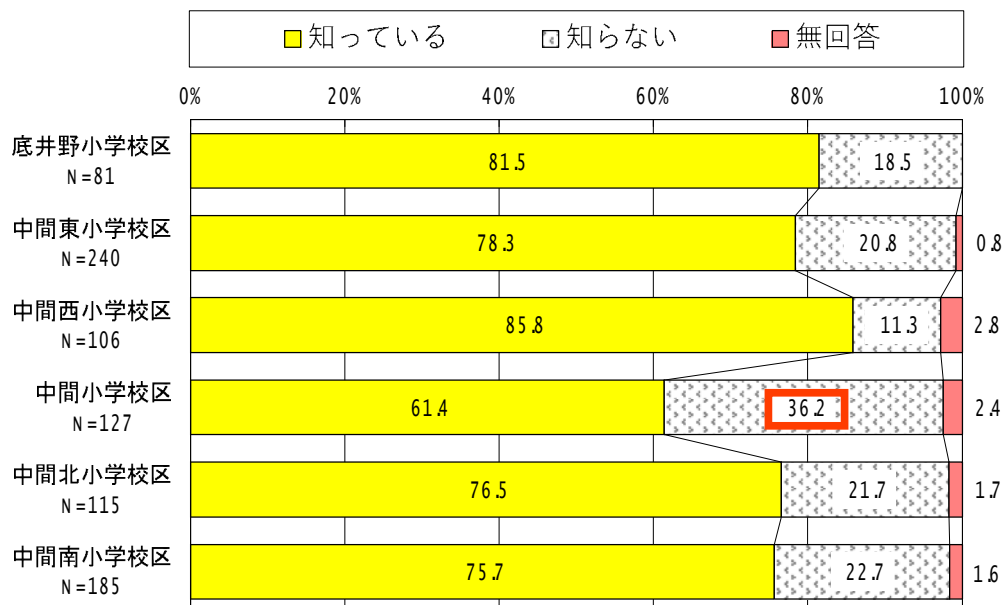


- 地震や風水害などの災害に対する備えについては、「特に何もしていない」と回答した人が 45.8%と多くなっており、「水や食料などの非常食を備蓄している」と回答した人が 35.1%、「避難場所や集合場所などについて、家族で話し合っている」と回答した人が 31.0%となっている。
- 「近所同士で、いざというときの助け合いのための話し合いをしている」と回答した人は 3.4%と低い割合となっている。

問25 あなたの地域における災害時の避難場所を知っていますか。【〇は1つだけ】

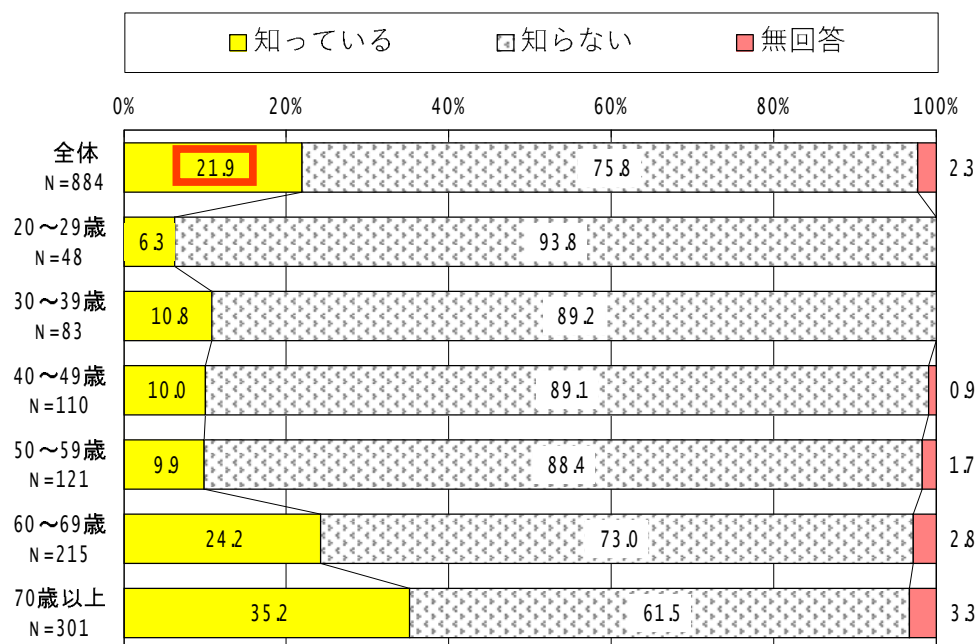


《居住小学校区別クロス集計結果》

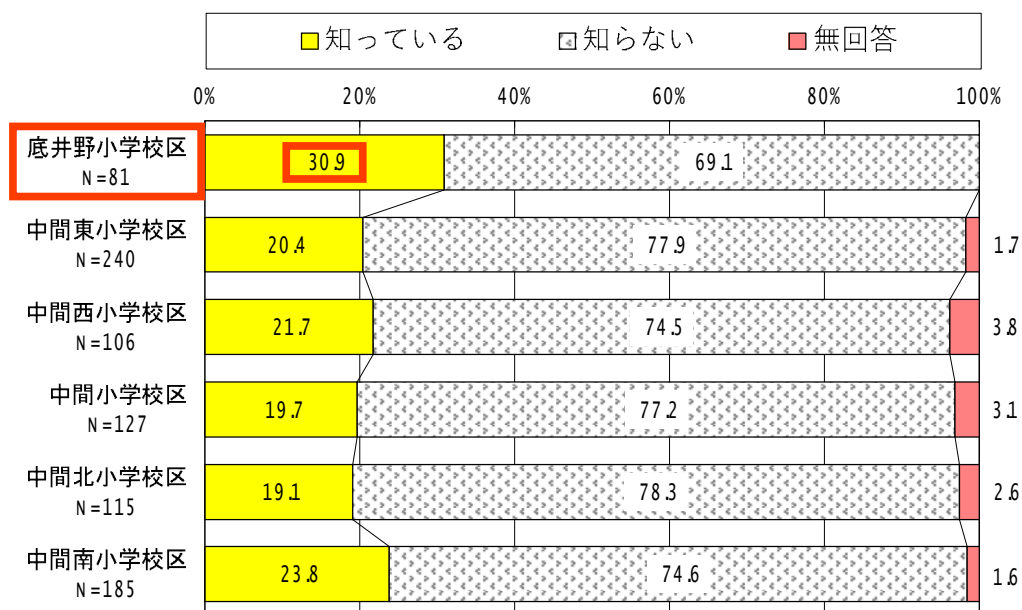


- 災害時の避難場所を「知っている」と回答した人の割合は全体の75.7%、「知らない」と回答した人は22.7%となっている。
- 年齢階層別に見ると、「知らない」と回答した人の割合が最も高かったのは「20～29歳」(47.9%)で、年齢階層が高くなるにつれて低くなっている。
- 居住小学校区別に見て、他に比べ「知らない」と回答した人の割合が特に高かったのは「中間小学校区」(36.2%)となっている。

問26 あなたの自治会には自主防災組織があることを知っていますか。【○は1つだけ】



《居住小学校区別クロス集計結果》



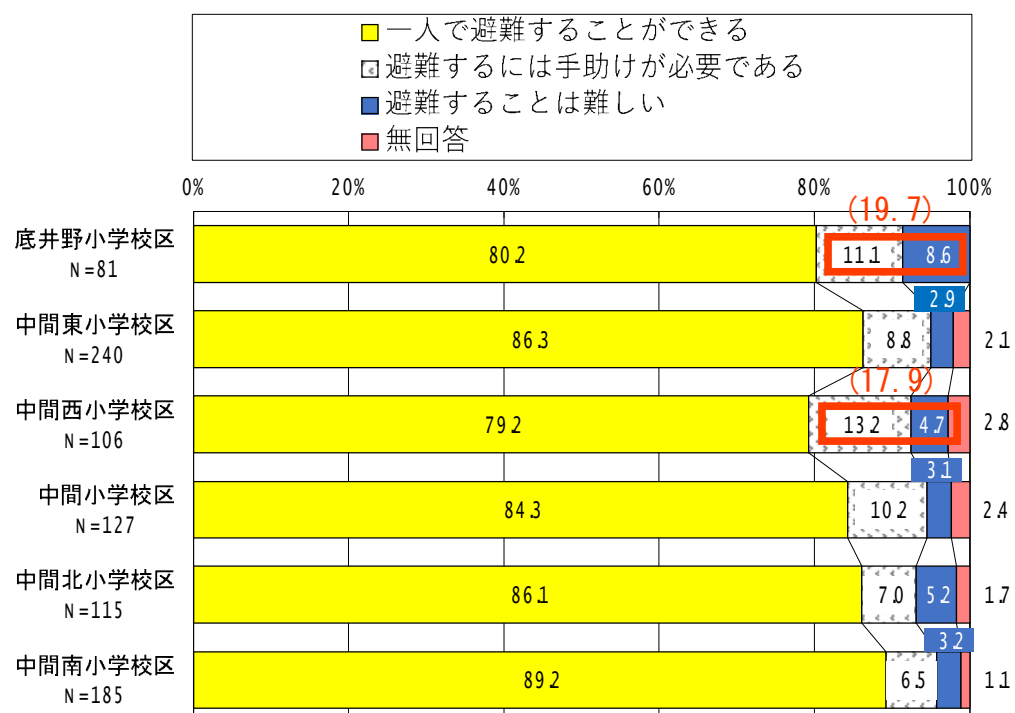
- 自治会に自主防災組織があることを「知っている」と回答した人の割合は全体の21.9%で、60歳未満の認知度は1割前後となっている。
- 居住小学校区別に見ると、「底井野小学校区」は他の校区に比べ「知っている」と回答した人の割合がやや高くなっている。

問27 あなたは災害（地震や水害）発生時に避難することができますか。【〇は1つだけ】



- 災害（地震や水害）発生時に「避難することは難しい」と回答した人の割合は全体の4.0%、「避難するには手助けが必要である」と回答した人の割合は9.3%となっている。
- 「避難することは難しい」または「避難するには手助けが必要である」と回答した人の割合を年齢階層別に見ると、「70歳以上」が16.3%と最も高く、次いで「30～39歳」が15.6%となっている。

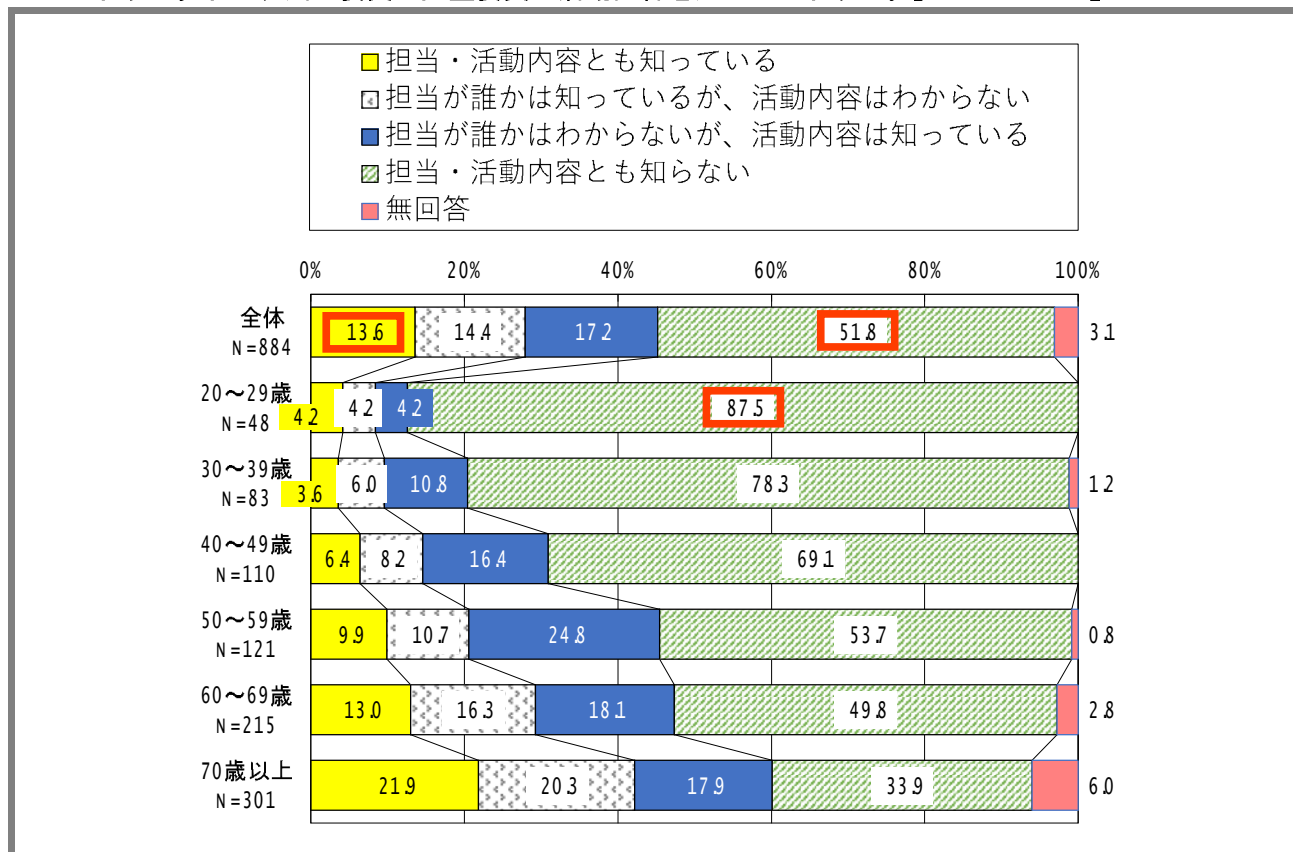
《居住小学校区別クロス集計結果》



- 「避難することは難しい」 または「避難するには手助けが必要である」と回答した人の割合を居住小学校区別に見ると、「底井野小学校区」が 19.7%と最も高く、次いで「中間西小学校区」が 17.9%となっている。

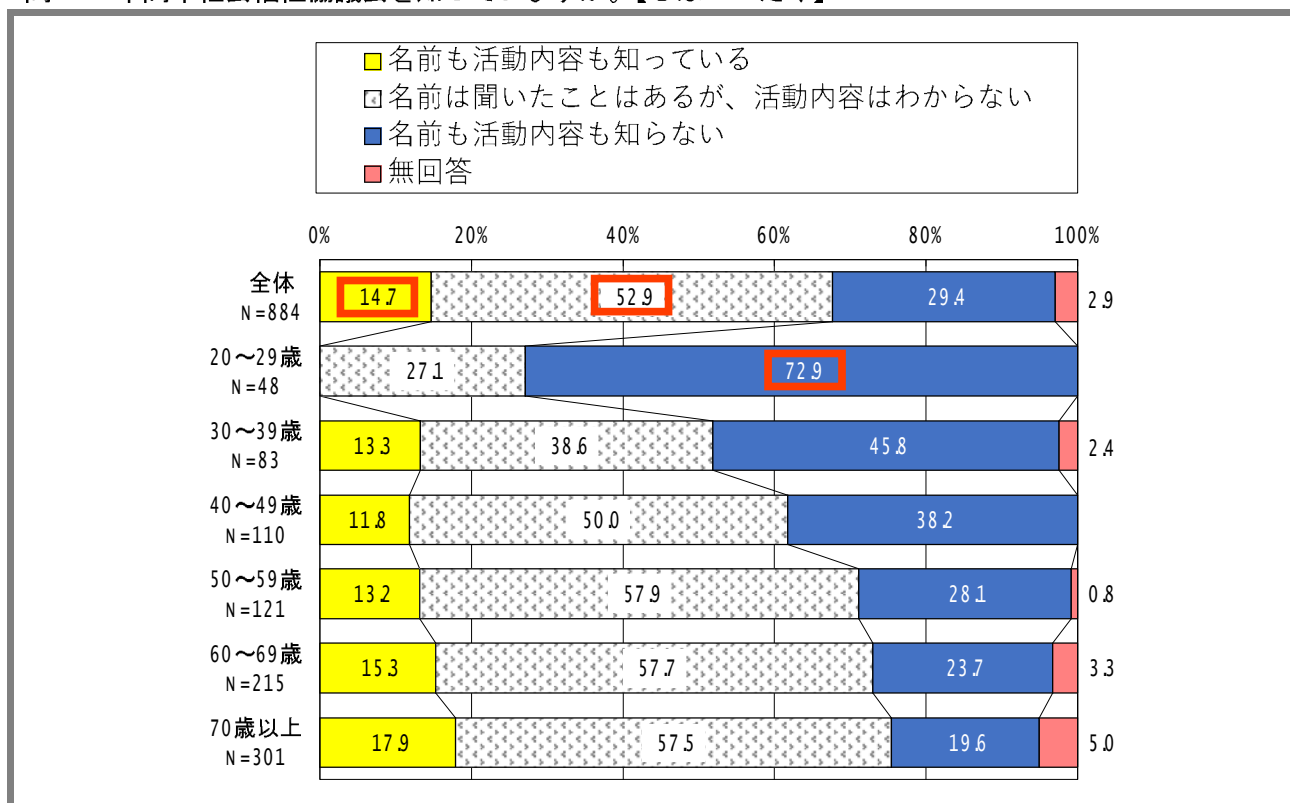
Ⅵ. 福祉施策全般について

問28 あなたがお住まいの地域を担当している民生委員・児童委員（主任児童委員を含む）を知っていますか。また、民生委員・児童委員の活動内容を知っていますか。【〇は1つだけ】



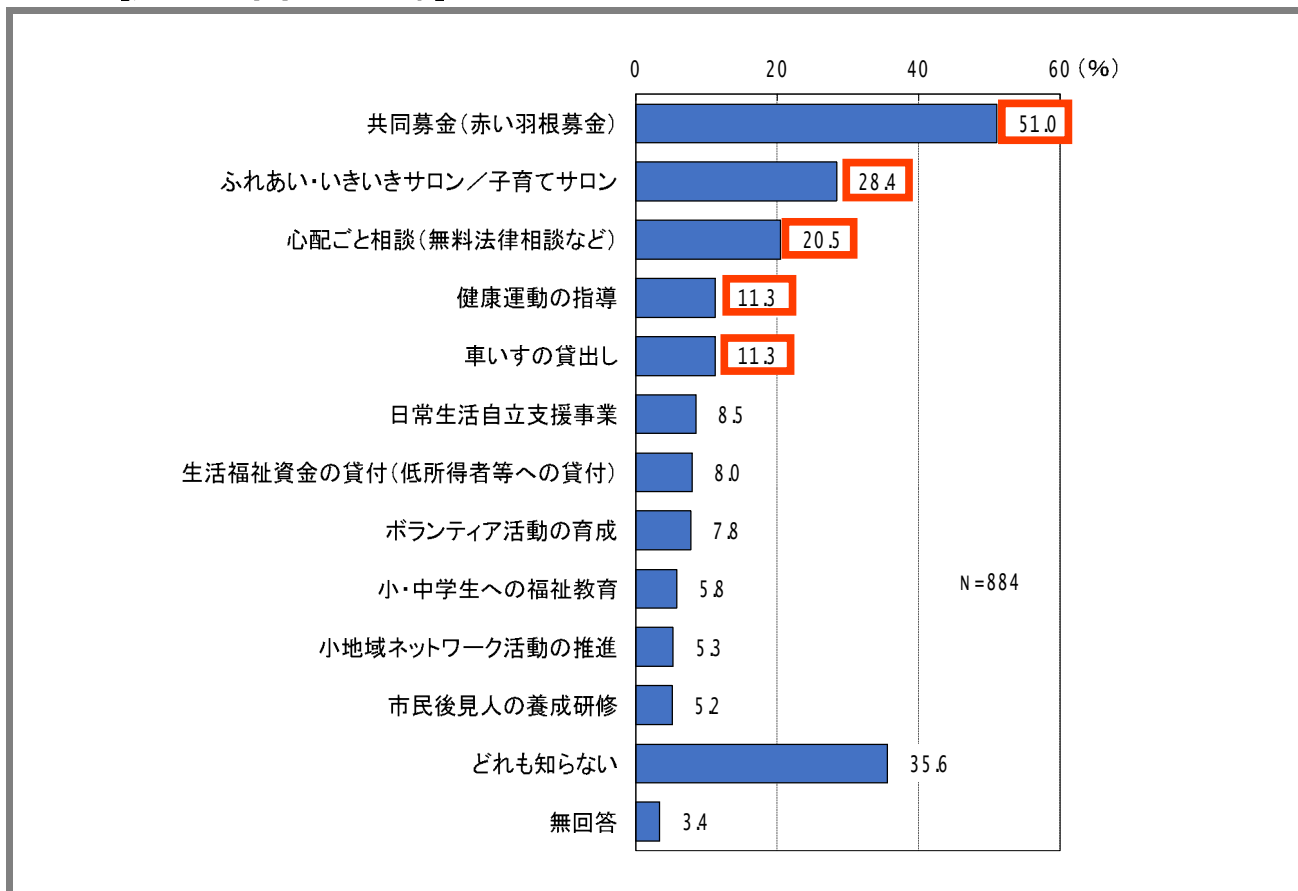
- 居住地域を担当している民生委員・児童委員の認知度については、「担当・活動内容とも知らない」と回答した人の割合が全体の51.8%と最も高く、「担当・活動内容とも知っている」と回答した人の割合は全体の13.6%にとどまっている。
- 年齢階層別に見ると、年齢階層が低くなるにつれて認知度も低くなっており、「20～29歳」では「担当・活動内容とも知らない」と回答した人の割合が87.5%にのぼっている。

問29 中間市社会福祉協議会を知っていますか。【〇は1つだけ】



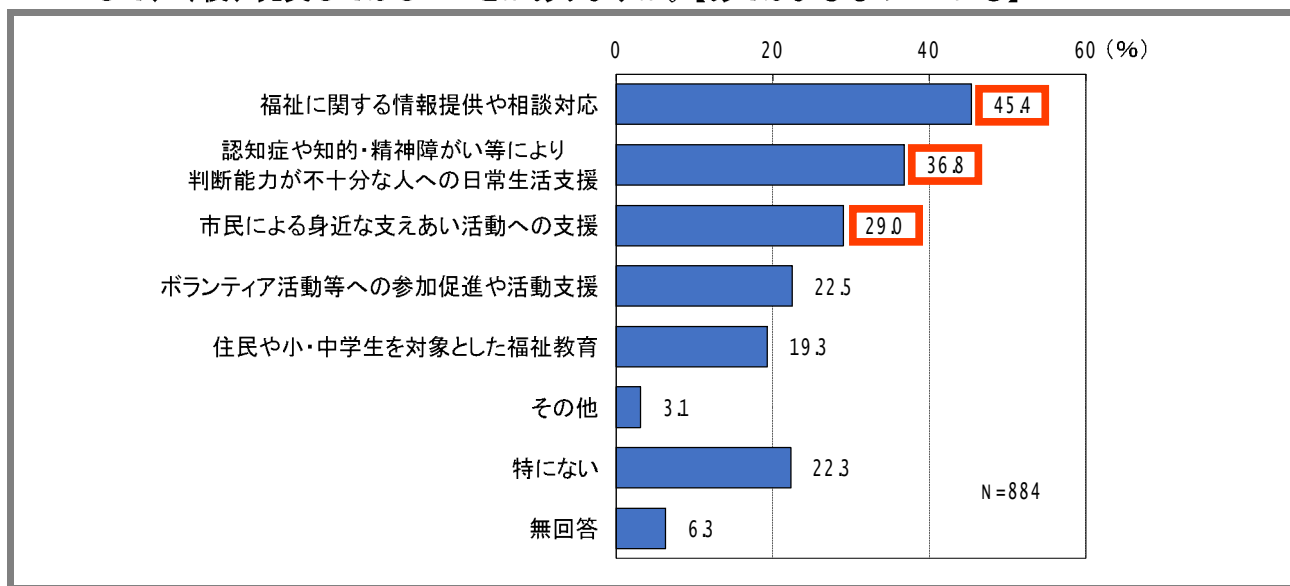
- 「中間市社会福祉協議会」については、「名前は聞いたことはあるが、活動内容はわからない」と回答した人の割合が全体の52.9%と最も高く、「名前も活動内容も知っている」と回答した人の割合は全体の14.7%にとどまっている。
- 年齢階層別に見ると、年齢階層が低くなるにつれて認知度も低くなっており、「20～29歳」では「名前も活動内容も知らない」と回答した人の割合が72.9%となっている。

問30 現在、中間市社会福祉協議会で行っている次の事業を知っていますか。
【知っているもの全てに○】



- 「中間市社会福祉協議会」が行っている各種事業の認知度については、「共同募金（赤い羽根募金）」が 51.0%と最も高く、以下、「ふれあい・いきいきサロン／子育てサロン」（28.4%）、「心配ごと相談（無料法律相談など）」（20.5%）、「健康運動の指導」「車いすの貸出し」（ともに 11.3%）と続いている。

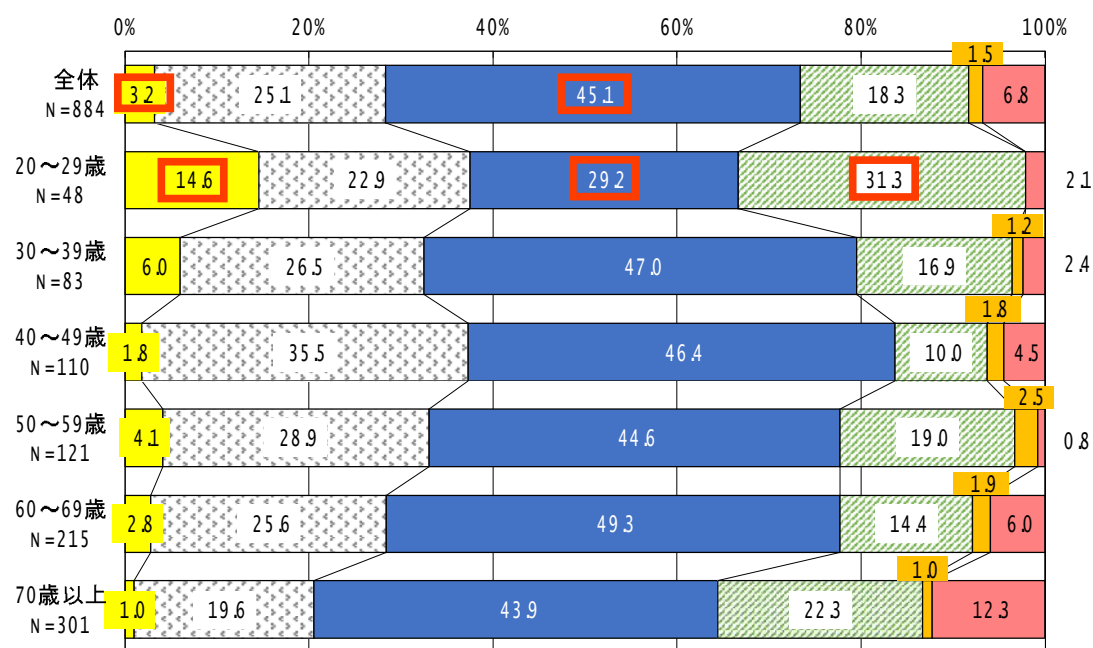
問31 中間市社会福祉協議会は、様々な地域福祉活動を行っています。中間市社会福祉協議会の活動として、今後、充実してほしいことがありますか。【あてはまるもの3つに○】



- 中間市社会福祉協議会の活動として、今後、充実してほしいことについては、「福祉に関する情報提供や相談対応」が45.4%と最も多く、以下、「認知症や知的・精神障がい等により判断能力が不十分な人への日常生活支援」(36.8%)、「市民による身近な支えあい活動への支援」(29.0%)と続いている。

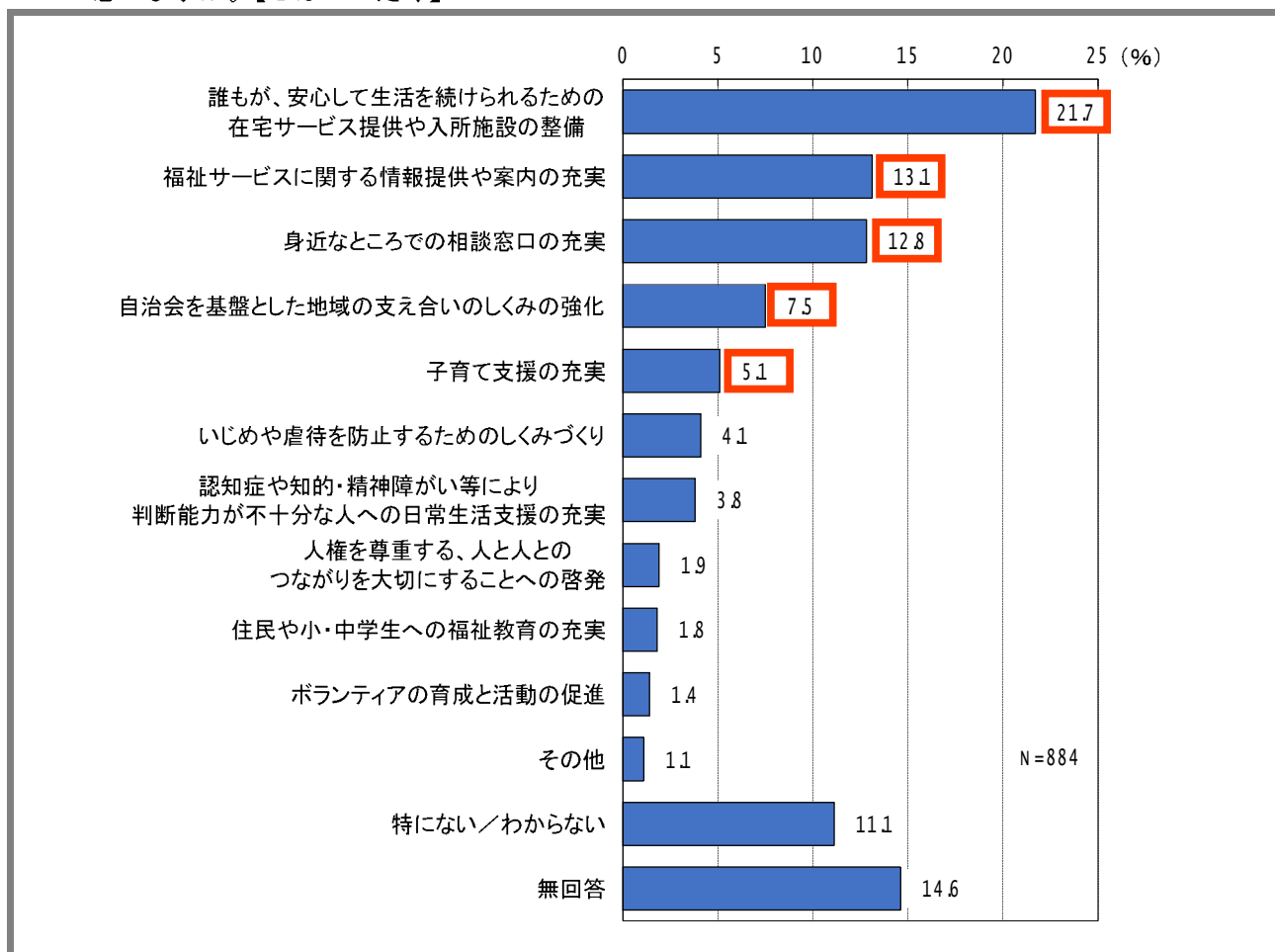
問32 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係について、あなたのお考えに最も近いものは何ですか。【〇は1つだけ】

- ☐ 社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない
☐ まず行政が実施し、できない場合に住民が協力していくべきである
☐ 福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合いとにも取り組むべきである
☐ まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである
☐ その他
☐ 無回答



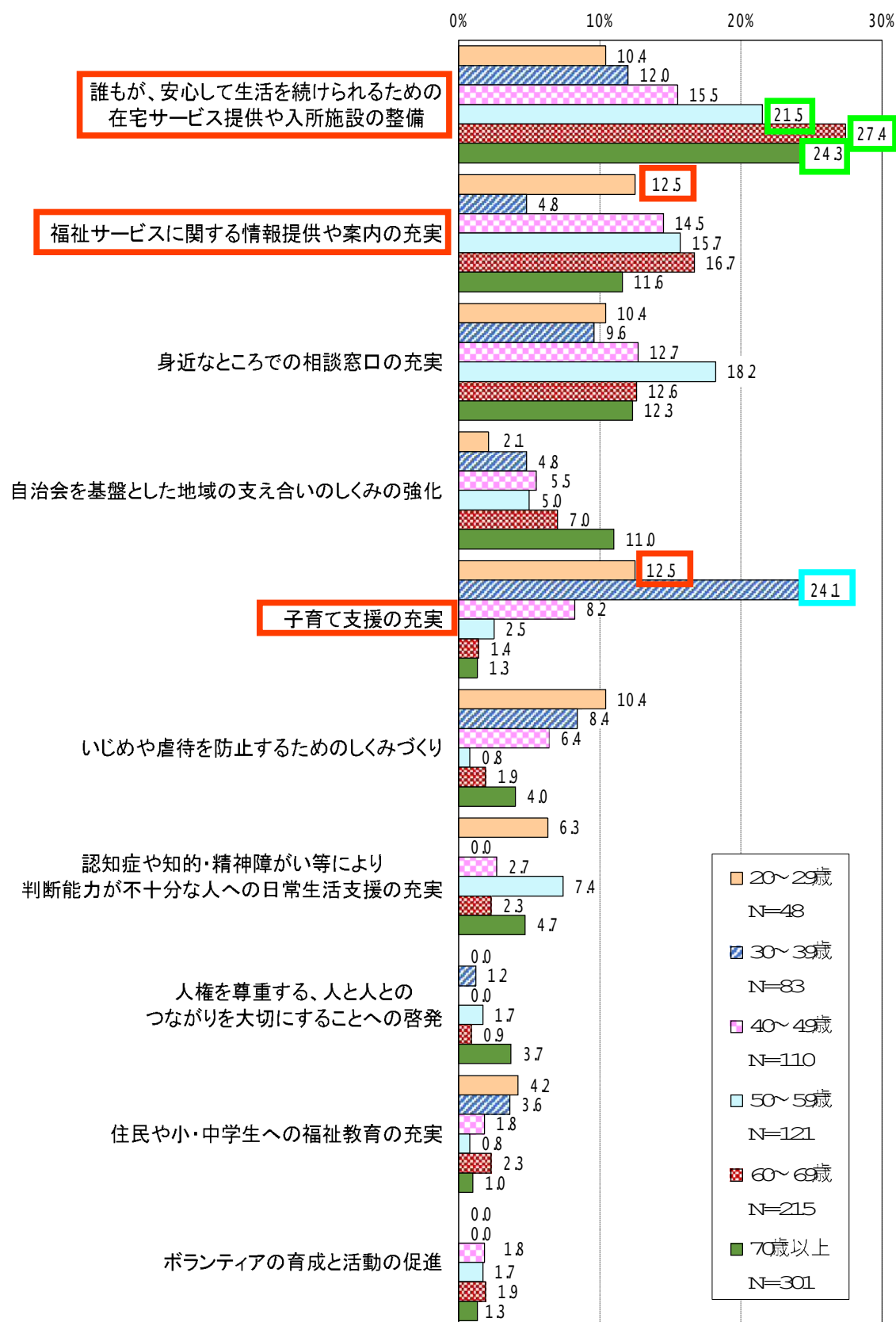
- 福祉を充実させていくうえでの行政と地域住民との関係についての考えについては、「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合いとにも取り組むべきである」を選択した人が全体の45.1%と最も多く、「社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない」という考えは3.2%にとどまっている。
- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が協力していくべきである」を選択した人が31.3%と、「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合いとにも取り組むべきである」を選択した人(29.2%)を上回っているが、一方で「社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない」を選択した人も14.6%と、他の年齢階層に比べると高い割合となっている。
- また、「20～29歳」と「70歳以上」を除くいずれの年齢階層においても、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が協力していくべきである」という考え方よりも「まず行政が実施し、できない場合に住民が協力していくべきである」という考え方の方が多くなっている。

問33 今後、中間市の地域福祉の充実を図るためには、どのような施策に優先的に取り組んでほしいと思いますか。【〇は1つだけ】



- 今後、中間市の地域福祉の充実を図るために優先的に取り組んでほしい施策については、「誰もが、安心して生活が続けられるための在宅サービス提供や入所施設の整備」と回答した人が 21.7%と最も多く、以下、「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実」(13.1%)、「身近なところでの相談窓口の充実」(12.8%)、「自治会を基盤とした地域の支え合いのしくみの強化」(7.5%)、「子育て支援の充実」(5.1%)と続いている。

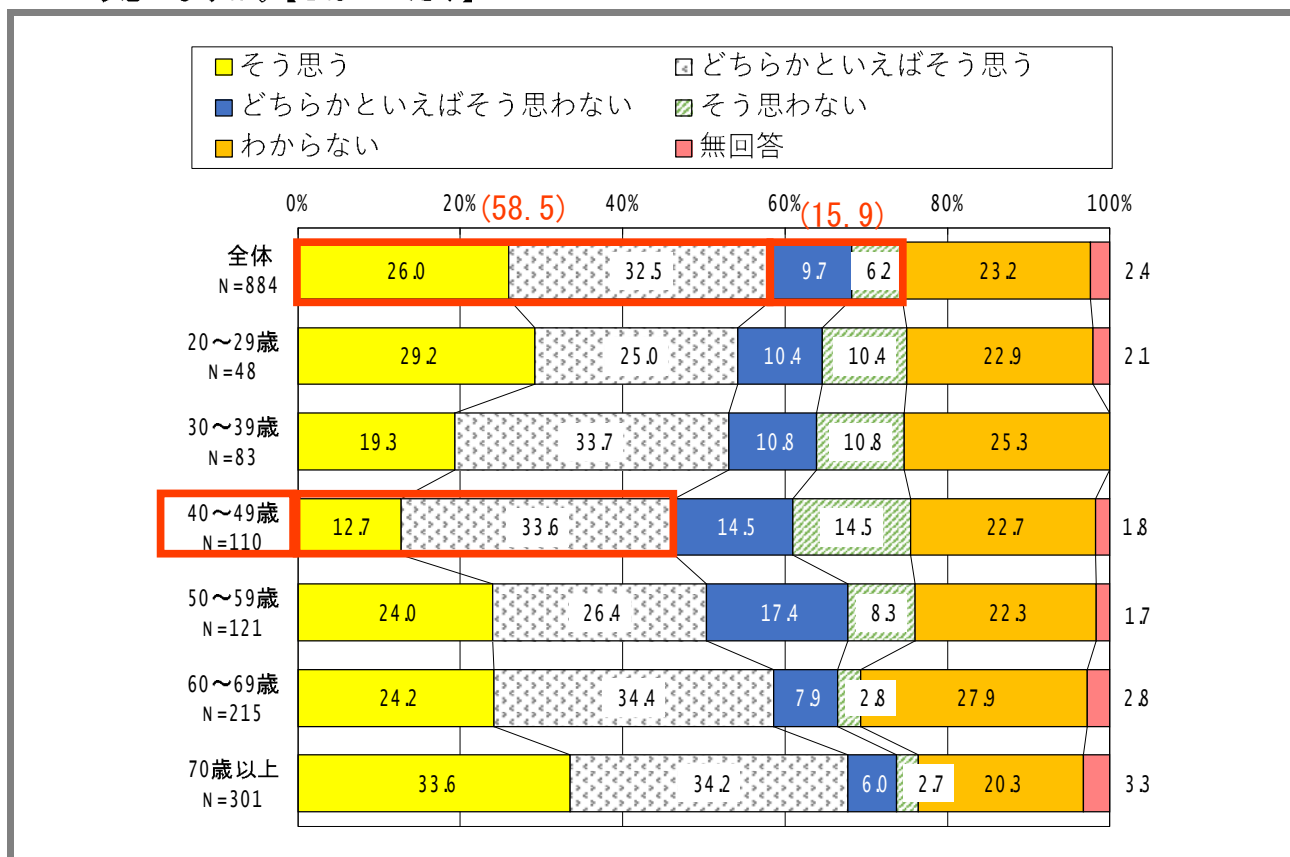
《年齢階層別クロス集計結果》



- 年齢階層別に見ると、「20～29歳」では「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実」と「子育て支援の充実」、「30～39歳」では「子育て支援の充実」、40歳以上では「誰もが、安心して生活が続けられるための在宅サービス提供や入所施設の整備」が、それぞれ最も高い割合となっている。

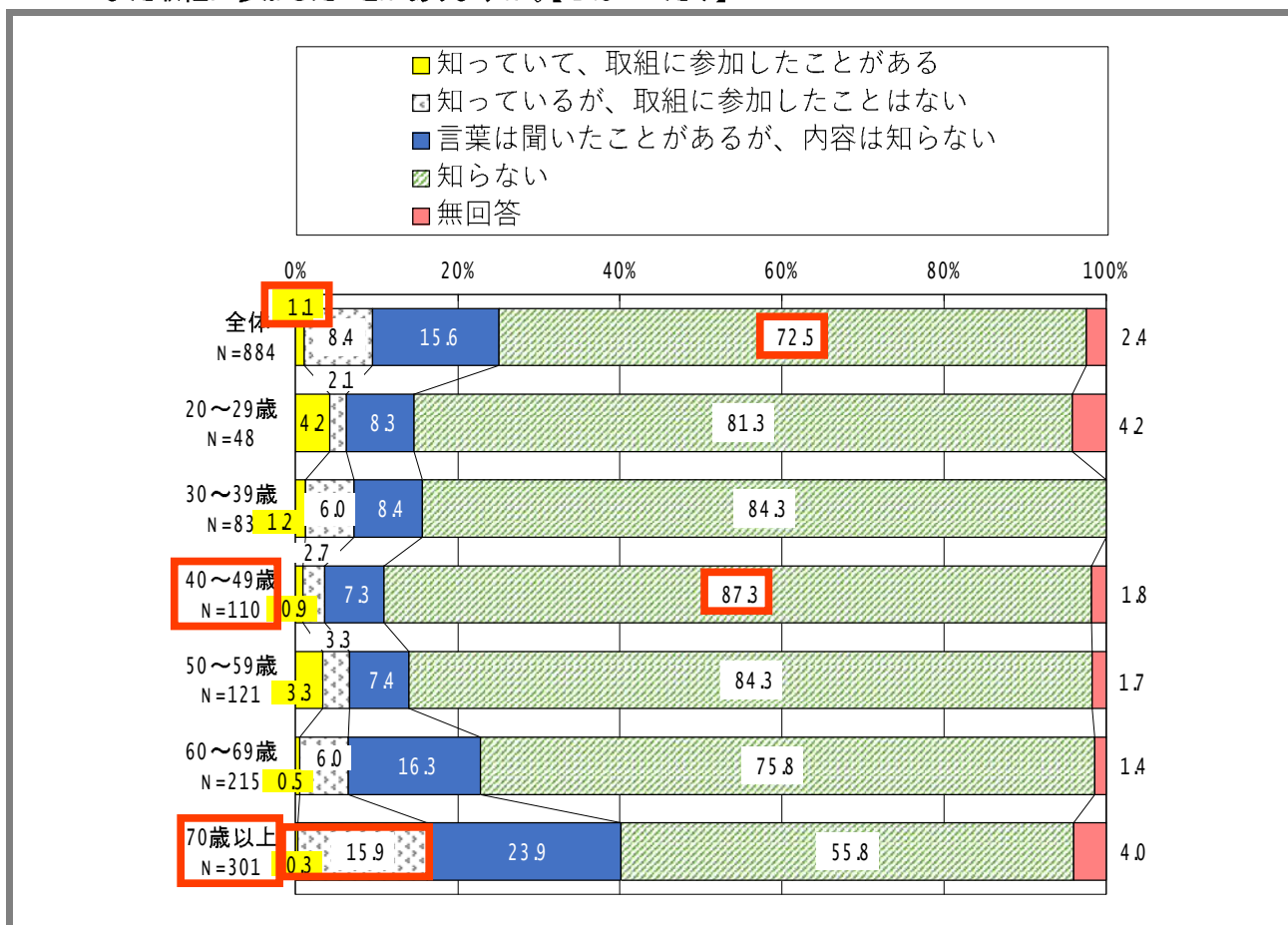
Ⅶ. 再犯防止対策について

問34 「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である。」という意見について、どう思いますか。【〇は1つだけ】



- 「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である。」という意見について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は全体の58.5%で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合(15.9%)を42.6ポイント上回っている。
- 年齢階層別に見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も低かったのは「40~49歳」で、ここから年齢階層が高くなるにつれて、また逆に年齢階層が低くなるにつれて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が高くなっている。

問35 再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」を知っていますか。
また取組に参加したことがありますか。【○は1つだけ】



- 「社会を明るくする運動」を「知っていて、取組に参加したことがある」と回答した人の割合は全体の1.1%にとどまっており、「知らない」と回答した人が72.5%と大半を占めている。
- 年齢階層別に見て、最も認知度が低かったのは「40～49歳」で、他の年齢階層に比べると「70歳以上」の認知度が高くなっている。

VIII. 自由回答

問36 今後、中間市の地域福祉を進めるために必要な活動・アイデアや、その他ご意見・ご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

(1) 底井野小学校区

性別	年齢	内 容
男性	30～39 歳	小中学校統廃合反対。
	60～69 歳	防災、福祉分野への財政支援をしっかりとしてほしい。
	70 歳以上	全世帯が自治会に加入する仕組み作りを早急に。
女性	20～29 歳	コロナで大変なので 10 万円お願いします。
	30～39 歳	学童保育の閉所時間を延長してほしい。18 時までのため仕事が終わってからの迎えがぎりぎりになってしまう。少しでも道が混んでいると 18 時を過ぎてしまうこともあり、子どもも不安になっている。ひとり親のため代わりに迎えを頼める人もおらず転職も考えている。せめて 18 時半まで預かってもらえるようにしてほしい。保育所のように延長保育代を徴収し延長で預かってもらえるとう助かります。
		行政の方々日々ご多忙で大変なことと思います。私は職業柄、生活にお困りの方を各役所相談窓口につないだり、何か手助けいただけないかお願いしたりする立場でもあります。中間市に限ったことではなく、各役所に制限やルール、考え方がすることは重々承知していますが、お困りの方を家族内で支えるしかないケースに数々直面してきました。現代の世の中のニーズに合った柔軟なサービス（独居高齢者などの受診同行や認知症初期集中支援チーム）が充実していくことを願っています。
		高齢者、障がい者、子育て、住民税非課税の低所得者ではなくてもその人達以上に困窮している人がいる事を知るべき。仕事をしていても最低水準以下の困窮している人には何も保障がないのが実態です。
	40～49 歳	使用する助かるものがあっても知らない人が多い気がします。気軽に相談できる場所。足が悪い人でも無料電話で相談できるように等、平等に市民が使える状態にしてほしい。知らない人が損をするようなやり方はおかしいと思います。
		子どもが誰でも集まれる場所、子ども食堂など気軽に立ち寄れる場所作り。一人暮らしや高齢者だけで住んでいる人達への定期的な声かけ。小学生の登下校の見守り。経済的に厳しい家庭への支援（プライバシーの保護）。
	50～59 歳	私の住んでいる近辺にはスーパー等がないため、年を取った時に誰かの手を借りないと買い物に行けないのではないかと不安です。小さなスーパーでも良いのでほしいです。今、中間市は発展している所とそうではない所が大きく差があると思います。田舎の方にも目を向けてほしい。
	60～69 歳	何かあった時に市役所に行けば何とかかなと思えることをお願いしたい。相談できる場所であってほしい。知っているようで知らない事の方が多い。助けてほしい時に相談できる場所であってほしい。
		情報を整理してどんなことが現在あるのかを知りたい。

性別	年齢	内 容
女性	60～69 歳	再犯防止対策については犯罪にも色々な罪名があります。更生を促すために働きかける保護司や民生委員などの方達の質の向上を求めたい。マニュアル通りのボランティアをしても再犯は無くなりません。このような政策は地域活動全てにおいて決議された事柄ばかりを基礎的に進めているだけとしか受けとめられなくて真剣に思考できない。
	70 歳以上	現実的に問題に直面しないと普段の生活では考えることが少ないように思う。必要となった時の相談窓口や支援体制が分かるような機会があれば良いと思う。
		市民の意見、意思を十分に理解してほしい。とりあえず市民の考えを知ることが大事であると思う。困難だと思うがやるべきことは確実に行ってほしい。
		市立病院がなくなり残念です。中央公民館での使用も残念。防災無線が聞き取りにくい。市の職員の人数を減らす事。
		車社会なので車の運転免許の更新ができない状態の方々が低料金で気軽に利用できる福祉タクシーがあれば。現状は個人的にタクシーを利用するしかない。病院、市役所の出張所がなくなり、高齢者は何らかの手続きをするにも不便。ゴミ袋を年、1～2 回でも配布して頂けるとありがたい。コロナ禍でのワクチン接種、他地域に比べ対応が少々不安。
		設問に出てくる専門用語をいかに理解発信させることが今後の課題。発信情報は見ているようで見ていない。こうして設問されて改めて反省しています。一軒々訪問し、情報を伝達すべきだと思います。

(2) 中間東小学校区

性別	年齢	内 容
男性	20～29 歳	いじめ関係の対策をもっと徹底してほしい。カウンセリングやアンケート等。
		具体的な数値の可視化（住民に現状が分かる形で）。自ら調べる人は少ないでしょうから、公共の場や人の集まる場所で見えるようにしてほしい。
		中間市の取組みや行動していることが全然伝わってこないのは若いから無知な事もあるが、目に付くようなしつこさを取ればいいのか。
	30～39 歳	中間市からの情報をもっと提供してほしいが、中間市だよりのみではなく訪問して意見も聞いてほしい。小中学校等で一般の人を含めた高齢者や子育てに対するセミナーや相談会を開いてほしい。近くの公民館に行くのは億劫だが小中学校だと子どものいる人もそうではない人も行きやすいように感じる。市役所の方と関わることも少ないのでボランティア活動等を通して話ができたらと思う。
	40～49 歳	まず何のために福祉をするのか。目的の理解が必要。福祉をすることで何が変わるのかの理解が必要。窓口、情報の充実。
		高齢者に対するサービスはある程度充実していると思うが、子育て支援に対するサービスは不足している。今回のコロナの蔓延で子どもを預けられず仕事を休まざるを得ない事例や学校の休校で授業が出来ない状況の解決出来る方法を進めてほしい。
		子どもの虐待をなくしてほしい。地域の日や行政の目でしっかり見て二度と中鶴の事件のような悲しい出来事が起きないようにしてほしい。
		市のホームページ等を更に活用し福祉情報の展開を推進する。

性別	年齢	内 容
男性	50～59 歳	プライベートな問題も含まれるのでどこまで踏み込むか難しいところもありますが、援助を施す側も受ける側も無理の無い活動にすることが大事だと思います。
		福祉には関係ありませんが、衛生面でゴミを出すときのネットをかけるのではなく、ゴミを入れる柵を設置して頂ければカラスがつつく事なく散らばらないのでは。
	60～69 歳	「市政だより」など情報発信の内容の特集を増す。回覧板での町内発信（町内会に参加していない方への対応）。コロナ禍で人との接触が少なく町内活動もできていない。
		現在の中間市で十分な福祉が受けられるか心配である。高齢化、医療（費）等。中間市で生まれ育ち、炭鉱が閉山、働く場所が北九州市、福岡市になり、中間市で生活（働く、住む）する事が可能な人は少なく、福祉には多額の費用、中間市のみでは無理では？
		高齢者が増える中で自治会も高齢者が増え活動が難しい。自治会の有り方を見直し、中間市全体の情報を公開して、上手くいっている自治会を参考にできたらいいと思います。
		地域振興券の割引高をもっと高くして（30%）地域を活性化したらどうか。中間市に30年以上住んでいる人に地域振興券（10万円）を配ったらどうか。中間市で子どもが3人目から月10万円振興券がもらえる、5歳まで。
		入浴施設を考えてほしい。一人暮らしが今後多くなると必然と思う。光熱費に余裕がない。路線バス、福祉バスの充実を図ってほしい。
		福祉バスの運行をお願いしたい。
	70 歳以上	3回目のワクチン摂取を早くしてほしい。
		まず隣組に入会し、回覧板等で声かけして安否の確認を心がける。
		市立病院閉鎖については賛成だったが、市の中核をなす市立病院は絶対に必要だと思う。救急など市民が安心できるよう、市役所より必要なのではないかなと思う。
		中間市には警察署がありません。土地を持っている所は草木が始末されていません。小中学生が登下校し暗闇で事件がなければよいといつも思います。安全で安心して生活出来る中間市になって下さい。市立病院がないなど市民にとって大問題です。私も子を昨年亡くしました。中学校からのいじめを引きずって不安症を抱えて仕事もしてまいりました。体の病気と違い、精神の病気は生涯消えることはありません。人を不幸にさせること、いじめること、親の愛情不足と私は思います。
		中間市全体を変えなければいけない。
		定年退職後、働きたい人の窓口が狭すぎる。職種、時間を検討し、職場の環境を整え、労働意欲を増すことが必要。高齢者にとってインターネット社会は利用しにくいものである。いくら便利でも使い方が分からないでは価値を見出せない。公民館等を利用し、若い人が指導することでもっと年配者もいきいきとするのではないかな。コロナ情報やその他を知らせる宣伝カーによる伝達、スピーカーの声はほとんど聞き取れない。本当に伝える気があるのなら回覧板で回して来る方がまだ伝わる。再生可能エネルギーを利用している事をアピールするため、中間市役所は太陽光パネル発電や小型水車を回して自家発電で役所の使用電力を賄うべきである。

性別	年齢	内 容
男性	70 歳以上	福田市長の行動力を評価しています。今までの中間市から変わって明るい楽しい町づくりを指向すべきと考えます。
女性	20～29 歳	高齢者率の高い市であることは分かっているので若い人達を市に呼び込むことは第一課題のような気がします。若い人達が出ていかないためには子育て世代への支援の充実が大切だと思います。アンケートでは子育て支援に丸は付けていないが、相談窓口の充実、住民の協力のためには様々な世代が住んでいることが大前提だと思う。
	30～39 歳	<p>コロナのせいでもあるのですが、「子育ての孤独」はあったのでそれがなくなればと思います。いつでも相談しても大丈夫とは言ってくれますが、その一步が難しい。人によってもあるのでその距離感も難しいと思います。一人目は特に子育てに不安を感じるなと思いました。</p> <p>市として頑張りたいことは分かりますが、情報把握者の差も激しく、知りえない事が多すぎる。相談したり集まり合ったり、市が自由に使える公開のスペースが少なすぎるので集まりにくい。手順を必ず踏まないといけない作業などをチャート作成し、万人が分かるようなシステムも必要だと思います。コロナの件でもそうですが市役所と保健センターで情報共有されていないのであれば、統括した市職員など関係なく第三者の方にシステムとして作ってスムーズにしても良いと思う。手順も多かったり聞かないと分からない説明だったり、些細なことでつまづくレベルの事を改善願います。</p> <p>自治会に入っていたが会長、役員が気に入らず昨年やめました。ずっと同じ方が何年も役をされていて会のお金の使い方など不公平な事実があるようです。日頃使っていない私たちにも公民館の掃除が回ってくる等、不満がありやめました。自治会で活動するよりも手が届く隣やご近所の方々と助け合った方が良いと考えています。また近所は子どもが少なく高齢者も多いです。登下校時の見守りは元気なおじいちゃんおばあちゃんがしてくれたら助かると思います。私の地域の旗振り、見守りは父兄で仕事がある人にとっては苦痛です。ぜひ改善していただきたい。</p>
	40～49 歳	トップに立つ人の考え方や行動が全く伝わってこないため正直何も期待していない。真剣に変えていきたいのなら身近な事から市民に伝わるような言動、行動を示してほしい。参加したいと思えるような活動を考えないと。
		まずは市民ファーストで考えて頂きたい。活動も積極的にアピールし、受け身な状態のイメージが強い役所の体制を見直してほしい。中間市にしかできない、中間市に住んでいないと得られないアイデア（案）を求めます。中間市の対応は他市に比べていつも一歩遅く感じます。
		高齢者がいる家への訪問などで困りごとを聞いてくれる機会があれば有難いです。
		<p>高齢者が安心して暮らせる環境に力をいれてほしい。施設に入りたくても入れない環境の人でも自宅で安心して過ごせるようなサービス体制やそういう人たちのサポートを行う民間企業への助成。住みやすい町として全国からも注目されるほどの町にしてほしい。</p> <p>市長頑張れ。いつも色々大変だと思うけど市長のおかげで中間市は良くなっていると思う。</p>

性別	年齢	内 容
女性	40～49 歳	独居高齢者が多く家族が遠方で支援できないという方が多く見られます。地域で住み慣れた自宅のできる所まで生活ができるように地域ボランティアの育成をしていただきたいと思います。
		野良猫が多いので保護や避妊手術など地域で活動してはどうかと思う。
	50～59 歳	スーパーマーケットに行く無料バス、病院に行く無料バス等があると暮らしやすいと思います。
		今の高齢者や子ども達もですが、私たち 50 代の人が高齢になった時も更に住みやすい市であることを願います。
		人口減少が進む中、若者が地元定着したい事業に取り組むべきである。
		地域福祉に関わる人の入れ替えがほとんどなく、権力化して何のための福祉かと疑問を感じます。自己満足で周囲や当人の立場や気持ちを考えず、個人の考えの押し付けをしている人がいる。だから私は近所付き合いから一線をひいています。特定の人が長い期間交代せず長の立場で権力をかざし、周囲を意のままに動かすのが地域福祉でしょうか？
		中間市長は本当に中間市民のことを考えておられるのか疑問に思う。
	60～69 歳	イオン中間店が無くなったのでお年寄りが集まって将棋をしたり、イベント等ができる場所が無くなりましたので他に作って頂きたい。
		プラのごみ収集が月 2 回は少ないと思います。生ごみよりプラの方が多いので週 1 回はプラの収集をしてほしい。
		現在は自立した生活を送っていますが、将来単独世帯になった時のために地域のサークルやボランティア活動の事にもっと関心を持たないといけないなと思いました。県外に住んでいる娘がその地域の子育て支援センターの方々に支えてもらっているの理解（知っている）しているのでとても興味はあります。
		市役所からの放送は音が聞き取りづらいことが多々あります。また市民だよりでの情報だけですとタイムリーとは言えないこともあると思うので、今やっていることやこれから行うことなど LINE を使って情報発信してみると良いのではないかと思います。そうすれば災害が予想されるという時も確実な情報を市民に届けられるのではと思います。
		市役所の駐車場が不便です。行きたくない思いになる。全体的に明るさや活気がどんどんなくなってきて寂しいです。市立病院がなくなったことはショックでした。
		地域に密着したコミュニティバスを走らせる。高齢化のため。
		中間市は高齢者が多く、子どもが少なくなりました。まずは子どもを育てやすい地域にならないと市の発展はありません。小さな頃からボランティアの必要性や障がいを持つ人達と接して身近に感じる事が将来にとってよいかたちになると思います。差別がなくなるとは思いませんが減っていくことを望みます。
		東京のように動物の避妊などの助成金や制度がもっと早く出来ればと思います。まだ少なすぎます。高額すぎます。
	70 歳以上	ボランティア、民生委員の活動内容が分からない部分があるので市の広報等で活動を載せてほしい。中間には大きい病院がない、ぜひ病院を建設してほしい。いろんな面で不自由です。コロナになったらどこに入院していいか？
		一人暮らしの老人が増えています。孤独死のない、皆が助け合って生きていける福祉をお願いします。

性別	年齢	内 容
女性	70 歳以上	安心して子供を産み育てていく仕組みを構築し、若い人がたくさん定住する中間市を作っていただきたいと思います。若い人が増えると税収も増え、市も安定するのではないのでしょうか。
		家に安心安全になる有線のラジオを取り付けて下さい。地域放送は聞こえない。
		高齢者の立場から。頭の中ではぼんやりと理解はしているのですが、自分がその立場になった時、どうすれば良いのだろう？どこに？どうやって？と前に進めない状態です。知らない事ばかりでおろおろするばかりです。私の場合、人から聞いたり市に相談したり、遠回りをしました。日頃から勉強しておくべきだと痛感しました。
		市に電話相談し終わって「電話かけなきゃよかった」といつも思います。知識がない、言葉使いを知らない、わからないのに電話を替わろうともしない。まず市職員全員の勉強会だと思います。特に市民課、税務課、介護保険課の方、笑顔で思いやりの心で接して下さい。
		社会のため、良くなる事柄には協力をしていきたい。

(3) 中間西小学校区

性別	年齢	内 容
男性	40～49 歳	本当に困っている人にはちゃんと調査して必要な支援をするべき。
	50～59 歳	福祉、特に健康推進の方向性において他の市町村のように「中間市営のトレーニング施設（ジム等）の設営」が急務であると考えます。福田市長誕生の際にまずはそれが促進、充実されると期待していただけない残念でならない。
	60～69 歳	高齢者がもっと外出できるようにしてほしい。巡回バス、病気にならない為の運動をする所、公園等に運動ができる器具等を設置してほしい。高齢者が集う場所があればいい。デイケアなどではなく趣味を活かせるなど。
		市役所窓口だけでなく、各家庭訪問などをして地域の現状把握を行い、各活動を皆に知ってもらう事が大切だと思われる（どの家庭も知っている、を目標に）。この意識調査がどう活かされたか市政だよりに載せ、一方通行にならないようにお願いしたい。
	70 歳以上	100 年人生を前にして老人は確実に増えます。各自が自立して少しでも自力で生活出来れば幸いに思います。そのための医療、食事、交通の整備を願います。福祉の町「中間」を願います。
		高齢者にはいろんな技を持った人が沢山います。掘り起こして活動の場を提供すれば活性化が図れ、素敵で中間市になれると思います。高齢者を活用しましょう。
		色々アイデアを出しても市は予算がないという。工夫次第で住みよい町づくりはできるはずだ。職員は市外に住むのではだめだ。市内で市民目線で生活すべきだ。市長も同様。
		中間市に居住して 40 年近くになります。初めてのアンケート依頼に驚きました。アンケートの回答で市政がどう変わるのか分かりませんが、もっとたくさんやるべきだと思います。
		福祉バスの充実。今はどこを走っているのかすら分からない。私の友人も免許を返納している。一時間に一回でもどこを走っているのか通告してほしい。

性別	年齢	内 容
女性	20～29 歳	市民病院など診療科の多い病院が中間市にあれば地域生活が豊かになると思います。また高齢者が多い地域だと思うのでバスの本数を増やしたり、コミュニティバスを活用したりすると住みやすい場所になると思います。買い物をしやすい場所、交通の便が良い場所など住みやすい地域になると若い世代や家族などが増えて活気づくのではないかと思います。住民の意見を反映できる市になればよいなと思います。
	30～39 歳	<p>将来子どもが中間西小学校に通います。運動場の遊具の古さにびっくりしています。交換はしないのですか。あんなに古く危険な遊具で大事な子どもを遊ばせたくないです。けがをしてからでは遅いです。学校も古い。</p> <p>地域福祉と聞けばまず介護の事だと思ってしまうが、自分はまだ子育て中なのでそこまで考えられない。今回のアンケートで介護だけではないのかなと思いました。自分の意見が市政に届くと思うと明るい未来があるのかなと思います。コロナになって全くと言っていいほど学校へ通えていない子を持っていますが、それでも校納金を支払わないと行けない事、不満しかありません。カウンセリングも受け病院も通院したけど合う病院は無いし、学校のカウンセリングも月一回、もう少し対応してほしい。コロナだから、では済まない。</p>
	40～49 歳	数か月前から同居の家族がオムツの支援を受けるようになり、とても助かっています。トイレに行きたいという感覚がなく、足も動かないのでオムツを履かない時に失敗すると下着もズボンもシートも全て洗濯または処分していました。オムツの支援を受けて以前よりはオムツを付ける日が増えました。失敗したときもオムツだけ替えればすむのでとても楽になりました。仕事と住宅で広い所に住むようになったけれど仕事ができる状態ではなくなったのでスーパーや病院が近い所に引っ越したいと考えています。
	50～59 歳	<p>コロナ禍の中オミクロン株が蔓延しています。ワクチン接種が重要視されていますが、中間市は北九州市に比べ接種が遅い気がします。速やかに進めてほしい。</p> <p>行政、市民が協力しあって誰もが安心できる社会づくりが大切だと思います。</p> <p>子どもが大きくなり、退職し、時間に余裕ができれば、そのようなボランティア活動も行いたいと思います。その時に勉強できる場所や案内がすぐ分かるようになっていたら良いなと思う。中間市が良いイメージ、住みやすい場所となりますように。</p> <p>市民プールや新しい図書館、公園など作ってほしい。商業施設を増やす。</p> <p>地域福祉の点で交通機関の充実を求めます。ワゴン型バスなど小型バスを利用して市内の交通網を万遍なく網羅してほしい。免許返納したらとても活動範囲が制限されてしまい、自宅から出る機会も減り、ますます高齢者の老いが進むことになっていると思います。ボランティア活動する人を増やす事も必要だと思いますが、もっと市民が自ら活発に活動できる環境整備に励んでほしい。ボランティア施設や病院を減らす事で市は市民に何を提供しているのか分からない。</p> <p>非課税、課税に関係なく福祉タクシーを充実させてほしい。</p>

性別	年齢	内 容
女性	60～69 歳	ひとり暮らしでも安心して住み続けられる町であることは大切であるし、必要なことだと思います。そのための社会インフラの整備は喫緊の課題です。行政と住民がそれぞれの役割を分担してまちづくりを進める必要がありますが、現在の中間市の市立病院を閉院、中央公民館などの教育施設の廃止、さらには小中学校の統廃合といった公共施設を潰していく乱暴な施策はその地域が果たし、住民がいきいきと暮らしていたインフラの放棄であり、今までのように地域の支え合いがこのような状況下で存続できるものなのか冷静に考えていかなければならないと思います。土建行政の復活を続けるようであれば、そこに健全な地域のコミュニティは根付くことはできないとこの町の将来を案じています。
	70 歳以上	困っていることがあります。野良猫どうにかありませんか。猫のフンを庭にされて困っています。中間市だけで条例を作ればいいのに。今からは年寄りが多くなりますから。
		地域を充実させるには自治会組織の充実が一番重要です。しかし、現実には隣組の組織から脱退者が続出し、自治会の維持が不安視されている状況です。脱退の理由は隣組長の順番が回ってきて組長をしたくないため、脱退するのです。これは高齢者が多くなった事に原因があります。市内各地の自治会も同じような状況だと思います。福祉社会を目指すためにはまず自治会組織の見直し、検討、反省から入っていくべきだと思います。行政の強力な指導が求められています。
		中間の山の上にある家等、昔からの山手は若者が少なく年寄りばかり。山手の道も良くしてほしい。年寄りが集まって運動ができるような遊べる所がほしい。

(4) 中間小学校区

性別	年齢	内 容
男性	20～29 歳	アンケートの質問数を3分の1にしてそれぞれアンケートの発送数は変えない方がみんな最後まで答えてくれますよ。30 問を 1500 人にさせるのではなく、10 問ずつ (問 1～問 10 を 1500 人、問 11～問 20 を 1500 人、問 21～問 30 を 1500 人) 計 4500 人に発送してはどうでしょうか。
		高齢者ばかり住みやすいようにするのではなく、子育て世帯にも援助してほしい。少子高齢化が進行しているのであれば子どもを育てやすくするために中学生までの子ども医療の無料化、給食費の無料化、または半額、ランドセルの支給、図書券の無料配布をしたらいいと思う。一人暮らしの高齢者がいる地域では週に一度安否確認のため行政が電話確認したり、組長や組員に情報提供したりしたらいいと思う。虐待が疑われる時は行政に連絡できるように情報提供したらいいし、意識調査を頻回にして市民の声を聞いて、行政は必ず行動してほしい。住みやすい中間市として有名になってほしい。
	30～39 歳	このアンケートで知った情報が多く、情報発信不足だと考える。「民生委員、児童委員」等も中間市に生まれてから一回も聞いたこともない。行政に対しても中間市の財政についても借金がある事は聞いているが、年間にどの分野にどのくらい使ったかも分からない。情報が分からない。
		ごみ袋が高い。ごみが道路に落ちていて汚い。ガスが高い。水が臭い。返信用封筒にテープを貼って下さい。
	40～49 歳	生活保護不正受給の根絶。税金の正しい使い道。

性別	年齢	内 容
男性	40～49 歳	良い取組みをしていると思うが悪いことをしているイメージが強い。市としてあまり良い市だとは思えません。過去に住民票をもらいに行ったら、全く他人の住民票を渡されました。個人情報扱っているという緊張感を持って仕事をして下さい。
	60～69 歳	コロナ禍ということもあり、難しい課題である。ひとりでは出来ないので賛同してくれる中間市愛好者が増えてくれればと願う。
		何事にもマニュアル通り、それでは解決できず中途半端になりがち、事務的。世の中、個人情報云々とありますが、その場の対応では乗り越えないといけない時があると思います。自分を守る、組織を守るようにしか見えません。
		自分ができそうな福祉活動があった時、無理なく参加できるような仕組みになっていたらいいと思う。出来るときに協力して活動する喜びや充実感が持てればいい。
		身近に不都合なことがないので活動に興味がない。
		中間市にはポンプ場がありますが外から見ただけ。もっと公開してみたらどうですか。
	70 歳以上	このようなアンケートを求める事、そのものが素晴らしいと思います。私自身高齢ですが、できるだけ世の中のために尽くしたいと思っています。
		現在活動されている地域福祉等の一覧表を出してほしい。
		史跡、世界遺産、美の案内の充実。看板（道案内）が少ない。
		車いすで外出しますが道路は危険がいっぱい。付き添いが必須です。大きな意味で福祉の対象と思いますがコロナ患者の方々に医療崩壊していますので余儀なく自宅療養やホテル療養の方々への飲食物、薬等の配給を市が率先して行して下さい。患者の方がスーパーやコンビニに出かけざるをえなくなり市中感染が拡大する原因となります。
		中間市にも大きな病院が必要です。持病のある者として非常に困っている。
		中間市は保護世帯が多いので大変でしょうが、早く住民税非課税の人に一日も早く 10 万円を支給するよう努力して下さい。役所に時々行きますが窓口が合理化されると良いと思います。役場の人は笑顔がなく暗い感じがします。
女性	30～39 歳	高齢者に対する取組みも大切だと思いますが、中間市の若年者層の定住化を促進させるためにも子育て世代への取組みや子育て支援（サポート）の充実をお願いします。福田市長がせっかく中間市を全国に注目されるように取組んであること、高齢化が進む中間市の現状について若い人たちのサポート拡充も進むといいなと思います。
	40～49 歳	相談機関に相談しにいったことがあるが対応があまり良くなかった。事務的な対応、対策などではなく、起こっている問題に対してもっと積極的に関わってほしい（問題解決をしてほしい）。
		単身のお年寄りや体の不自由な方のお世話（相談や声かけ）をして下さり、本当に感謝と尊敬の反面、そこを利用したり、半強制的に選挙の投票を促したり、物品の購入（売りつけ）、口利きの見返りなどが行われているという話を耳にするとがっかりです。素直に存在の有難さを認められるよう是正を求めます。

性別	年齢	内 容
女性	40～49 歳	町のいろんな場所に看板のようなものを建てて相談する電話番号やネットなどのホームページや QR コードなどを記入したものをいろんな場所に置いて、悩んでいる子どもたち（いじめ、虐待、DV など）が一人でも多く「助けて」と言えるようにしてほしい。
	50～59 歳	私たちの住む自治会はかたちばかりで弱者に対して何一つ考えていないように思いますし、不平、不満、不安を頻繁に耳にします。「支え愛、助け愛、触れ合い」ネットワークを立ち上げて間もなく3年目を迎えようとしています。毎月一度手作り新聞を会員約 50 名の皆さまのご自宅にお届けし、状況確認を行っています。皆さま私たちの訪問を楽しみにされていて、私たちもその事が支えとなっています。しかし、このネットワークには資金がないため、会合や新聞作り等は全て代表の自宅で行っています。会員の皆さまのためにもこの活動を続けていきたいと思っています。資金援助の要請など出来ればお願いしたいと思っています。 中間市は少しずつ良い方向に向かっている所以未来は明るいと思います。
	60～69 歳	各自が責任と自覚をもって毎日を過ごしてほしい。
		自分が何をしたいのか何ができるのか分かりません。身体の不自由さもあり、皆の話を聞くだけでもいいのか？私は何をすべきなのか分かりません。
		地域の人達が地域住民を気にかける。そのようなネットワークができれば協議会、市役所などの上から下に降ろす事の真逆で下から上に上げていく方が効果的であると考えます。地域でも個人個人が意見を言える環境作りが必須だと思っています。
		中間市に高齢者や子ども達が安心して住める活動や取組みをやってほしい。
	70 歳以上	独居、高齢者夫婦二人暮らし、認知症の親との二人暮らし、どれくらいの人がいるのか知ってほしい。
		ローカル線を作してほしい（バス）。どこに行くのも徒歩かタクシーです。
		介護保険を使って家の改築、例えばバリアフリートイレの改築等、書類は何が必要であるか揃えるものが一度にできないか、郵送でできる事、車がない人にとっては何度も足を運ぶのは困難、もう少し簡素化できないでしょうか。高齢者が多くなっている現状で何もできないままになっている人がいると思います。
		活動を実施しているが行政の理解と援助がなく、偏見で見て傍観している。協力がほしい。一部の方は理解しているが。
		現在の自治会の参加会員の数が少なく何も活動が出来ないので自治会をやめても生活できるし、会費も出さずに同じサービスが受けられるのであれば個々勝手にやっているのでは横の繋がりは無くなるのは必至だと思います。昔は町内会に入っていないとゴミ出しとか市政だより等も届かず不自由になっていたのが、自治会をやめても生活できるので会員の少ない自治会では思うようには活動できないと思います。
		私の住んでいる地域は 80 才代の方が役員をしているので相談しにくい。役員も 75 才くらいまでにしてほしい。いつも同じ方が何年間もするのではなく考え方が変えて、どんな人でも笑顔で接してほしい。
		私自身 75 才になり、今後どのような人生を送るのか不安になることもあります。明るく前向きに自らを鼓舞する毎日です。子ども達の迷惑にならないよう、地域の方々に助けて頂き、住み続けられればと思っています。地域の方々をお手本に住みやすいやさしい町づくりをお願いします。

性別	年齢	内 容
女性	70 歳以上	税金、水道代、ごみ袋代、高い。
		赤字の中間市で何ができますか？何をやるにも金、理想ばかりでは何もならん。
		知り合いに障がいのある子どもがいて、行政に相談し色々な手助けがあるそうで、今までそういう窓口があることを知らなかったので、中間市の職員の方に助けられていると言われていた。
不明	40～49 歳	精神障がい者です。LGBTQ の一員です。一緒に住んでいるいわゆる一般的なところでいう「夫」にひどいモラハラを受けています。市役所に相談してみました。私は殴られて骨を折られてはいませんが、精神的には DV を受けています。モラハラとはそういう事象ですが、マニュアルによると私の場合は「市役所の考えるモラハラ」には該当せず、職員の方から「我慢して下さい。あとは運動するとか。」と言われました。その段階を越えているから相談しているのです。運動と我慢でなんとかなる時代は終わりました。令和ですよ、市役所の職員の一部の方、勉強して下さい。

(5) 中間北小学校区

性別	年齢	内 容
男性	30～39 歳	人づき合いは苦手なので福祉活動などへの参加は考えていません。一人でもできるような活動があれば参加できるかもしれません。
		地域福祉を含め地域情報の発信が不足していると感じる事が多いです。市政だよりなどの冊子はすでにありますが、もっと身近なコンテンツ、SNS の利用、Twitter、YouTube チャンネル等で積極的な発信をして頂けると市民としてはより情報を身近に感じると思います。ご検討願います。
		福祉の支援は国の制度や既存のサービスがすでに十分提供されていると思う。さらに中間市においては市の財源を圧迫している状況にあるため、サービスの拡充だけでなく廃止についてももっと検討するべきではないかと思う。
	50～59 歳	過去に中間市役所の職員から人権侵害を受けました。病気で生保を受けている最中、担当ケースワーカーの職員から「生保の受給者は信用がないから就職できない」などの発言を受けました。明らかに公務員の倫理規定に反します。
		日本国内外を問わず、よい行政サービスがあればどんどん取り入れてほしい。
		悩み、相談窓口を作してほしい。
	60～69 歳	昨今、大型店舗、24 時間ストアが出来ていますが、車が細い道まで通って困っています。日中、深夜も騒音が多く、搬入車の轟音で目が覚めてしまい健康に支障をきたすこともあるでしょう。せめて搬入車は住宅街の細い道はさけて大きな道を通るよう、市から要望できないでしょうか。また外灯の多さ、明るさにも辟易する事があります。幹線道路は良いにしても民家の細い道はもう少し明るさを下げ、目に優しい色にしていけないでしょうか。人口減少の中、また法令上難しいこともあるでしょうが発展とともに穏やかな町づくりにも目を向けて頂きたいと感じます。
	70 歳以上	みんなが平等にある一定の生活ができるようにしてほしい。
		市立病院、中央公民館廃止。市民の声はどこに。不満な市政だらけ。
		中間市は水巻町と違って色々な援助が少ない。中間市長を代えるべき。もっと市民に給付金や品物を出す援助が必要であると思います。

性別	年齢	内 容
男性	70 歳以上	防災無線の内容がよく理解できない。
女性	20～29 歳	市の地域福祉に関する情報を日々、目にする機会がなく、HP 等ではどこに窓口があるのか分かりづらいので、市民に身近な場所に情報や活動の拠点があるとより親しみが湧くのではないかと思います。
	30～39 歳	生活する上で買い物出来る場所が少なく困っている。車がなくても行けるようにある程度は整えてほしい。
		中間市に一つは総合病院が必要ではないでしょうか。老後、車の運転が難しくなると思うので近くに病院を作ってください。
		中間市は高齢者も多いので紙でのアンケートがメインになるのは分かります。しかしながらこれを集計するのは大変だと思います。せめてマークシートにするなどして集計の手間を少なくしてほしい。理想はオンラインですが。また昨今 LGBTQ が課題になっており、性別欄が「男性・女性」だけなのは、市は関心がないのかなと思えました。
	40～49 歳	コロナ禍で従来行われていた市のイベント等が縮小されており、地域と繋がる機会やボランティアについて学ぶ機会等が減っている。例えばウェブ上で何かを学べる仕掛けや人と人とをつなぐコンテンツ等があると市内でもじわじわと浸透していく一つの方法になりそうな気がする。あとフードバンク（家で不要な食品を預ける）の窓口は夜や土日でも開いていると有難い。例えばさくら館やスーパーマーケットなど。協力したくても平日の日中に窓口に行きづらく残念だと思う。40 代フルタイムで働きながらでも何かできる事があれば協力したいです。
	50～59 歳	食料や物資の支援、電話による悩み相談など SOS センターのようなものを広報で広く市民に知らせ、個人の必要なヘルプを進めてほしい。
		身よりがいない一人暮らしの高齢者が安心して暮らせるように、安否確認等、見守りサービスがあればいいと思う。入院時の手続き、保証人、毎日の安否確認。母子、父子の方が子どもを短時間でも預けられる場所があればいいと思う。
		中間市地域福祉を進めるためや市政行政への怪文書等が一方的にポストに投函されてきますが、市民のための公道を一番に考える方々をお願いしたい事は透明性です。隠されることは市民への裏切りではないでしょうか。
	60～69 歳	コロナ禍で人との距離を取っていかなければならない。友人たちとも会えない今こそ、離れてもお互いの思いやりが大切ではないでしょうか。福祉関係の方々には特に優しい言葉で本当に優しく言って頂くと本当にうれしく思います。
		最近テレビで「ヤングケアラー」としてがんばっている子ども達のことを知りました。また高齢化が進み「老々介護」も他人事ではなくなってきました。本当に困っている人は相談に行く手段もない、声も出せない立場なのかもしれません。今回のアンケートのように郵送でなおかつ分かりやすい簡単な言葉で悩みを解決する方法を教えてもらえたら相談への行動を起こしやすいのではないかと思います。
		大学、大学院などを卒業した若者が中間市に戻ってきて地元で活躍したいと思える魅力的な市になってほしい。優秀な人材が都市圏に流れている。旧態依然とした行政。保守的な枠からはみ出さないよう仕向けているように思う。高齢化しているから仕方がないのかもしれないが、子どもや若者に対しても手厚く援助して「中間に住みたい」と思ってもらいたい。

性別	年齢	内 容
女性	60～69 歳	水巻町にあるみどりんパークのような遊びができる場所があればいいのではと思います。
		中間市立病院が閉院した今、福祉に頼る前に体が悪くなったらこの病院に入院するのか、させられるのか、不安でたまらない。乏しい財政の中、もっとお金に関して締めていくべきところはたくさんあると思う。市役所職員の人数、どうしてこんなに無駄な人数なのか。何も策が出ない若い人達もなっていると思う。これからここにいるしかないが不満だらけ。
	70 歳以上	現在中間市は商業施設の建て替え等で人の動きが低迷しており、活気がありません。寂しい限りです。コロナ禍でもあり季節性もありますが、もっと活気が戻ってくるような取組みを期待しています。
		中間市のことがよく分からない。
		中間市の将来は少子高齢化が一層進むことは否めない。大型商業施設や地域を作り、人集めをしようとしても無駄。費用がかさむからと病院を廃止することは本末転倒。例えば鞍手町などは病院を充実させ建物も新築している。市の行政の方策に問題があるのではないかな。自治体に優秀な人材を揃え、育成し市民を強く牽引していく必要があるのではないかな。筑豊では、県内は愚か全国的に学力レベルが劣っている地域。石炭産業から脱皮しただけでなく住みよい町づくり、一段アップした地域社会にするためにもっと知恵を絞るべき。大型産業の誘致、大型団地の作成など。
		防災、災害時にマイクで何か言っているようだが、何を言っているか聞き取れない。改善してほしい。

(6) 中間南小学校区

性別	年齢	内 容
男性	30～39 歳	防災と子育ての充実。
	40～49 歳	地域の防犯で言うなら車の路駐、これを減らすべく努力すべきでは？障がい者（特に身体障がい）の社会参加を阻むだけではなく、交通事故の誘引にもなる。誰もが住みやすい中間市を作るには、そのステップとして無視してはダメだと思います。見て見ぬふりせずに取組んでほしい。
		中間市においても高齢化が進んでいるのでまず中間市立の病院を再度運営する事を検討し、市民の健康を第一に考えるようにしてみてもどうでしょうか。体が健康でないと心の健康は伴わないと思います。充実した医療を提供する総合病院が必要だと思います。
		中間市役所の窓口職員の態度、対応が悪すぎる。もっと教育、指導が必要なのは。上から目線で態度の悪い職員がいます。
	50～59 歳	ペットボトルの回収をもっと考えてほしい。ニーズがあるのになぜ実行しないのか。
		公共病院の再建。
		子供会や少年野球チームの活動に参加して楽しい思いをたくさんしてきました。これらの活動が継続されることを願っています。
		北九州市と合併してほしい。

性別	年齢	内 容
男性	50～59 歳	地域住民への配慮。困っている人への配慮。以前北九州市との合併を住民投票でやって 8～9 割賛成したが合併されていない。その理由を地域住民へ説明しないとみんな他（地域）へ移住してしまう。市は分かっていますか？なぜ中間市の人口が減ったのか？
	60～69 歳	中間市の現在の地域福祉活動の内容を閲覧できる資料、映像と場所について情報を提供（広報なかま等）していただきたい。
		問 34 に関して最近亡くなったシドニー・ポアチエの映画で白人男性が「人権差別は良くない」が自分の娘の結婚する相手が黒人だった。戸惑い反対するが最後は娘の判断を受け入れるというものだった。運動を起こすほどの人でも現実への対応は難しいという事。つまり状況に対する覚悟と理解、寛容等が要求され、日頃粘り強く合意を形成する事はないが、住人が変わっても新たな代になっても合意形成を維持でき保てるか。単なる善意ではとてももたない。
		問 34 は犯罪の内容によって色々な考えがあって安易に回答できない。
	70 歳以上	高齢者一人暮らしの世帯が毎年増加している。安心安全のため地域ネット回線等で民生委員が組長とコンタクトできるような方策を望む。市内から緊急、お知らせアナウンス放送が家庭内から聞きづらい、何を言っているかよく分からない。
		最近町内でも町内会を退会する人も多いように思います。市政だよりなどで連絡が分かるので果たして組が必要でしょうか。組長さんになる事が結構負担になる人が多いのではないかと思います。
		市立病院などの廃止は少し考えてほしい。赤字を解消する方法を考えてほしい。市でありながら市立病院がない市は最低です。
		自治会活動がしっかりされているところは中間市からの情報伝達もうまく伝わっていて、福祉活動へも充実した事ができているのではないかと思います。
		情報公開が第一です。
		地域福祉を進めるためにはその核となる自治会活動を活性化する事が必要である。そのためにも市は自治会が活動しやすいように資金援助や自治会に入会しない人達に入会を勧めるような手立てが必要であると思う。
		地域福祉計画を作成後は予算をつけて実施して下さい。計画だけで終わらないように。
		中間市に在住して 50 年近くになります。後期高齢者ですがまだ仕事（自営業）をしています。中間市が安心して住みよい町になるように微力ですが協力したいと思っています。
		中間市の少し長期に渡る情報公開をお願いします。
		役所に行くときの交通機関が悪い
女性	30～39 歳	通学路の交通状況に合わせて地面に凸凹等を作ってほしい。事故が何件も起きているため子ども達が危険。
	40～49 歳	一人暮らしの高齢者への支援をもっと充実してほしい。週 3 回のお弁当（平日）ではなく、デイサービス休みの日祝に機能してほしい。家族は日祝も仕事。その間困る。また HP 行きの介助も有料でもいいのでもっと利用しやすいバスなどあれば良い。
		能力や知識のある方は「仕事として」または有給として雇用する。そしてフォローアップ講座等をしていき質の持続を保っていく。

性別	年齢	内 容
女性	40～49 歳	垣生公園の遊具は放置されたままですが、新しくする予定はあるのですか。市民病院がなくなる、小学校が統廃合される話等ありますが、現実的ではないように思います。そもそも遠くなった場合、どうやって通学するのか、交通などの安全面など本当に考えているのかと疑問に思います。市民にとって必要なものがなくなり、中間に住んでいても良いイメージがありません。テレビのニュースに出るのは虐待などの悪いことばかりです。市や児童相談所など本当に機能しているのでしょうか。
		近所との付き合いとありますが、私の住んでいる地区は町内会にも加入されていない方ばかりです。地域の福祉、ボランティア活動も大切ですが、その前に住んでいる人みんな町内会に加入し、顔見知りになるのが先ではないでしょうか。顔を知ると声もかけるようになりますし何かあった時は手助けもできます。地域にある相談機関、私は 40 年ほど中間市に住んでいますが、知らないところばかりです。中間市民の方で全て知っている人の方が少ないのが現実です。今の活動では市民に届いていないのと同じですね。
		私の地域の高齢者の方と話したときに「マックスバリュが無くなって買い物が不便」という声を聞きました。桜台一丁目なのですが上津役のハローデイまで行きは歩いて帰りはタクシーで、という話やコミュニティバスは遠回りするので、ということも聞きました。私たちは車もあるし、ネットスーパーなどどうにでもなりますが、本当に大変な方への支援の充実を真剣に考えてほしいです。個人的には移動販売車、生鮮食品、日用品など曜日を決めて回ると助かる方は大勢いると思います。大きいディスカウントストアより地域のスーパーが必要と思います。
		自治会（町内会活動）の見直し。高齢化に伴い町内会を脱退する方も多くなり、残された人がそれを負担に感じるようなシステムは改善されていくべきだと思います。町内会をなくしても必要な事（外灯の取り換えやごみ収集等）のみ行政がしっかり動いてくれれば問題ないと思います。
		生きた税金の使い方をして下さい。
		相談しても市役所職員の態度が悪い。結局要望を受け入れてくれないのが現実。中間市の人口に対して市会議員、職員の数が多すぎ。考え直せば少し赤字をなくせるのでは？福祉の事も大事かもしれませんが、この時期のコロナ情報が全く届かない。他の市町村と比較すると中間市は遅い。何のための市ですか？職員がそれだけいるのに。
		中間市は交通の便、買い物するお店、福祉サービスなど遅れていると思う。公衆 Wi-Fi を増やし、どんな施設でも Wi-Fi が使えるようにしてほしい。これはきっと強みになり都会からオンラインで仕事が可能の方々が転居してくれるかもしれない。多様性を中間市に取り入れる事でいろんな人々が集まってくるかもしれない。無難な事は誰もがやる事。まだ行っていない事を始める事に中間市の注目度、好感度、素晴らしい人材の獲得につながるかもしれない。
		野良猫をどうにかしてほしい。飼い猫、犬などの放し飼いをきちんとしてほしい。
	50～59 歳	高齢化が進んでいる中でもっと身近な所に入所施設などがあればいいと思うし、介護認定が取れずに在宅でひとりで生活している高齢の方がたくさんいます。いずれ自分達もそうなると思うと老後は不安になります。

性別	年齢	内 容
女性	50～59 歳	今でも十分充実していると思いますが、働いている世代では必要としていないので何があるのかは分かりません。いざ困ったときにサービスが充実していれば助かります。分かりやすくネットを利用してサービスを広げて下さい。
		私の家の周りには年配の方が多く住まれています。コロナの影響で姿を見かけることも少なくなりました。先日孤独死がありました、とても残念です。こういう事が無くなってほしい。
		主に介護関係でお世話になっています。今後も困りごとなどあれば頼らせて頂く事になると思いますのでよろしくお願い致します。
		地域福祉を進める以前に市立病院を存続できないような市の財政をどうにかしないといけないのではないのでしょうか。宮若市がトヨタで潤っているように企業の誘致とか人が集まるような商業施設の建設など。公共交通機関の充実。今の中間市は車がなくては移動できない状態で高齢者の免許証返納をしても移動を困らないようにしてほしい。北九州市と合併しなかった事が今でも悔やまれてなりません。
		地域包括支援センター活動の充実、民間の声掛け、見回り。
		中間市民が安心して生活できるように北九州市に負けないようにサービスを充実させて頂きたい。高齢化が進むと思うので積極的に色々な事業を展開させて頂きたい。中間市に住んで良かったと思うような政策を行って頂きたい。
	60～69 歳	コミュニティバスはこれからも続けて運行してほしい。まだ車を運転出来ますがそのうち免許返納後に利用できればと思います。高齢者の足として地域に根付いてくれる事を願っています。
		まだ地域福祉を利用する立場でもないし、正直なところよく分からない内容が多い。
		高齢者は買い物難民です。中間市にイオンが無くなり困っている方が多数です。市としてもっと早くにイオンの代わりを考えてほしいと思います。
		子ども 110 番があるように高齢者 110 番もあればいいと思います。何かできる方が認知症でも一人暮らしをしている方を見守るなど。ゴミ出し、安否確認、今も行っていますが、何か小さな出来ない事、困っている事を考える事が必要になってきていると思います。
		身近に夜中でも受け入れてくれる救急病院があれば安心です。中間市なのに駅が無人であることが疑問。
	70 歳以上	70 代に入りかけで現在車の運転もでき、不便はありません。早めに返してバス電車を活用したいと思いますが、現実には福祉バスも使っている方を知りません。本当に生活しやすい皆が気軽に手伝い合える中間になってほしい。
		イオン中間市店のような一店舗の中で衣類、雑貨、食品等が買い物できるような店舗が早く出来てほしい。高齢になると運転できなくなり買い物に困っている。
		ホームページ利用しないのでテレビでの情報を利用しているがなかなか更新されていることが少なくもっと早くならないでしょうか。
		一部の人の取組みにならないように発信して頂きたい。
		嘉穂町にあるような内田病院があるといいです。個性的です。地域の年寄りを小型バスで送迎しています。外来リハビリテーションが魅力的です。近かったら毎日でも行きたい所。

性別	年齢	内 容
女性	70 歳以上	今のところ不自由はないがスーパーが早くできてほしいと近くの人と言っています。とくに中間は老人が多いので近くにないと困ります。
		今の人々はあまりにも行政、福祉に頼りすぎるのでは。成人した後は自分自身どうしていくかを考え努力すべきでは。ご近所の方とはお付き合いをしています。が、してあげた事が当たり前になって一人暮らしの方のお世話をすると息子さんに叱られた、とある方がぐちっていました。あまり人の家庭に入るのはどうかと思います。老後一人前に豊かに過ごそうと思えば努力が必要です。乳幼児の虐待はどうにかならないのでしょうか。とても腹が立ちます。市長ももう少しがんばって下さい。何の活動をしているのか分かりません。今の体制は数十年前のものと思っています。どんどん老人が増えています、活動も無理なのでは？
		市政と市民感情の乖離が大きく見受けられる。言っても無駄感がひどい。
		市民病院を建てる。
		自分達の地域の民生委員がどのような仕事をしてどのような相談事をされているのか（固有名詞は出さないで）解りやすく、大雑把で良いので報告（お知らせ）してほしい。そうすれば相談もしやすくなると思います。人材も気さくな人がよいと思います。偉そうな人はだめです。
		中間市が住みよい町にがんばってほしい。
		中間市民としての義務は務めていると思いますが、中間市民の権利を主張しても何も応えてくれない。
		年収が安い人にも入れる老人施設を作ってほしい。

(7) 居住小学校区不明

性別	年齢	内 容
男性	40～49 歳	宮川先生のアニメ、映画化が確定ですけど莫大なお金が必要です。この収益で南スーダンをはじめ世界中の人々たちのためにお金を使います。南スーダンに井戸を掘るきっかけ作りをしています。各スポンサーを探したいです。
女性	30～39 歳	普段の生活では地域福祉について意識する事はほぼ無いです。夫婦2人世帯で県外から転居してきたため、地域とのつながり、活動なども縁がないので、どういう福祉活動やサービスがあるのか分かりません。無理のない範囲で地域の役に立てることがあるなら協力したい気持ちはあるのですが。今まで地域の活動等に参加した経験もほぼ無いので、そういう人でも参加協力しやすい活動があればその情報を発信してほしいと思います。
	60～69 歳	プラごみの回収を毎週行ってほしい。保育園児が送迎バスに取り残された事故が二度と起きないように指導、教育、支援をもっと行ってほしい。特に子どもの虐待が多く、腹立たしく辛い気持ちになる。地域や社会全体で特に高齢者の役わりが必要だと思う。中間イオンの解体工事は粉塵対策ができておらず、行政は厳しく指導してほしい。また地域の高齢者や買い物弱者に対して支援のないまま工事だけ許可では不十分だと思う。ずっと住み続けるためには総合病院は絶対必要と思うが、このままの状態なら中間市に住み続けることは無理、移住を考えている。
		回答しながら知らなかった事をたくさん知る事ができました。こういう機会で勉強していきたいと思いました。今は詐欺っぽいDMも多い世の中ですが「市役所」からの封書に安心して回答しました。

性別	年齢	内 容
女性	60～69 歳	太賀団地も高齢化が進み、病院や買い物に不便を感じています。近くにそういう施設ができればと思います。
	70 歳以上	まずは近所の人が挨拶し声かけすることです。以前中間公民館でバスで歩く会がありましたが、そういうのがあると出かける楽しみができます。 近所に郵便ポストがない。中間市役所まで歩いて行けない。地域活動は色々あるだろうが難しいと思う。
不明	不明	施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインなどの積極的活用を進める必要があると考える。
		自分自身、現在は地域に貢献できていないが退職後は資格を活かしボランティア活動を、と節に思っていますがボランティア活動実施にあたり手続きが色々あると聞いておりますが、活動がスムーズにできるようになる事を願いたいものです。

第3章 調査票

中間市の地域福祉に関する意識調査

【ご協力をお願い】

市民の皆様には、日頃から市政に関してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

近年、少子高齢化の進行、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加、孤立死、虐待など、多様な問題が増加しており、中間市もその例外ではありません。そのような中、誰もが住みなれた地域で、安心して暮らせるまちをつくるためには、地域住民が相互に支え合うしくみを共に考え、進めていく必要があります。

このアンケートは、市内にお住まいの20歳以上の方から2,500人を無作為に選び、調査票をお送りしています。地域における暮らしや地域福祉についてのご意見、地域福祉活動への参加意向などをお尋ねし、今後の中間市の地域福祉を推進するための貴重な資料とすることを目的としています。調査票に住所や氏名を書く必要はありません。ご記入いただいた調査票はすべて統計処理し、本調査以外の目的に使用することはありません。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、皆様のご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

令和4年2月

中間市長 福田 健次

【ご記入をお願い】

1. ご回答は、必ず宛名のご本人がご記入ください。何らかの事情でご本人のご回答が難しい場合は、ご家族またはご本人の日常のことをよくわかっている方がお手伝いください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に「○」をつけてください。「その他」にあてはまる場合には、() 内に具体的な内容をご記入ください。
3. 設問によってご回答いただく方が限られる場合がございます。ことわり書きや矢印に従ってご回答ください。特にことわりのない場合は次の設問にお進みください。
4. ご回答が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて2月18日（金）までにご投函ください。
5. ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

中間市保健福祉部 福祉支援課 福祉政策係
電話：093-246-6270 FAX：093-244-0579

調査にご協力いただいているあなたご自身のことについて

問 1 あなたの性別をお答えください。【○は1つだけ】

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問 2 あなたの年齢をお答えください。【○は1つだけ】（令和4年2月1日時点）

1. 20～29歳	3. 40～49歳	5. 60～69歳
2. 30～39歳	4. 50～59歳	6. 70歳以上

問 3 あなたの職業をお答えください。【○は1つだけ】

1. 会社員または公務員	4. 学生
2. 自営業（農林漁業を含む）	5. 無職（家事専業を含む）
3. パート・アルバイト・フリーター	6. その他（ ）

問 4 あなたの世帯構成をお答えください。【○は1つだけ】

1. ひとり世帯	4. 三世帯世帯（親と子と孫など）
2. 夫婦のみの世帯	5. その他（ ）
3. 二世帯世帯（親と子など）	

問 5 あなたがお住まいの小学校区をお答えください。【○は1つだけ】

1. 底井野小学校区	4. 中間小学校区
2. 中間東小学校区	5. 中間北小学校区
3. 中間西小学校区	6. 中間南小学校区

問 6 現在の場所での居住年数を教えてください。【○は1つだけ】

1. 5年未満	2. 5年以上10年未満	3. 10年以上15年未満	4. 15年以上
---------	--------------	---------------	----------

問 7 現在の場所に住み続けたいと思いますか。【○は1つだけ】

1. 住み続けたいと思う	2. 住み続けたいと思わない	3. わからない
--------------	----------------	----------

地域生活について

問 8 あなたは、現在どの程度近所付き合いをしていますか。【○は1つだけ】

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. とても親しく付き合っている | 3. 付き合いはしているがそれほど親しくはない |
| 2. 親しく付き合っている | 4. ほとんどもしくは全く付き合っていない |

問 9 あなたの近所付き合いに対する考え方は、次のどれに近いですか。【○は1つだけ】

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 親しく相談したり助け合ったりするのは当然である |) |
| 2. 地域で暮らすためには必要であると思う | |
| 3. わずらわしいことが多いので、あまりしたくない | |
| 4. なくても困らないので、したくない | |
| 5. その他（ | |

問 10 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域や隣近所からどのような手助けをしてほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 7. 短時間の子どもの預かり |
| 2. 話し相手や相談相手 | 8. 短時間の高齢者などの預かり |
| 3. 買い物の手伝い | 9. 緊急時の手助け |
| 4. 家事の手伝い | 10. その他（ |
| 5. 食事の差し入れ | 11. 特にない |
| 6. 通院など外出の手伝い | |

問 11 隣近所に、高齢者や障がいのある人の介護、子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 7. 短時間の子どもの預かり |
| 2. 話し相手や相談相手 | 8. 短時間の高齢者などの預かり |
| 3. 買い物の手伝い | 9. 緊急時の手助け |
| 4. 家事の手伝い | 10. その他（ |
| 5. 食事の差し入れ | 11. 特にない |
| 6. 通院など外出の手伝い | |

問 12 あなたがお住まいの地域の暮らしやすさ（満足度）はいかがですか。

【それぞれの項目について○は1つだけ】

	満足	まあまあ満足	普通	やや不満	不満	わからない
①近所との付き合い	1	2	3	4	5	6
②自治会の活動	1	2	3	4	5	6
③地域の福祉・ボランティア活動	1	2	3	4	5	6
④保健・福祉の情報提供、相談体制	1	2	3	4	5	6
⑤買い物などの便利さ	1	2	3	4	5	6
⑥交通などの便利さ（公共交通機関、道路状況）	1	2	3	4	5	6
⑦地域の防災体制	1	2	3	4	5	6
⑧地域の防犯体制	1	2	3	4	5	6

問 13 あなたは、地域生活の中で起こる問題に対して、住民同士の自主的な協力関係が必要だと思いますか。【○は1つだけ】

1. 必要だと思う	2. 必要だと思わない	3. わからない
-----------	-------------	----------

次のページ 問 13-3 へ

→【問 13で、「1. 必要だと思う」とご回答された方のみお答えください】

問 13-1 地域の人たちが協力して取り組む必要があるものは、どれだと思いますか。

【あてはまるもの全てに○】

1. 高齢者世帯への支援	5. 青少年の健全育成への支援
2. 障がいのある人への支援	6. 災害時の助け合い
3. 子育て世帯への支援	7. その他（ ）
4. 健康づくりへの支援	

【次の問 13-2 も続けてご回答ください。】

問 13-2 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、中間市にどのような支援に取り組んでほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

1. 地域の人々が知り合う機会を増やす
2. 支え合う地域づくりに取り組む組織づくり
3. お互いの人格を認め合いながら、ともに生きる地域づくり（まちづくり）に関する意識啓発をする
4. 自治会の活動やボランティア活動への参加促進や活動支援
5. 地域で活動する様々な団体同士の交流を進める
6. その他（ ）
7. 特にない

【前のページ 問 13 で、「2. 必要だと思わない」とご回答された方のみお答えください】

問 13-3 地域住民同士の協力関係は必要だと思わない理由は何ですか。【○は1つだけ】

1. 他人とのかかわりを持たない、自分だけの静かな暮らしを求めているから
2. 個人の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから
3. 住民同士の協力活動には期待していないから
4. 友人、知人との結びつきがあれば十分であるから
5. 地域社会の問題は、市役所など行政が全面的に対応すべきであるから
6. その他（ ）

地域活動への参加について

問 14 地域の活動で過去3年間に参加したことがあるものを選んでください。
【あてはまるもの全てに○】

1. 盆踊りや公民館活動、サロン活動など自治会での活動
2. 学校・PTA・子ども会などの活動
3. 青少年の課外（学校以外の）活動
4. 老人クラブでの活動
5. 地域団体（民生委員や交通安全協会など）での活動
6. スポーツ・レクリエーション団体活動
7. ボランティアやNPO活動※など
8. 社会福祉協議会での活動
9. その他（ ）
10. 参加していない

※非営利で社会貢献活動や慈善活動を行う団体の活動

問 15 地域活動に参加する際に支障になること、又は参加できない要因となっていることはどんなことですか。【○は1つだけ】

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. 身近に団体や活動内容に関する情報がないこと | |
| 2. 身近に一緒に参加できる仲間がないこと | |
| 3. したい活動はあるが、家族や職場の理解が得られないこと | |
| 4. 活動する時間がないこと | |
| 5. 活動によって得られるメリットが期待できないこと | |
| 6. 全く興味がわからないこと | |
| 7. その他（ | ） |
| 8. 支障はない | |

問 16 ボランティア活動をするとしたら、何が動機になりますか。【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 困っている人を助けたい | |
| 2. 地域や社会をよくしたい | |
| 3. 自分の技術、能力、経験を活かしたい | |
| 4. 新しい人と出会いたい | |
| 5. 新しく充実できる体験をしたい | |
| 6. 就職や進学に有利になるようにしたい | |
| 7. 自分のやりたいことを発見したい | |
| 8. その他（ | ） |

問 17 次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に、過去3年間に参加したことがありますか。【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. 児童福祉・子育て支援（託児・子育て相談や子育てサークル支援など） | |
| 2. 青少年健全育成（悩み相談、子ども会やスポーツ団体等への協力など） | |
| 3. 防犯（登下校時の子どもの見守り、防犯活動など） | |
| 4. 高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問など） | |
| 5. 障がい者福祉（手話や音読・点字訳、外出支援、施設訪問など） | |
| 6. その他（ | ） |
| 7. 参加していない | |

問 18 今後、次のような福祉に関わるボランティアやNPO活動等に参加したいと思いますか。(現在参加している活動を継続する場合も含みます)【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. 児童福祉・子育て支援(託児・子育て相談や子育てサークル支援など) | |
| 2. 青少年健全育成(悩み相談、子ども会やスポーツ団体等への協力など) | |
| 3. 防犯(登下校時の子どもの見守り、防犯活動など) | |
| 4. 高齢者福祉(声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問など) | |
| 5. 障がい者福祉(手話や音読・点字訳、外出支援、施設訪問など) | |
| 6. その他() | |
| 7. 参加したくない | |

→【問 18で、「7. 参加したくない」とご回答された方のみお答えください】

問 18-1 参加したくないのはなぜですか。【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 福祉活動に関心がない | 6. 参加するきっかけがない |
| 2. 時間的に余裕がない | 7. 家族等の理解・協力が得られない |
| 3. 気恥ずかしい | 8. 活動に活かせる知識・経験がない |
| 4. 活動に関する情報がない | 9. 健康上の理由でできない |
| 5. 一緒に参加する仲間がいない | 10. その他() |

問 19 福祉に関わるボランティア活動等をもっと盛んにするために、どのようなことが必要だと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1. 活動に関する情報 | 6. 活動の場所や機会 |
| 2. ボランティア養成講座等の人材育成 | 7. 活動団体間の交流の機会 |
| 3. 活動資金の助成 | 8. 講演会やセミナー等による啓発 |
| 4. 活動に関する相談窓口 | 9. その他() |
| 5. ボランティアをする人と受け手とを結びつける調整役 | |

問 20 ボランティア活動に参加するための窓口を知っていますか。【○は1つだけ】

また、「1. 知っている」とご回答された方は()にその窓口をご記入ください。

- | | |
|-------------|---------|
| 1. 知っている() | 2. 知らない |
|-------------|---------|

福祉サービスについて

問 2 1 あなたは現在、日々の生活においてどのような悩みや不安を感じていますか。

【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 自分や家族の健康に関すること | 8. 隣近所との関係に関すること |
| 2. 自分や家族の老後に関すること | 9. 住宅に関すること |
| 3. 生きがいに関すること | 10. 地域の治安に関すること |
| 4. 子育てや教育に関すること | 11. 災害時の備えに関すること |
| 5. 介護に関すること | 12. 人権問題（差別や偏見）に関すること |
| 6. 経済的な問題に関すること | 13. その他（ ） |
| 7. 仕事に関すること | 14. 特にない |

→【問 2 1 で、1～13 のいずれかにご回答された方のみお答えください】

問 2 1 - 1 悩みや不安について、誰に、もしくはどこに相談していますか。

【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 家族・親族 | 8. 子育て支援センターなど交流の場 |
| 2. 近所の人 | 9. 社会福祉協議会 |
| 3. 知人・友人 | 10. 保育所、幼稚園や小・中学校など |
| 4. 職場の同僚 | 11. 福祉サービスの事業所 |
| 5. 市役所などの行政窓口 | 12. 医療機関（医師・看護師等）や薬局（薬剤師） |
| 6. 民生委員・児童委員 | 13. その他（ ） |
| 7. 地域で活動している自治会の役員
など | 14. どこに相談したらよいかわからない |
| | 15. 相談できる人はいない |

問 2 2 地域にある様々な相談機関を知っていますか。【知っているもの全てに○】

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 市役所 | 6. 障害者相談支援センター |
| 2. 保健所（保健福祉環境事務所） | 7. 子育て支援センター |
| 3. 社会福祉協議会 | 8. 市民生活相談センター |
| 4. 地域包括支援センター | 9. その他（ ） |
| 5. 居宅介護支援事業所（ケアマネジャー） | 10. どれも知らない |

問 23 あなたが最適な福祉サービスを安心して利用するためには、中間市にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

1. 相談窓口を充実し、適切な対応やサービス選択の支援ができる体制を整える
2. 福祉サービスに関する情報提供を充実する
3. 福祉サービスに関する苦情や事業者とのトラブル解決の支援体制を整える
4. 福祉サービスの内容を評価する仕組みを整える
5. 行政の情報公開を進める
6. 市民が福祉に関わる法律や制度を学習できる機会を増やす
7. 代理行為の制度の充実など福祉サービス利用者の権利を守る仕組みをつくる
8. その他（ ）
9. 特にない

災害時の対応について

問 24 地震や風水害などの災害に対してどのような備えをしていますか。
【あてはまるもの全てに○】

1. 水や食料などの非常食を備蓄している
2. 避難場所や集合場所などについて、家族で話し合っている
3. 近所同士で、いざというときの助け合いのための話し合いをしている
4. その他（ ）
5. 特に何もしていない

問 25 あなたの地域における災害時の避難場所を知っていますか。【○は1つだけ】

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 26 あなたの自治会には自主防災組織があることを知っていますか。【○は1つだけ】

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 27 あなたは災害（地震や水害）発生時に避難することができますか。【○は1つだけ】

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 一人で避難することができる | 3. 避難することは難しい |
| 2. 避難するには手助けが必要である | （理由： ） |

福祉施策全般について

中間市には、地域ごとに「民生委員・児童委員」がいます。「民生委員・児童委員」は、社会奉仕の精神をもって、誰もが安心して暮らすことができるように、日常生活の悩みや心配ごとの相談、支援が必要な方への訪問活動など様々な福祉活動を行っています。

問 28 あなたがお住まいの地域を担当している民生委員・児童委員（主任児童委員を含む）を知っていますか。また、民生委員・児童委員の活動内容を知っていますか。【○は1つだけ】

1. 担当・活動内容とも知っている
2. 担当が誰かは知っているが、活動内容はわからない
3. 担当が誰かはわからないが、活動内容は知っている
4. 担当・活動内容とも知らない

中間市には、地域福祉を推進するために、ボランティア活動の組織化や支援、福祉に関する広報活動、福祉に関する学習機会の提供などを行う「中間市社会福祉協議会」があります。

問 29 中間市社会福祉協議会を知っていますか。【○は1つだけ】

1. 名前も活動内容も知っている
2. 名前は聞いたことはあるが、活動内容はわからない
3. 名前も活動内容も知らない

問 30 現在、中間市社会福祉協議会で行っている次の事業を知っていますか。

【知っているもの全てに○】

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 小地域ネットワーク活動の推進※ | 7. ふれあい・いきいきサロン／子育てサロン |
| 2. 共同募金（赤い羽根募金） | 8. 生活福祉資金の貸付（低所得者等への貸付） |
| 3. 小・中学生への福祉教育 | 9. 市民後見人の養成研修 |
| 4. 心配ごと相談（無料法律相談など） | 10. 健康運動の指導 |
| 5. ボランティア活動の育成 | 11. 車いすの貸出し |
| 6. 日常生活自立支援事業 | 12. どれも知らない |

※地域の中で高齢者などを見守る体制をつくるなど、住民主体の支え合いの活動を支援する事業です。

問 3 1 中間市社会福祉協議会は、様々な地域福祉活動を行っています。中間市社会福祉協議会の活動として、今後、充実してほしいことがありますか。【めてはまるもの3つに○】

1. ボランティア活動等への参加促進や活動支援
2. 市民による身近な支えあい活動への支援
3. 福祉に関する情報提供や相談対応
4. 認知症や知的・精神障がい等により判断能力が不十分な人への日常生活支援
5. 住民や小・中学生を対象とした福祉教育
6. その他（ ）
7. 特にない

問 3 2 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係について、あなたのお考えに最も近いものは何ですか。【○は1つだけ】

1. 社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない
2. まず行政が実施し、できない場合に住民が協力していくべきである
3. 福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合いともに取り組むべきである
4. まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである
5. その他（ ）

問 3 3 今後、中間市の地域福祉の充実を図るためには、どのような施策に優先的に取り組んでほしいと思いますか。【○は1つだけ】

1. 自治会を基盤とした地域の支え合いのしくみの強化
2. ボランティアの育成と活動の促進
3. 身近なところでの相談窓口の充実
4. 福祉サービスに関する情報提供や案内の充実
5. 誰もが、安心して生活が続けられるための在宅サービス提供や入所施設の整備
6. 認知症や知的・精神障がい等により判断能力が不十分な人への日常生活支援の充実
7. 住民や小・中学生への福祉教育の充実
8. 人権を尊重する、人と人とのつながりを大切にすることへの啓発
9. いじめや虐待を防止するためのしくみづくり
10. 子育て支援の充実
11. その他（ ）
12. 特にない／わからない

中間市の地域福祉に関する意識調査結果報告書

令和4年3月

◆発行 福岡県中間市
〒809-8501 福岡県中間市中間一丁目1番1号
事務局：福祉支援課 福祉政策係
TEL 093-246-6270
FAX 093-244-0579
